

第2章 子育てと教育について

1 性別役割意識

問3 あなたは、子どものしつけや教育についてどのような考え方をお持ちですか。
 (ア)から(エ)の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。
 ※現在お子さんのいらっしゃる方も、考え方をお答えください。

<全体の結果>

(ア)から(エ)の意見に対して、「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した人を『賛成派』とし、「どちらかといえば反対」または「反対」と回答した人を『反対派』とする。

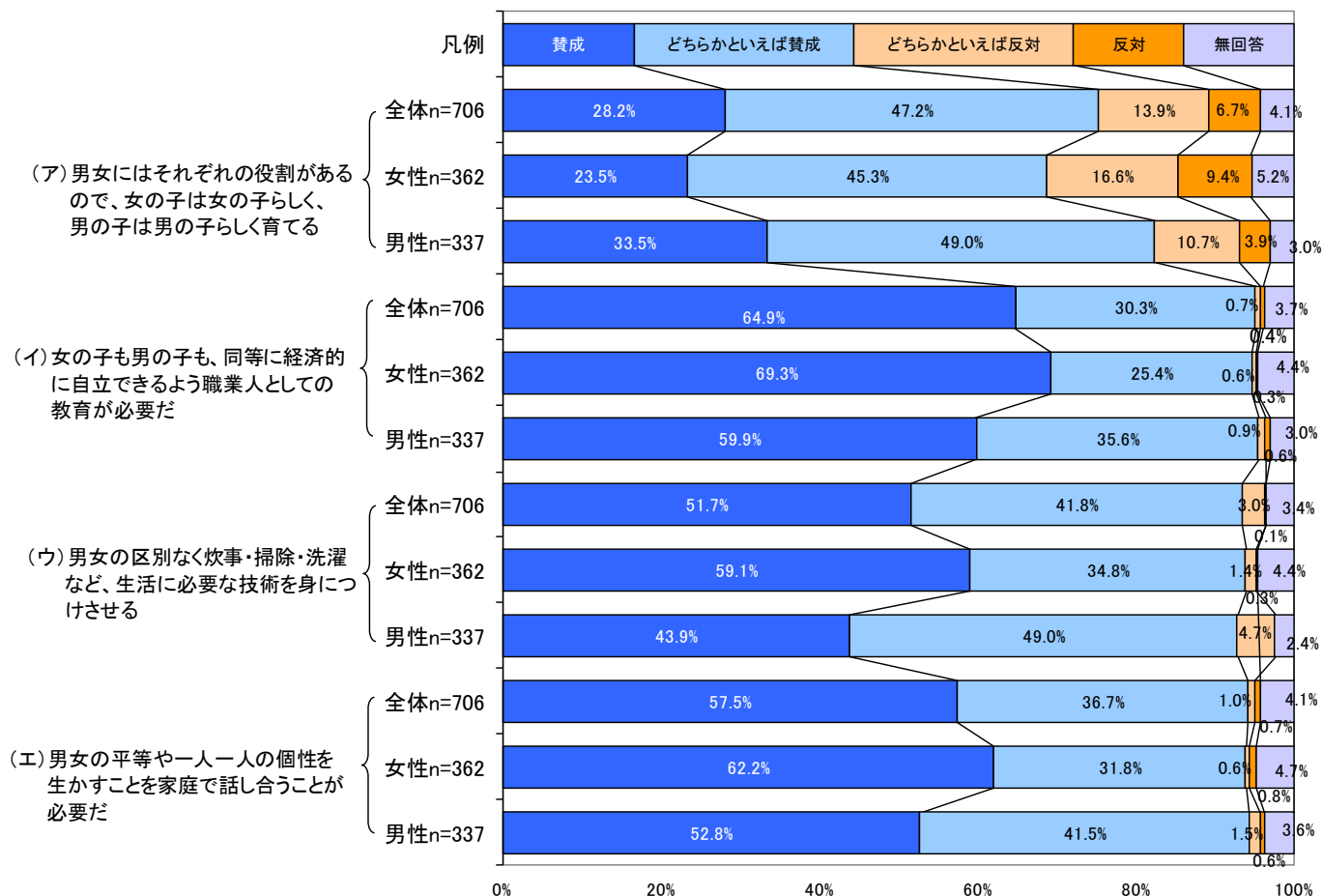
(ア)から(エ)の意見のうち、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』の割合は、「(イ)女の子も男の子も、同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」の95.2%が最も高く、これに「(エ)男女の平等や一人一人の個性を活かすことを家庭で話し合うことが必要だ」の94.2%、「(ウ)男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」の93.5%が続いている。

一方、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対派』の割合が最も高いのは、「(ア)男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」の20.6%となっている。

つまり、(イ)(ウ)(エ)の男女同等や平等、区別ない教育やしつけを認める意見については『賛成派』の割合が90%を超えているが、「女の子らしく、男の子らしく育てる」という意見については『賛成派』の割合が70%台を占めているものの、『反対派』の割合も20%あり、考え方が分かれている結果となっている。

	合計	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	無 回答
(ア) 男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる	706	199	333	98	47	29
	100.0	28.2	47.2	13.9	6.7	4.1
(イ) 女の子も男の子も、同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ	706	458	214	5	3	26
	100.0	64.9	30.3	0.7	0.4	3.7
(ウ) 男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる	706	365	295	21	1	24
	100.0	51.7	41.8	3.0	0.1	3.4
(エ) 男女の平等や一人一人の個性を生かすことを家庭で話し合うことが必要だ	706	406	259	7	5	29
	100.0	57.5	36.7	1.0	0.7	4.1

■性別にみた「性別役割分担」



<前回との比較>

平成23年調査は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらともいえない」「どちらかといえば反対」「反対」の選択肢となっている。このため前回の調査では「どちらともいえない」の割合がある程度高くなっていたが、今回は、この選択肢がないことから、その分、比較的明確に「賛成」と「反対」の意思が示された結果となっている。

項目	調査実施年	n	賛成	どちらともいえない	反対	無回答
(ア) 男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる	H28年全体	706	75.4	—	20.6	4.1
	H23年全体	787	65.8	23.9	8.4	1.9
(イ) 女の子も男の子も、同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ	H28年全体	706	95.2	—	1.1	3.7
	H23年全体	787	85.7	10.9	1.7	1.7
(ウ) 男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる	H28年全体	706	93.5	—	3.1	3.4
	H23年全体	787	86.3	10.0	1.7	1.9
(エ) 男女の平等や一人一人の個性を生かすことを家庭で話し合うことが必要だ	H28年全体	706	94.2	—	1.7	4.1
	H23年全体	787	85.6	12.1	0.7	1.8

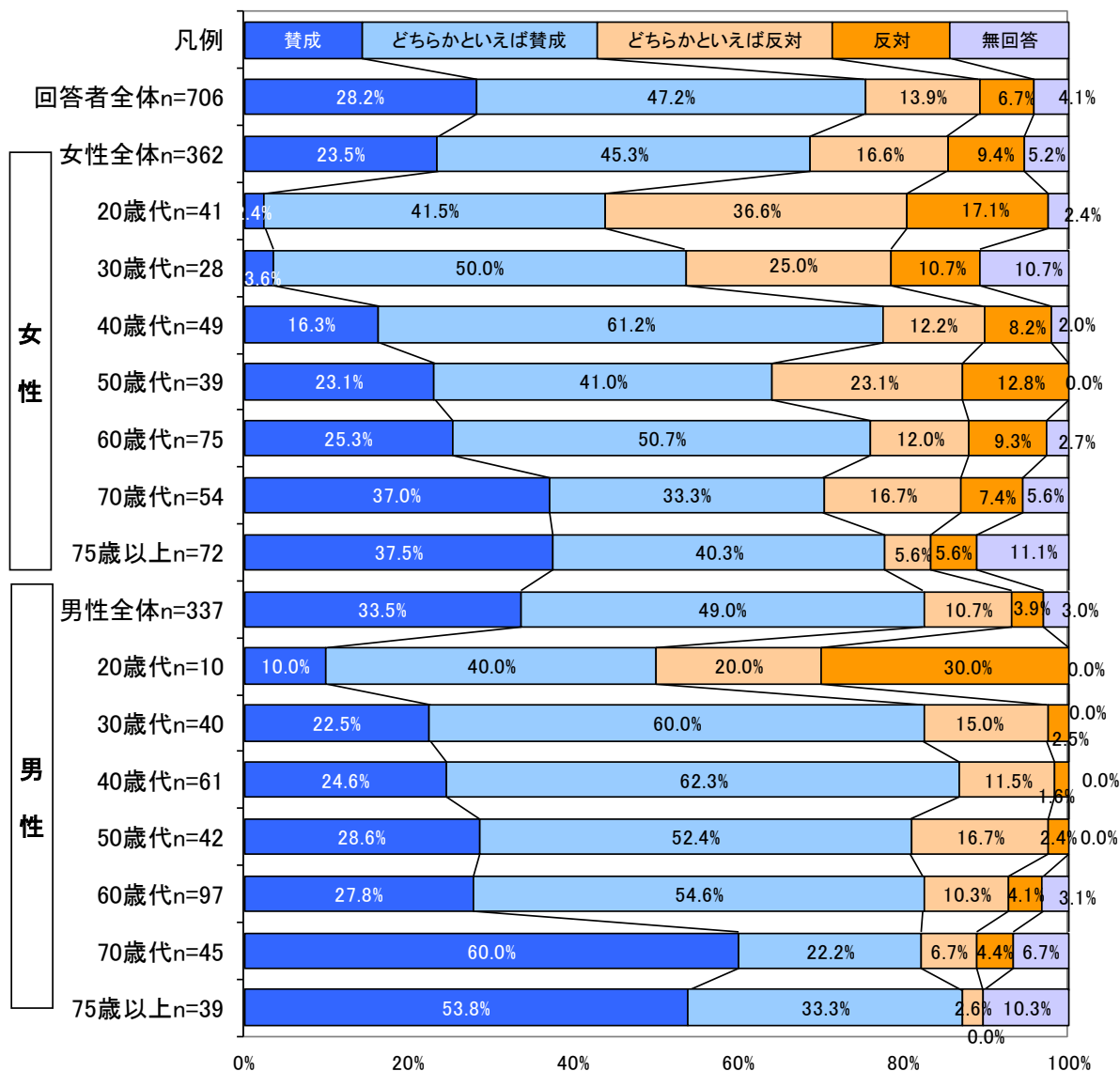
※平成23年調査は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらともいえない」「どちらかといえば反対」「反対」の選択肢となっている。

<性別及び性・年代別にみた結果>

「(ア)男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」

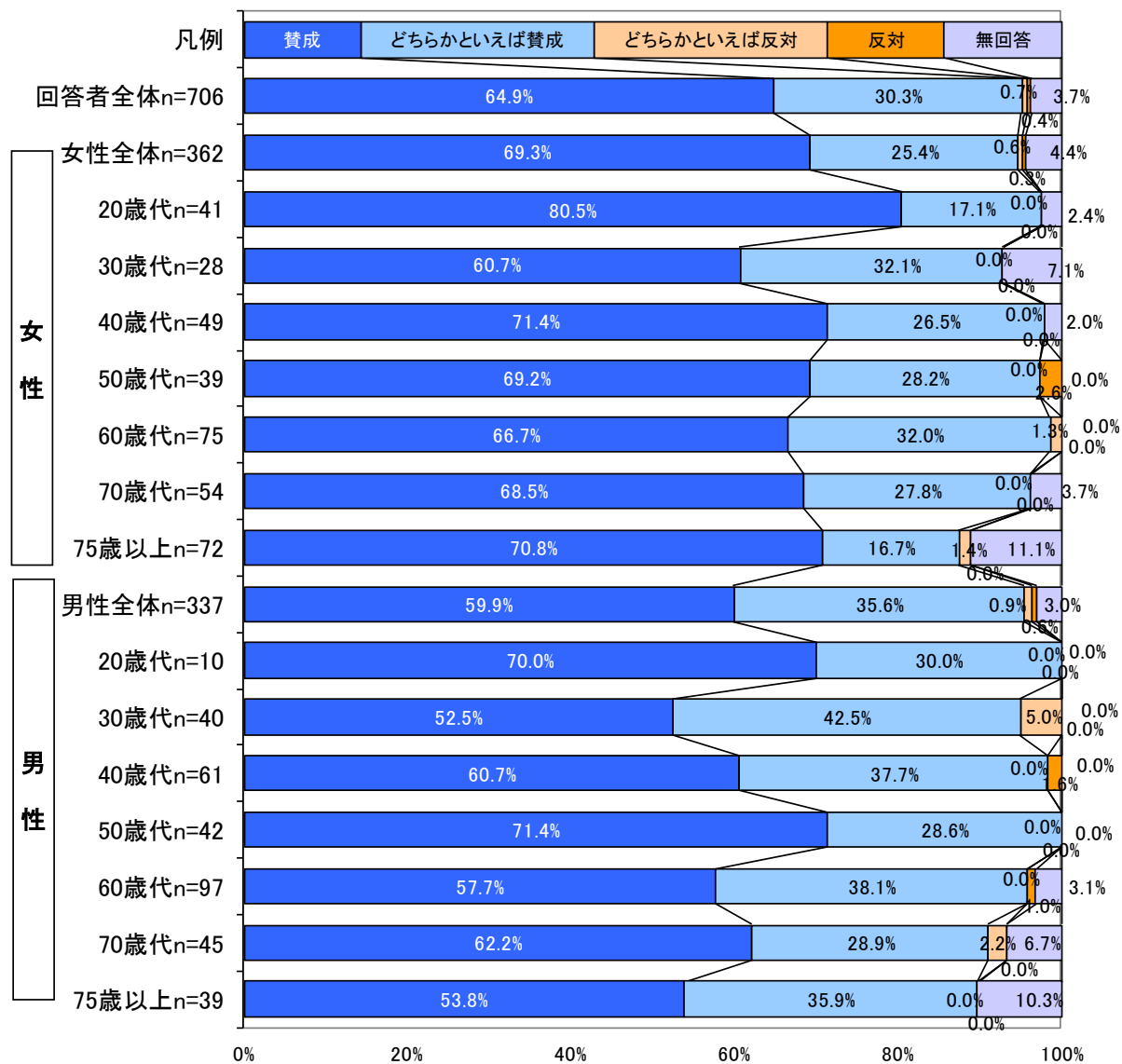
性別にみると、「男性」で「賛成」の割合が高く、「女性」で「どちらかといえば反対」と「反対」の割合が高い。

性・年代別にみると、男女に関わりなく年代が若いほど「反対」の割合が高く、「男性」の『70歳以上』では「賛成」が50%を超えている。



「(イ)女の子も男の子も、同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」

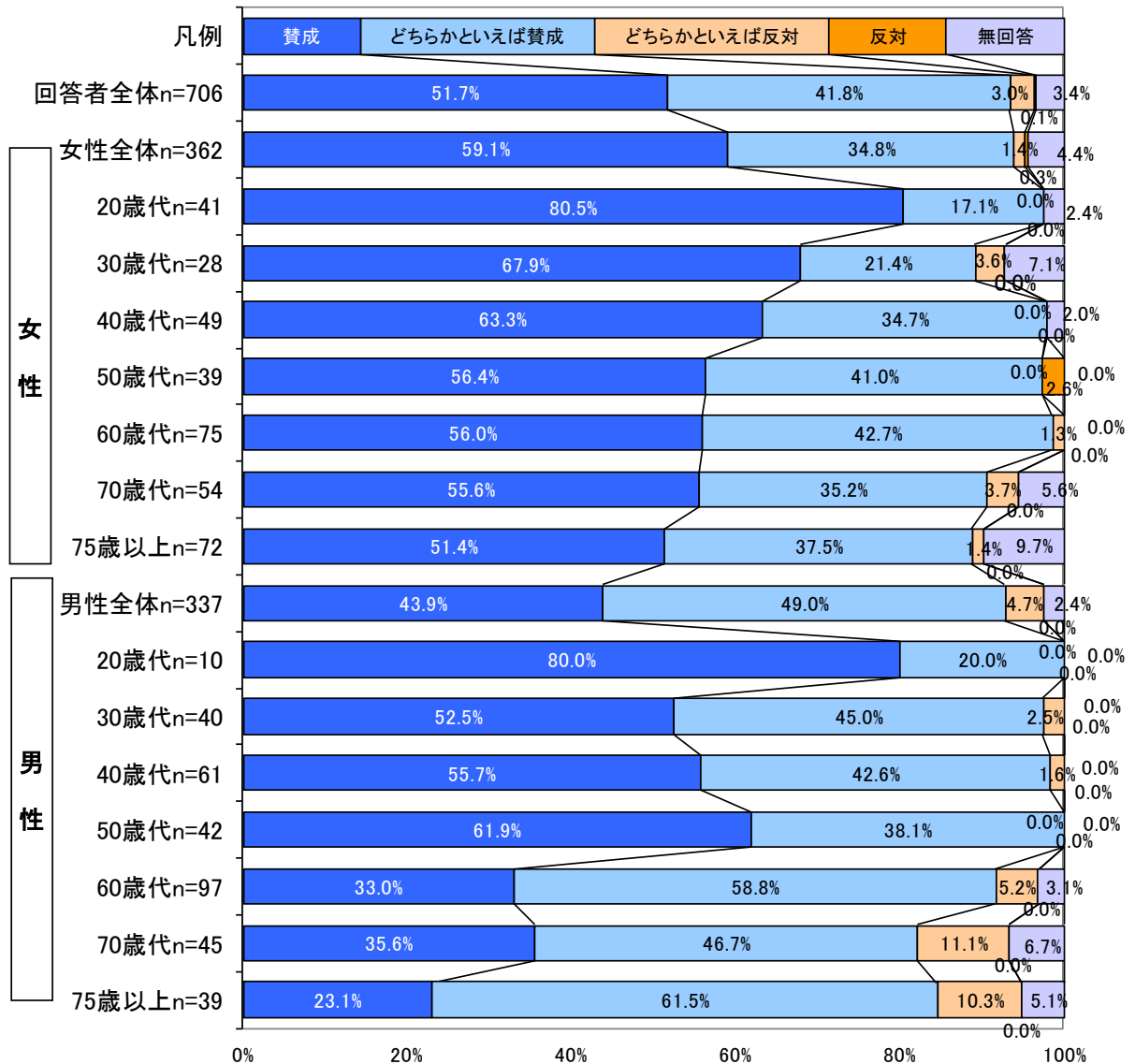
性別にみると、「女性」の方が「賛成」の割合が高く、「男性」では「どちらかといえば賛成」の割合が比較的高くなっている。



「(ウ)男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」

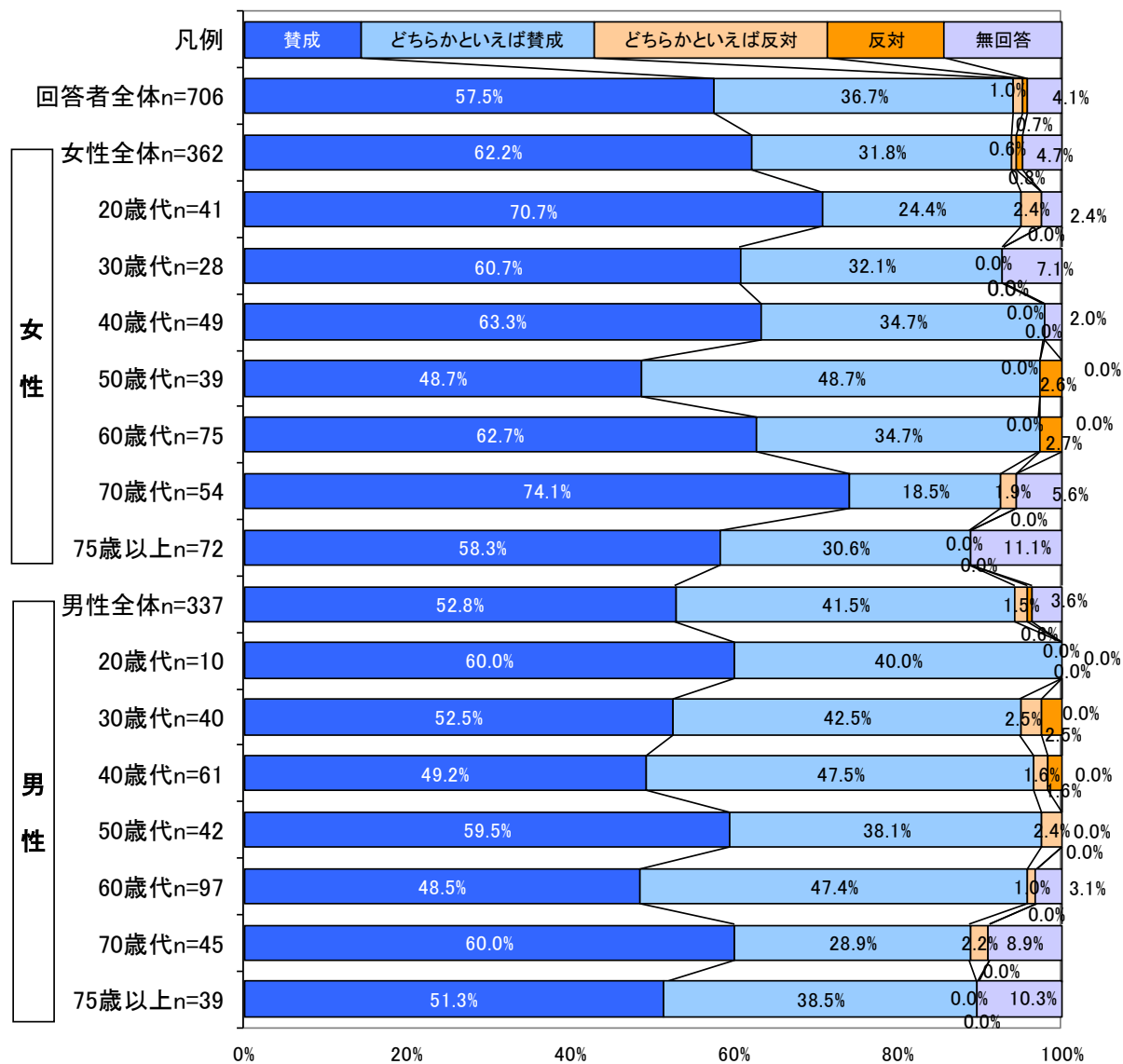
性別にみると、「女性」の方が「賛成」の割合が高く、「男性」では「どちらかといえば賛成」の割合が比較的高くなっている。

性・年代別にみると、「男性」の『70歳以上』では「どちらかといえば反対」の割合が10%台で他の層よりも高くなっている。



「(エ)男女の平等や一人一人の個性を活かすことを家庭で話し合うことが必要だ」

性別にみると、「女性」の方が「賛成」の割合が高く、「男性」では「どちらかといえば賛成」の割合が比較的高くなっている。

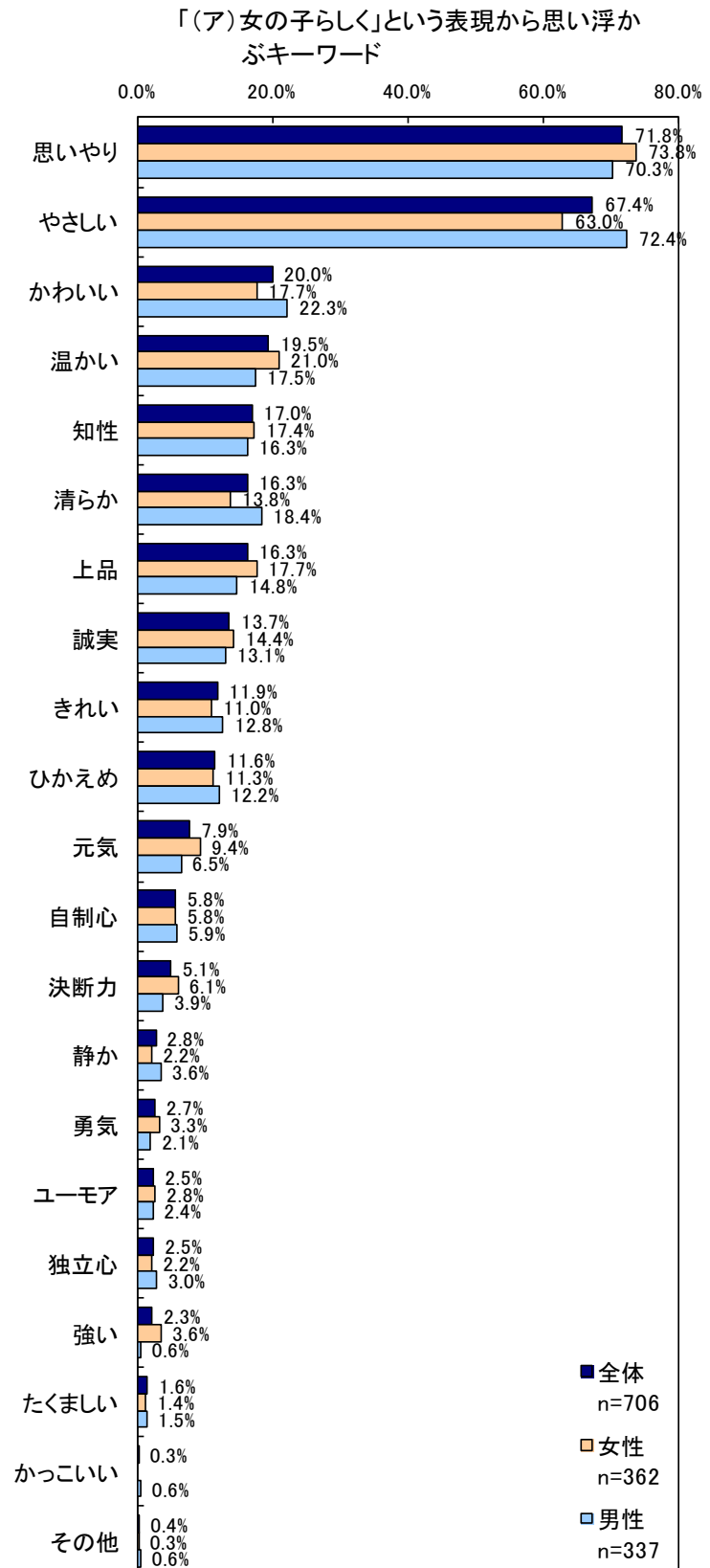


2 女の子らしく、男の子らしくから浮かぶキーワード

問4 あなたは、「女の子らしく」、「男の子らしく」という表現から思い浮かぶキーワードは何ですか。次の(ア)、(イ)の項目ごとに、3つまで選んで○をつけてください。

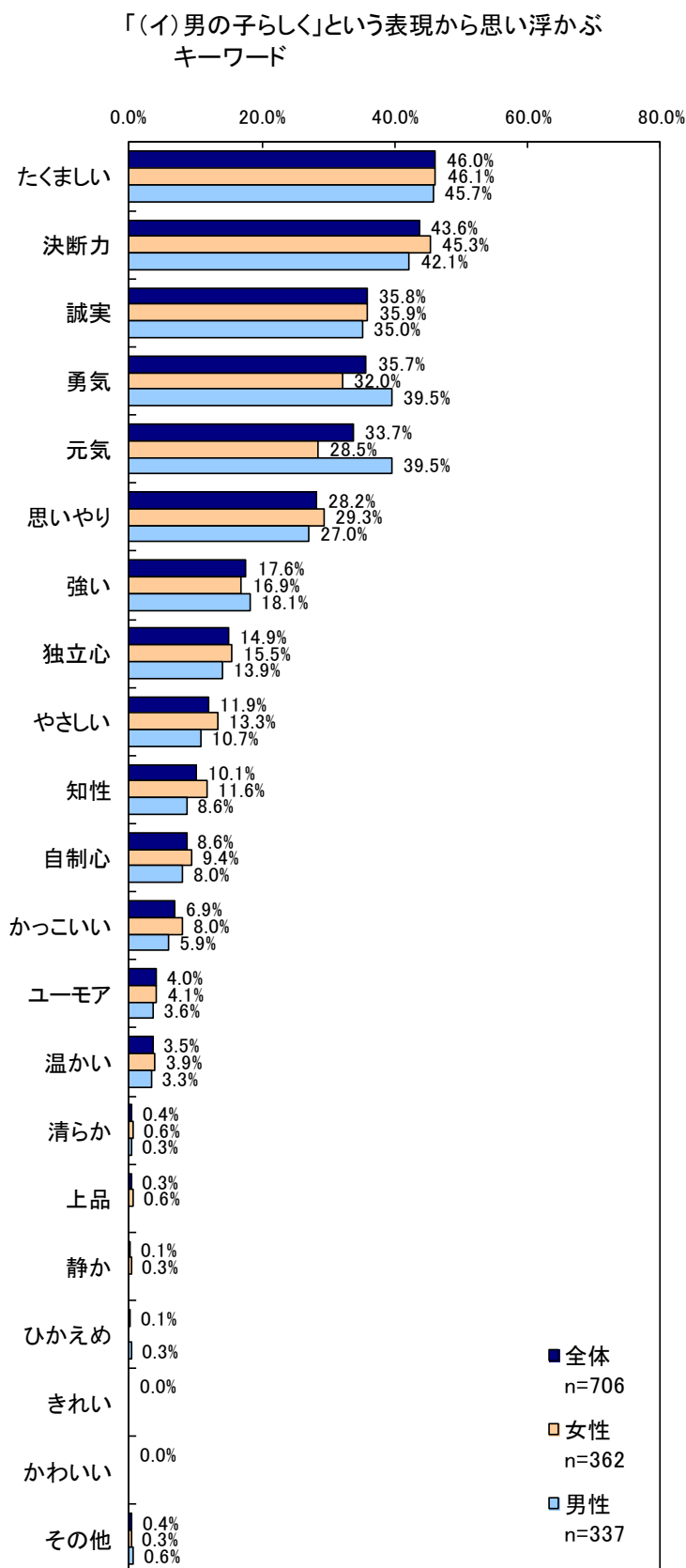
<全体の結果>

「(ア)女の子らしく」という表現から思い浮かぶキーワードをみると、「思いやり」の71.8%が最も多く、これに「やさしい」の67.4%が続いている。以下、割合の高い方から、「かわいい」(20.0%)、「温かい」(19.5%)、「知性」(17.0%)、の順となっている。



「(イ)男の子らしく」という表現から思い浮かぶキーワードをみると、「女の子らしく」と違い 50%を超える割合となったキーワードはない。最も割合が高くなっているのは「たかましい」の 46.0%で、これに「決断力」の 43.6%が続いている。以下、割合の高い方から、「誠実」(35.8%)、「勇気」(35.7%)、「元気」(33.7%)の順となっている。

「女の子らしく」で思い浮かぶキーワードでは、静的で家庭的な表現が上位となっている。「男の子らしく」では動的で外向的な表現が上位となっているが、「女の子らしく」の「思いやり」や「やさしい」ほどの高い割合とはなっていない。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減があった表現は、「女の子らしく」の「温かい」(平成28年:19.5%、8.5ポイント減)、「男の子らしく」の「たくましい」(同46.0%、5.1ポイント減)、「勇気」(同35.7%、10.7ポイント減)となっている。特に「男の子らしく」の勇ましいイメージが減少していることがうかがえる。

■「女の子らしく」で思い浮かぶキーワード

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
たくましい	1.3	1.6
静か	4.2	2.8
やさしい	70.8	67.4
元気	12.1	7.9
強い	2.3	2.3
きれい	8.5	11.9
勇気	2.2	2.7
誠実	15.4	13.7
思いやり	71.5	71.8
温かい	28.0	19.5
ひかえめ	9.3	11.6
自制心	2.8	5.8
ユーモア	2.8	2.5
独立心	2.0	2.5
知性	12.2	17.0
決断力	2.3	5.1
清らか	19.2	16.3
かっこい	0.3	0.3
かわいい	24.8	20.0
上品	16.5	16.3
その他	0.9	0.4

■「男の子らしく」で思い浮かぶキーワード

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
たくましい	51.1	46.0
静か	0.4	0.1
やさしい	14.1	11.9
元気	30.2	33.7
強い	20.1	17.6
きれい	0.3	0.0
勇気	46.4	35.7
誠実	32.5	35.8
思いやり	28.3	28.2
温かい	4.8	3.5
ひかえめ	0.3	0.1
自制心	7.6	8.6
ユーモア	3.3	4.0
独立心	17.3	14.9
知性	8.6	10.1
決断力	44.7	43.6
清らか	0.4	0.4
かっこい	5.2	6.9
かわいい	0.1	0.0
上品	0.5	0.3
その他	0.3	0.4

<性別及び性・年代別にみた結果>

「(ア)女の子らしく」という表現から思い浮かぶキーワード

性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「やさしい」と「清らか」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『20～40歳代』では「かわいい」、「温かい」、「上品」の割合が高くなっている。「かわいい」は「男性」の『30～50歳代』でも高くなっている。「男性」の『40歳代以上』では「やさしい」の割合が高い。

「(イ)男の子らしく」という表現から思い浮かぶキーワード

性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「元気」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『20～40歳代』では「たくましい」、「強い」の割合が高くなっている。「かっこい」は「女性」の『20～40歳代』で高くなっている。「女性」の『60歳以上』では「知性」と「決断力」の割合が高い。一方、「男性」の『30～50歳代』では「元気」と「強い」、同じく『60～70歳代』では「決断力」の割合が高くなっている。

「(ア)女の子らしく」という表現から思い浮かぶキーワード

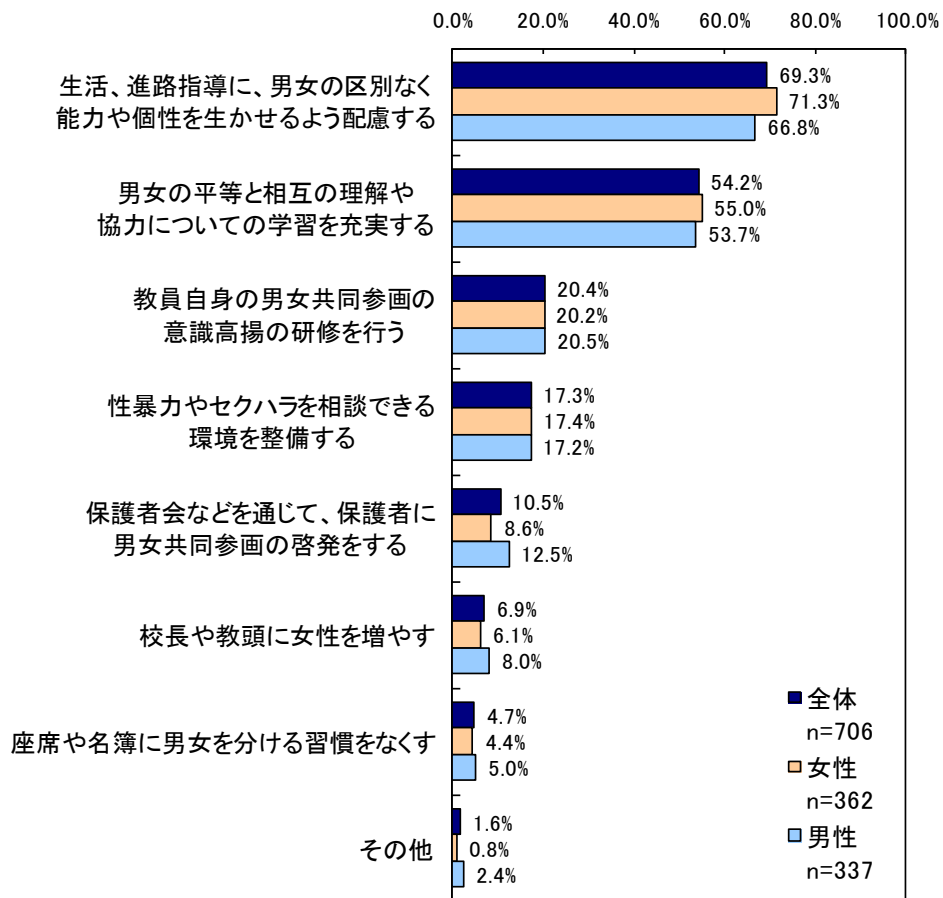
	合計	たくましい	静か	やさしい	元気	強い	きれい	勇氣	誠実	思いやり	温かい	ひかえめ	自制心	ユーモア	独立心	知性	決断力	清らか	かっこいい	かわいい	上品	その他
全体	706	11	20	476	56	16	84	19	97	507	138	82	41	18	18	120	36	115	2	141	115	3
		1.6%	2.8%	67.4%	7.9%	2.3%	11.9%	2.7%	13.7%	71.8%	19.5%	11.6%	5.8%	2.5%	2.5%	17.0%	5.1%	16.3%	0.3%	20.0%	16.3%	0.4%
小計	362	5	8	228	34	13	40	12	52	267	76	41	21	10	8	63	22	50	0	64	64	1
		1.4%	2.2%	63.0%	9.4%	3.6%	11.0%	3.3%	14.4%	73.8%	21.0%	11.3%	5.8%	2.8%	2.2%	17.4%	6.1%	13.8%	0.0%	17.7%	17.7%	0.3%
20歳代	41	1	2	24	4	3	11	1	5	24	10	5	2	1	2	7	1	12	0	15	13	0
		2.4%	4.9%	58.5%	9.8%	7.3%	26.8%	2.4%	12.2%	58.5%	24.4%	12.2%	4.9%	2.4%	4.9%	17.1%	2.4%	29.3%	0.0%	36.6%	31.7%	0.0%
30歳代	28	0	0	20	1	1	2	0	1	21	7	0	0	0	0	2	0	3	0	9	6	0
		0.0%	0.0%	71.4%	3.6%	3.6%	7.1%	0.0%	3.6%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	10.7%	0.0%	32.1%	21.4%	0.0%
40歳代	49	0	2	27	2	2	9	0	4	34	16	7	1	0	0	2	1	11	0	19	12	0
		0.0%	4.1%	55.1%	4.1%	4.1%	18.4%	0.0%	8.2%	69.4%	32.7%	14.3%	2.0%	0.0%	0.0%	4.1%	2.0%	22.4%	0.0%	38.8%	24.5%	0.0%
50歳代	39	1	2	28	2	0	5	2	1	31	4	8	0	1	0	1	0	6	0	9	7	1
		2.6%	5.1%	71.8%	5.1%	0.0%	12.8%	5.1%	2.6%	79.5%	10.3%	20.5%	0.0%	2.6%	0.0%	2.6%	0.0%	15.4%	0.0%	23.1%	17.9%	2.6%
60歳代	75	1	1	54	8	2	6	1	11	58	16	8	6	0	2	20	6	7	0	7	11	0
		1.3%	1.3%	72.0%	10.7%	2.7%	8.0%	1.3%	14.7%	77.3%	21.3%	10.7%	8.0%	0.0%	2.7%	26.7%	8.0%	9.3%	0.0%	9.3%	14.7%	0.0%
70歳代	54	1	0	36	4	1	3	3	12	42	13	7	6	3	1	10	3	9	0	2	7	0
		1.9%	0.0%	66.7%	7.4%	1.9%	5.6%	5.6%	22.2%	77.8%	24.1%	13.0%	11.1%	5.6%	1.9%	18.5%	5.6%	16.7%	0.0%	3.7%	13.0%	0.0%
75歳以上	72	1	1	38	13	4	4	5	17	54	9	5	6	5	3	21	11	2	0	3	8	0
		1.4%	1.4%	52.8%	18.1%	5.6%	5.6%	6.9%	23.6%	75.0%	12.5%	6.9%	8.3%	6.9%	4.2%	29.2%	15.3%	2.8%	0.0%	4.2%	11.1%	0.0%
無回答	4	0	0	1	0	0	0	0	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
女性	337	5	12	244	22	2	43	7	44	237	59	41	20	8	10	55	13	62	2	75	50	2
		1.5%	3.6%	72.4%	6.5%	0.6%	12.8%	2.1%	13.1%	70.3%	17.5%	12.2%	5.9%	2.4%	3.0%	16.3%	3.9%	18.4%	0.6%	22.3%	14.8%	0.6%
20歳代	10	0	0	4	0	0	5	0	0	3	4	2	0	0	0	0	0	2	0	5	4	0
		0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	30.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	50.0%	40.0%	0.0%
30歳代	40	1	2	23	4	0	5	0	3	27	5	6	1	1	0	6	2	10	1	13	14	1
		2.5%	5.0%	57.5%	10.0%	0.0%	12.5%	0.0%	7.5%	67.5%	12.5%	15.0%	2.5%	2.5%	0.0%	15.0%	5.0%	25.0%	2.5%	32.5%	35.0%	2.5%
40歳代	61	1	2	46	1	0	16	0	6	43	12	4	0	0	0	6	0	8	0	23	12	1
		1.6%	3.3%	75.4%	1.6%	0.0%	26.2%	0.0%	9.8%	70.5%	19.7%	6.6%	0.0%	0.0%	0.0%	9.8%	0.0%	13.1%	0.0%	37.7%	19.7%	1.6%
50歳代	42	0	1	27	1	1	8	0	4	30	8	6	4	1	1	8	2	9	1	13	7	0
		0.0%	2.4%	64.3%	2.4%	2.4%	19.0%	0.0%	9.5%	71.4%	19.0%	14.3%	9.5%	2.4%	2.4%	19.0%	4.8%	21.4%	2.4%	31.0%	16.7%	0.0%
60歳代	97	1	4	78	9	0	6	2	12	73	18	15	8	4	3	19	3	23	0	12	7	0
		1.0%	4.1%	80.4%	9.3%	0.0%	6.2%	2.1%	12.4%	75.3%	18.6%	15.5%	8.2%	4.1%	3.1%	19.6%	3.1%	23.7%	0.0%	12.4%	7.2%	0.0%
70歳代	45	0	1	35	3	0	2	3	11	32	8	5	4	0	3	8	1	4	0	8	1	0
		0.0%	2.2%	77.8%	6.7%	0.0%	4.4%	6.7%	24.4%	71.1%	17.8%	11.1%	8.9%	0.0%	6.7%	17.8%	2.2%	8.9%	0.0%	17.8%	2.2%	0.0%
75歳以上	39	2	2	28	4	1	2	7	27	4	3	3	2	2	7	5	6	0	0	0	5	0
		5.1%	5.1%	71.8%	10.3%	2.6%	2.6%	5.1%	17.9%	69.2%	10.3%	7.7%	7.7%	5.1%	5.1%	17.9%	12.8%	15.4%	0.0%	0.0%	12.8%	0.0%
無回答	3	0	0	3	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0
		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
男性	362	5	8	228	34	13	40	12	52	267	76	41	21	10	8	63	22	50	0	64	64	1
		1.4%	2.2%	63.0%	9.4%	3.6%	11.0%	3.3%	14.4%	73.8%	21.0%	11.3%	5.8%	2.8%	2.2%	17.4%	6.1%	13.8%	0.0%	17.7%	17.7%	0.3%
20歳代	41	1	2	24	4	3	11	1	5	24	10	5	2	1	2	7	1	12	0	15	13	0
		2.4%	4.9%	58.5%	9.8%	7.3%	26.8%	2.4%	12.2%	58.5%	24.4%	12.2%	4.9%	2.4%	4.9%	17.1%	2.4%	29.3%	0.0%	36.6%	31.7%	0.0%
30歳代	28	0	0	20	1	1	2	0	1	21	7	0	0	0	0	2	0	3	0	9	6	0
		0.0%	0.0%	71.4%	3.6%	3.6%	7.1%	0.0%	3.6%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	10.7%	0.0%	32.1%	21.4%	0.0%
40歳代	49	0	2	27	2	2	9	0	4	34	16	7	1	0	0	2	1	11	0	19	12	0
		0.0%	4.1%	55.1%	4.1%	4.1%	18.4%	0.0%	8.2%	69.4%	32.7%	14.3%	2.0%	0.0%	0.0%	4.1%	2.0%	22.4%	0.0%	38.8%	24.5%	0.0%
50歳代	39	1	2	28	2	0	5	2	1	31	4	8	0	1	0	1	0	6	0	9	7	1
		2.6%	5.1%	71.8%	5.1%	0.0%	12.8%	5.1%	2.6%	79.5%	10.3%	20.5%	0.0%	2.6%	0.0%	2.6%	0.0%	15.4%	0.0%	23.1%	17.9%	2.6%
60歳代	75	1	1	54	8	2	6	1	11	58	16	8	6	0	2	20	6	7	0	7	11	0
		1.3%	1.3%	72.0%	10.7%	2.7%	8.0%	1.3%	14.7%	77.3%	21.3%	10.7%	8.0%	0.0%	2.7%	26.7%	8.0%	9.3%	0.0%	9.3%	14.7%	0.0%
70歳代	54	1	0	36	4	1	3	3	12	42	13	7	6	3	1	10	3	9	0	2	7	0
		1.9%	0.0%	66.7%	7.4%	1.9%	5.6%	5.6%	22.2%	77.8%	24.1%	13.0%	11.1%	5.6%	1.9%	18.5%	5.6%	16.7%	0.0%	3.7%	13.0%	0.0%
75歳以上	72	1	1	38	13	4	4	5	17	54	9	5	6	5	3	21	11	2	0	3	8	0
		1.4%	1.4%	52.8%	18.1%	5.6%	5.6%	6.9%	23.6%	75.0%	12.5%	6.9%	8.3%	6.9%	4.2%	29.2%	15.3%	2.8%	0.0%	4.2%	11.1%	0.0%
無回答	4	0	0	1	0	0	0	0	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性	337	5	12	244	22	2	43	7	44	237	59	41	20	8	10	55	13	62	2	75	50	2
		1.5%	3.6%	72.4%	6.5%	0.6%	12.8%	2.1%	13.1%	70.3%	17.5%	12.2%	5.9%	2.4%	3.0%	16.3%	3.9%	18.4%	0.6%	22.3%	14.8%	0.6%
20歳代	10	0	0	4	0	0	5	0	0	3	4	2	0	0	0	0	0	2	0	5	4	0
		0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	30.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	50.0%	40.0%	0.0%
30歳代	40	1	2	23	4	0	5	0	3	27	5	6	1	1	0	6	2	10	1	13	14	1
		2.5%	5.0%	57.5%	10.0%	0.0%	12.5%	0.0%	7.5%	67.5%	12.5%	15.0%	2.5%	2.5%	0.0%	15.0%	5.0%	2				

3 男女共同参画社会づくりに学校教育で力を入れること

問5 あなたは、男女共同参画社会づくりのために、小・中・高等学校における学校教育の中で、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

男女共同参画社会づくりのために学校教育で力を入れることについてみると、「生活、進路指導に、男女の区別なく能力や個性を生かせるよう配慮する」の69.3%が最も高く、これに「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の54.2%が続いている。生徒に対する教育についての項目の割合が高く、教職員の研修や保護者の啓発に関わる項目は比較的低い結果となっている。



<前回との比較>

平成23年調査と比べてほとんど変化がない結果となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	52.4	54.2
生活、進路指導に、男女の区別なく能力や個性を生かせるよう配慮する	70.6	69.3
座席や名簿に男女を分ける習慣をなくす	3.3	4.7
教員自身の男女共同参画の意識高揚の研修を行う	21.6	20.4
校長や教頭に女性を増やす	7.0	6.9
性暴力やセクハラを相談できる環境を整備する	15.2	17.3
保護者会などを通じて、保護者に男女共同参画の啓発をする	11.3	10.5
その他	0.4	1.6

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別による差は認められない。

性・年代別にみると、「女性」の『20～30 歳代』では「生活、進路指導に、男女の区別なく能力や個性を生かせるよう配慮する」、「座席や名簿に男女を分ける習慣をなくす」の割合が高くなっている。「男性」の『30～40 歳代』では「校長や教頭に女性を増やす」、同じく『70 歳以上』では「保護者会などを通じて、保護者に男女共同参画の啓発をする」の割合が高い。

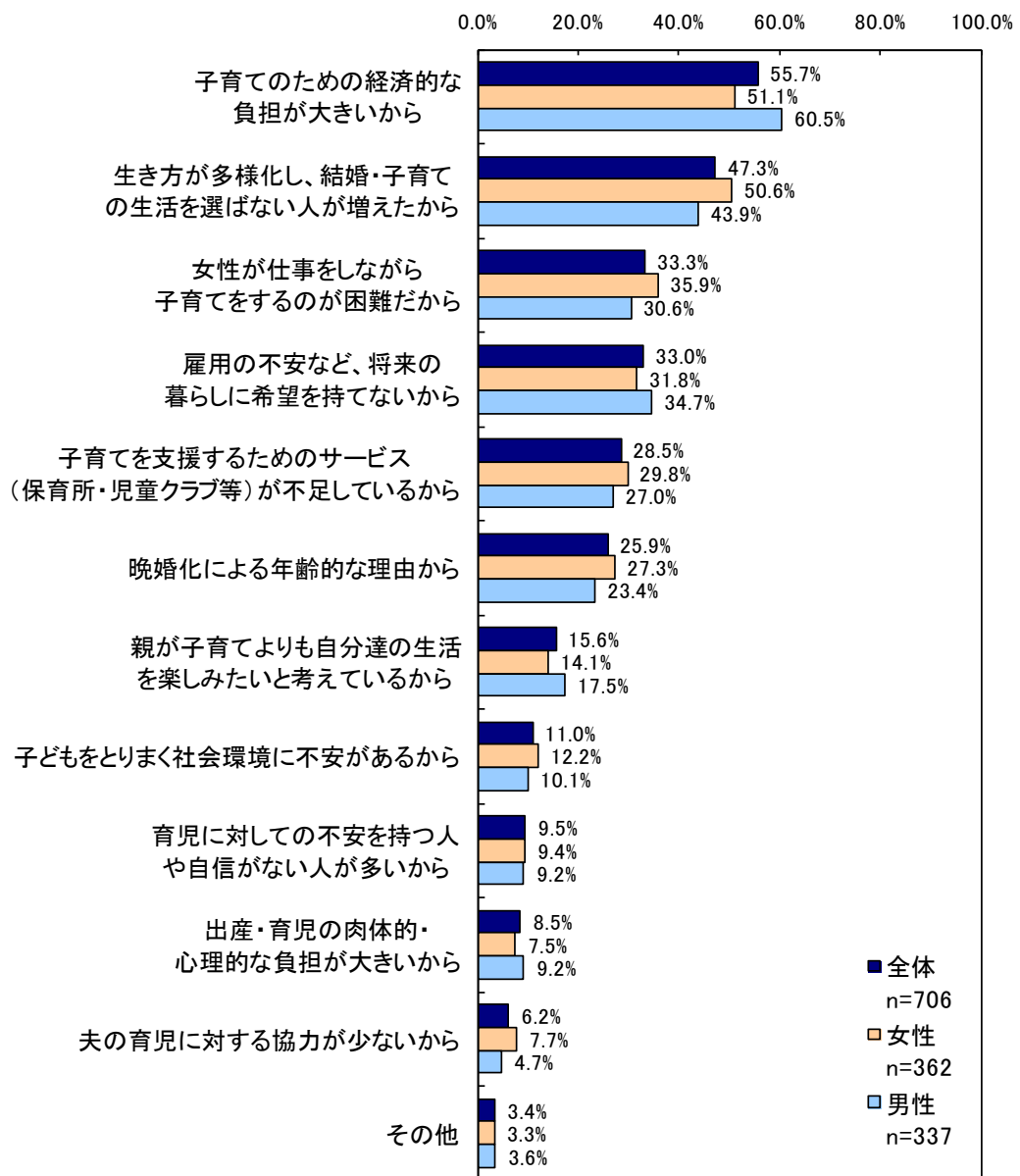
	合計	協力のついでに学習を充実させる	男女の平等と相互理解や	区別なく配慮する	生活、進路指導に、男女の個性を生かせるよう配慮する	座席や名簿に男女を分ける習慣をなくす	意識高揚の研修を行う	校長や教頭に女性を増やす	性暴力やセクハラを相談できる環境を整備する	保護者会などを通じて、保護者に男女共同参画の啓発をする	その他
全体	706	383 54.2%	489 69.3%	33 4.7%	144 20.4%	49 6.9%	122 17.3%	74 10.5%	11 1.6%		
女性	小計	362	199 55.0%	258 71.3%	16 4.4%	73 20.2%	22 6.1%	63 17.4%	31 8.6%	3 0.8%	
	20歳代	41	22 53.7%	32 78.0%	7 17.1%	9 22.0%	3 7.3%	3 7.3%	1 2.4%	0 0.0%	
	30歳代	28	16 57.1%	21 75.0%	3 10.7%	1 3.6%	7 25.0%	2 7.1%	1 3.6%	0 0.0%	
	40歳代	49	32 65.3%	35 71.4%	1 2.0%	8 16.3%	2 4.1%	8 16.3%	2 4.1%	1 2.0%	
	50歳代	39	21 53.8%	24 61.5%	0 0.0%	7 17.9%	2 5.1%	11 28.2%	5 12.8%	0 0.0%	
	60歳代	75	40 53.3%	57 76.0%	0 0.0%	15 20.0%	4 5.3%	13 17.3%	10 13.3%	1 1.3%	
	70歳代	54	29 53.7%	40 74.1%	1 1.9%	17 31.5%	1 1.9%	14 25.9%	5 9.3%	0 0.0%	
	75歳以上	72	38 52.8%	47 65.3%	3 4.2%	16 22.2%	2 2.8%	11 15.3%	7 9.7%	1 1.4%	
	無回答	4	1 25.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	男性	小計	337	181 53.7%	225 66.8%	17 5.0%	69 20.5%	27 8.0%	58 17.2%	42 12.5%	8 2.4%
20歳代		10	4 40.0%	6 60.0%	2 20.0%	1 10.0%	3 30.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	
30歳代		40	25 62.5%	24 60.0%	3 7.5%	2 5.0%	7 17.5%	7 17.5%	2 5.0%	2 5.0%	
40歳代		61	32 52.5%	44 72.1%	7 11.5%	11 18.0%	7 11.5%	5 8.2%	3 4.9%	2 3.3%	
50歳代		42	27 64.3%	26 61.9%	2 4.8%	8 19.0%	3 7.1%	5 11.9%	3 7.1%	0 0.0%	
60歳代		97	51 52.6%	68 70.1%	3 3.1%	25 25.8%	6 6.2%	21 21.6%	14 14.4%	2 2.1%	
70歳代		45	23 51.1%	32 71.1%	0 0.0%	9 20.0%	0 0.0%	7 15.6%	10 22.2%	2 4.4%	
75歳以上		39	17 43.6%	24 61.5%	0 0.0%	12 30.8%	0 0.0%	11 28.2%	10 25.6%	0 0.0%	
無回答		3	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

4 少子化傾向の理由

問6 わが国では依然として少子化傾向が続いていますが、あなたは、その理由は何だと思えますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

少子化傾向の理由をみると、「子育てのための経済的な負担が大きいから」の55.7%が最も高く、これに「生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから」の47.3%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「女性が仕事をしながら子育てをするのが困難だから」(33.3%)、「雇用の不安など、将来の暮らしに希望を持ってないから」(33.0%)の順となっており、経済的な負担や仕事に関わる要因、価値観の多様化を少子化傾向の理由として挙げている人が多い。



<前回との比較>

平成 23 年調査と比較して 5 ポイント以上の増加した項目は、「子育てを支援するためのサービス(保育所・児童クラブ等)が不足しているから」(平成 28 年:28.5%、5.8 ポイント増)となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
子育てのための経済的な負担が大きいから	54.9	55.7
雇用の不安など、将来の暮らしに希望を持ってないから	29.9	33.0
出産・育児の肉体的・心理的な負担が大きいから	10.3	8.5
親が子育てよりも自分達の生活を楽しみたいと考えているから	18.6	15.6
女性が仕事をしながら子育てをするのが困難だから	36.7	33.3
子育てを支援するためのサービス(保育所・児童クラブ等)が不足しているから	22.7	28.5
夫の育児に対する協力が少ないから	7.8	6.2
育児に対しての不安を持つ人や自信がない人が多いから	8.6	9.5
子どもをとりまく社会環境に不安があるから	12.7	11.0
晩婚化による年齢的な理由から	26.6	25.9
生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから	46.8	47.3
その他	2.4	3.4

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「子育てのための経済的な負担が大きいから」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「男性」の『30～40歳代』と『60歳代』では「子育てのための経済的な負担が大きいから」の割合が高くなっている。「女性」の『20歳代』と『40歳代』では「女性が仕事をしながら子育てをするのが困難だから」、同じく『20～30歳代』と『75歳以上』、「男性」の『30歳代』では「子育てを支援するためのサービス(保育所・児童クラブ等)が不足しているから」の割合が高い。

	合計	子育ての大きいための経済的な負担	雇用の不安など、将来から暮らしたい希望が持てないから	出産・育児の肉体的・心理的な負担が大きいから	生活が楽しみたりと自分で考えるから	親が子育ての負担が大きいため	女性としての仕事をするのが困難だから	子育てを支援するところ・児童クラブ等が不足しているから	子育てを支援するところ・児童クラブ等が不足しているから	夫の育児に対する協力が少ないから	人や自信がない不安を多く持つから	育児に自信がない不安を多く持つから	子どもをとりまく社会環境に不安があるから	晩婚化による年齢的な理由	かから	が増えたいから	生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人	その他
全体	706	393	233	60	110	235	201	44	67	78	183	334	24					
		55.7%	33.0%	8.5%	15.6%	33.3%	28.5%	6.2%	9.5%	11.0%	25.9%	47.3%	3.4%					
女性	小計	362	185	115	27	51	130	108	28	34	44	99	183	12				
			51.1%	31.8%	7.5%	14.1%	35.9%	29.8%	7.7%	9.4%	12.2%	27.3%	50.6%	3.3%				
	20歳代	41	26	12	1	3	17	20	1	2	5	10	20	3				
			63.4%	29.3%	2.4%	7.3%	41.5%	48.8%	2.4%	4.9%	12.2%	24.4%	48.8%	7.3%				
	30歳代	28	12	10	1	3	8	11	0	3	6	9	12	1				
			42.9%	35.7%	3.6%	10.7%	28.6%	39.3%	0.0%	10.7%	21.4%	32.1%	42.9%	3.6%				
	40歳代	49	22	17	3	4	21	5	4	5	5	24	28	2				
			44.9%	34.7%	6.1%	8.2%	42.9%	10.2%	8.2%	10.2%	10.2%	49.0%	57.1%	4.1%				
	50歳代	39	23	12	5	8	11	11	3	1	6	11	19	2				
			59.0%	30.8%	12.8%	20.5%	28.2%	28.2%	7.7%	2.6%	15.4%	28.2%	48.7%	5.1%				
60歳代	75	35	32	5	9	28	23	4	10	12	15	40	1					
		46.7%	42.7%	6.7%	12.0%	37.3%	30.7%	5.3%	13.3%	16.0%	20.0%	53.3%	1.3%					
70歳代	54	25	15	4	14	18	12	7	7	4	10	31	1					
		46.3%	27.8%	7.4%	25.9%	33.3%	22.2%	13.0%	13.0%	7.4%	18.5%	57.4%	1.9%					
75歳以上	72	41	17	8	10	25	25	8	6	6	19	31	2					
		56.9%	23.6%	11.1%	13.9%	34.7%	34.7%	11.1%	8.3%	8.3%	26.4%	43.1%	2.8%					
無回答	4	1	0	0	0	2	1	1	0	0	1	2	0					
		25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%					
男性	小計	337	204	117	31	59	103	91	16	31	34	79	148	12				
			60.5%	34.7%	9.2%	17.5%	30.6%	27.0%	4.7%	9.2%	10.1%	23.4%	43.9%	3.6%				
	20歳代	10	4	3	2	0	2	6	0	1	2	0	5	0				
			40.0%	30.0%	20.0%	0.0%	20.0%	60.0%	0.0%	10.0%	20.0%	0.0%	50.0%	0.0%				
	30歳代	40	27	14	3	3	12	17	1	3	6	10	18	3				
			67.5%	35.0%	7.5%	7.5%	30.0%	42.5%	2.5%	7.5%	15.0%	25.0%	45.0%	7.5%				
	40歳代	61	41	20	2	14	18	9	3	3	7	16	25	6				
			67.2%	32.8%	3.3%	23.0%	29.5%	14.8%	4.9%	4.9%	11.5%	26.2%	41.0%	9.8%				
	50歳代	42	23	9	3	14	13	11	4	2	3	13	17	2				
			54.8%	21.4%	7.1%	33.3%	31.0%	26.2%	9.5%	4.8%	7.1%	31.0%	40.5%	4.8%				
60歳代	97	61	44	10	13	32	25	3	10	7	20	48	0					
		62.9%	45.4%	10.3%	13.4%	33.0%	25.8%	3.1%	10.3%	7.2%	20.6%	49.5%	0.0%					
70歳代	45	26	18	4	7	14	14	2	5	4	10	18	1					
		57.8%	40.0%	8.9%	15.6%	31.1%	31.1%	4.4%	11.1%	8.9%	22.2%	40.0%	2.2%					
75歳以上	39	19	7	6	8	11	9	3	7	4	10	16	0					
		48.7%	17.9%	15.4%	20.5%	28.2%	23.1%	7.7%	17.9%	10.3%	25.6%	41.0%	0.0%					
無回答	3	3	2	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0					
		100.0%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%					

<結婚の有無別にみた結果>

「女性の既婚(共働き)」では他の層と比べて「子育てのための経済的な負担が大きいから」と「雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから」、「女性が仕事をしながら子育てをするのが困難だから」の割合が高い。これに対し、「女性の結婚していない」では「子育てを支援するためのサービスが不足しているから」と「晩婚化による年齢的理由から」の割合が高い。

	合計	子育ての負担が大きいから	雇用の不安などが将来の暮らしに希望が持てないから	出産・育児の肉体的・心理的負担が大きいから	生活が楽しみたりと考える	親が子育てをしてみたいと考える	女性が仕事をしながら子育てをするのが困難だから	サービス(保育所・児童クラブ等)が不足しているから	子育てを支援するための児童のケア	夫の育児に対する協力が少ないから	人や自信がない人が多いから	子どもをとりまく社会環境に不安があるから	晩婚化による年齢的理由	子育ての生活を選ばない人・結婚しない人	生き方が多様化し、結婚しない人	その他
全体	706	393	233	60	110	235	201	44	67	78	183	334	24			
女性	小計	362	185	115	27	51	130	108	28	34	44	99	183	12		
	結婚していない	95	48	35	7	9	31	34	4	9	13	32	48	3		
	既婚(共働きである)	20	14	8	1	3	8	6	1	0	3	5	10	0		
	既婚(共働きでない)	26	14	10	0	4	6	6	2	1	4	2	14	2		
	死別	142	68	40	12	25	54	40	16	15	14	39	69	5		
	離婚	76	39	20	7	10	31	20	4	9	9	21	41	2		
	その他	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
	無回答	2	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0		
	男性	337	204	117	31	59	103	91	16	31	34	79	148	12		
結婚していない	24	13	8	2	2	9	8	1	4	4	4	11	2			
既婚(共働きである)	121	72	40	14	25	41	34	6	9	9	28	52	5			
既婚(共働きでない)	166	106	62	12	27	48	43	4	15	20	40	78	3			
死別	8	5	2	1	1	1	1	1	2	1	3	1	0			
離婚	8	5	1	0	1	1	2	1	0	0	2	4	2			
その他	6	2	2	2	2	2	2	3	1	0	1	0	0			
無回答	4	1	2	0	1	1	1	0	0	0	1	2	0			

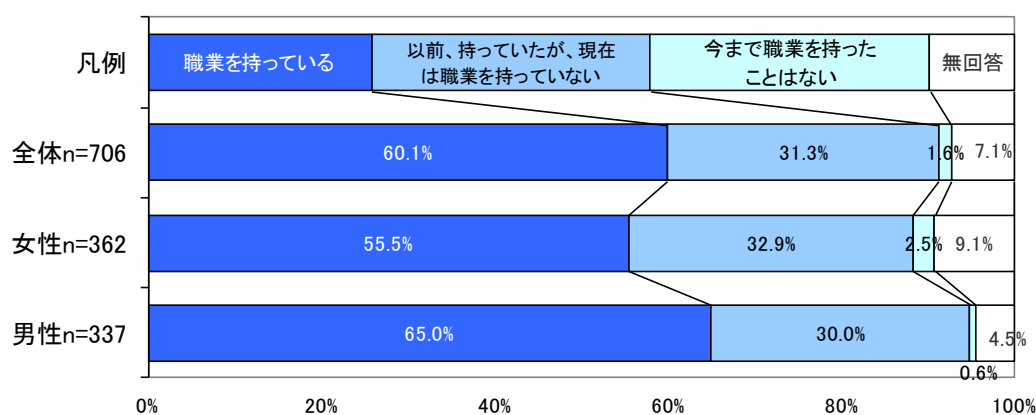
第3章 職業と健康について

1 職業の有無

問7 あなたは現在、職業を持っていますか(パート、アルバイト、家業の手伝いも含みます。ただし、学生アルバイトは含みません)。次の中から1つを選び○をつけてください。

<全体の結果>

現在、「職業を持っている」が全体の60.1%を占めており、「以前、職業を持っていたが、現在は、職業を持っていない」31.3%、「今まで職業を持ったことはない」1.6%となっている。



<前回との比較>

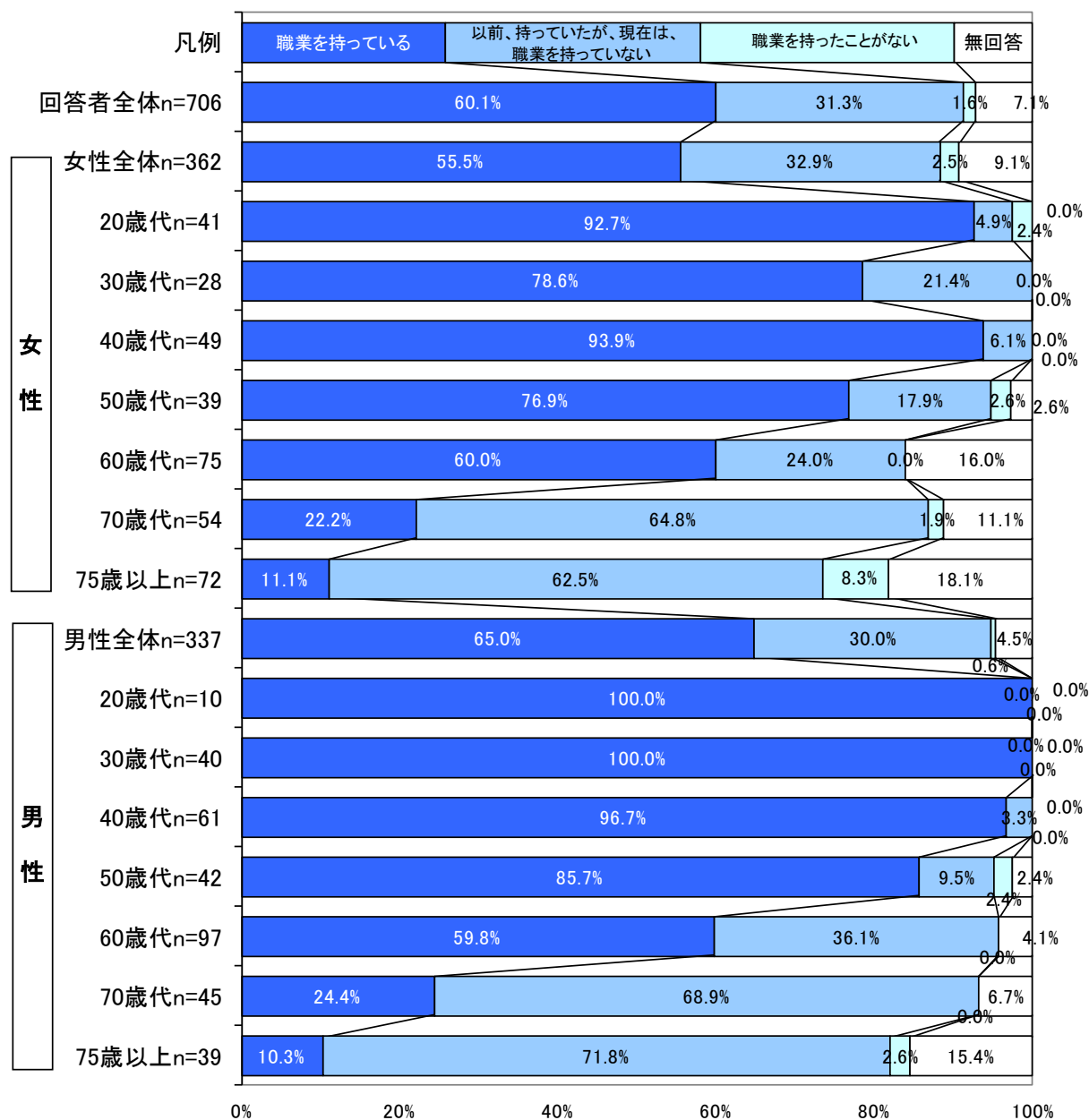
平成23年調査と比較して「職業を持っている」の割合に変化は認められない。「以前、職業を持っていたが、現在は、職業を持っていない」は9.2ポイント増加しているが、その分、「無回答」の割合が23年の16.1%から9.0ポイント減少している。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
職業を持っている	61.0	60.1
以前、職業を持っていたが、現在は、職業を持っていない	22.1	31.3
今まで職業に持ったことはない	0.8	1.6
無回答	16.1	7.1
合計	100.0	100.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「職業を持っている」の割合が 9.5 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女とも『20～40 歳代』で「職業を持っている」の割合が極めて高く、特に「男性」の割合が高くなっている。「女性」の「30 歳代」と「50 歳代」で「職業を持っている」は 70% 台となっており、同年代の「男性」の割合よりも 10 ポイント以上低くなっている。



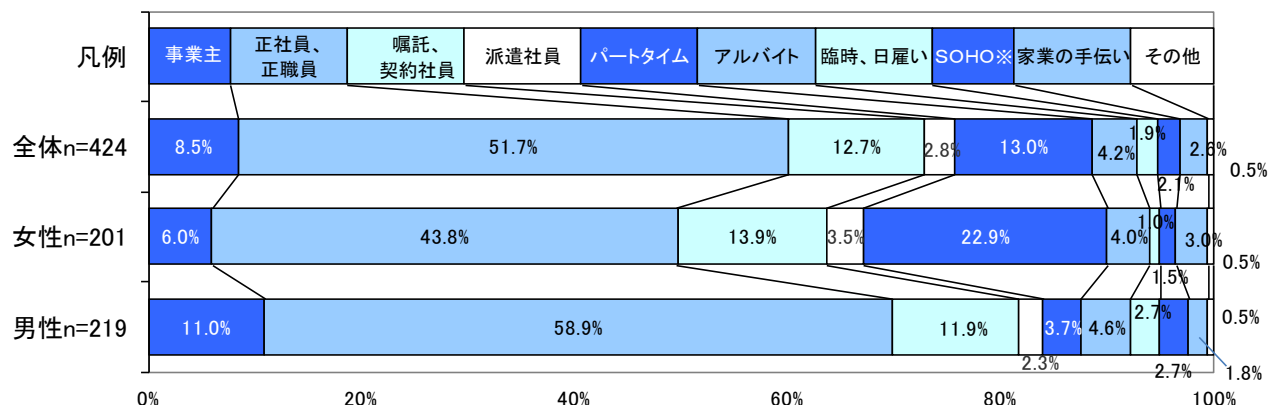
2 現在の職業の就業形態

問7で「1.職業に持っている」とお答えの方にお聞きします

問7-A あなたは、どのような形態で働いていますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

現在、職業を持っている人にその就業形態を聞いたところ、「正社員、正職員」の51.7%が最も高く、これに「パートタイム」の13.0%、「嘱託、契約社員」の12.7%が続いている。



※SOHO・在宅でパソコンを使うなどして仕事を行うスタイルのこと

<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減があった就業形態は、「正社員、正職員」(平成28年:51.7%、6.7ポイント増)、「嘱託、契約社員」(同12.7%、6.4ポイント増)、「パートタイム」(同13.0%、9.1ポイント減)となっている。平成23年と比べ「事業主」と「家業」は減少している。

	平成23年 n=480 %	平成28年 n=424 %
事業主	11.9	8.5
正社員、正職員	45.0	51.7
嘱託、契約社員	6.3	12.7
派遣社員	1.3	2.8
パートタイム	22.1	13.0
アルバイト	2.7	4.2
臨時、日雇い	2.5	1.9
SOHO(在宅でパソコンを使うなどして仕事を行うスタイルのこと)	0.2	2.1
家業(お店や農林漁業など)の手伝い	5.8	2.6
その他	1.3	0.5
合計	100.0	100.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「正社員、正職員」の割合が15.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の「正社員、正職員」の割合は「20歳代」で80%台となっているが、『30～50歳代』では40～50%台に減少している。これに対し「男性」で、『30～50歳代』の「正社員、正職員」の割合は70%台以上となっている。「女性」の『40～70歳代』は「パートタイム」の割合が高い。

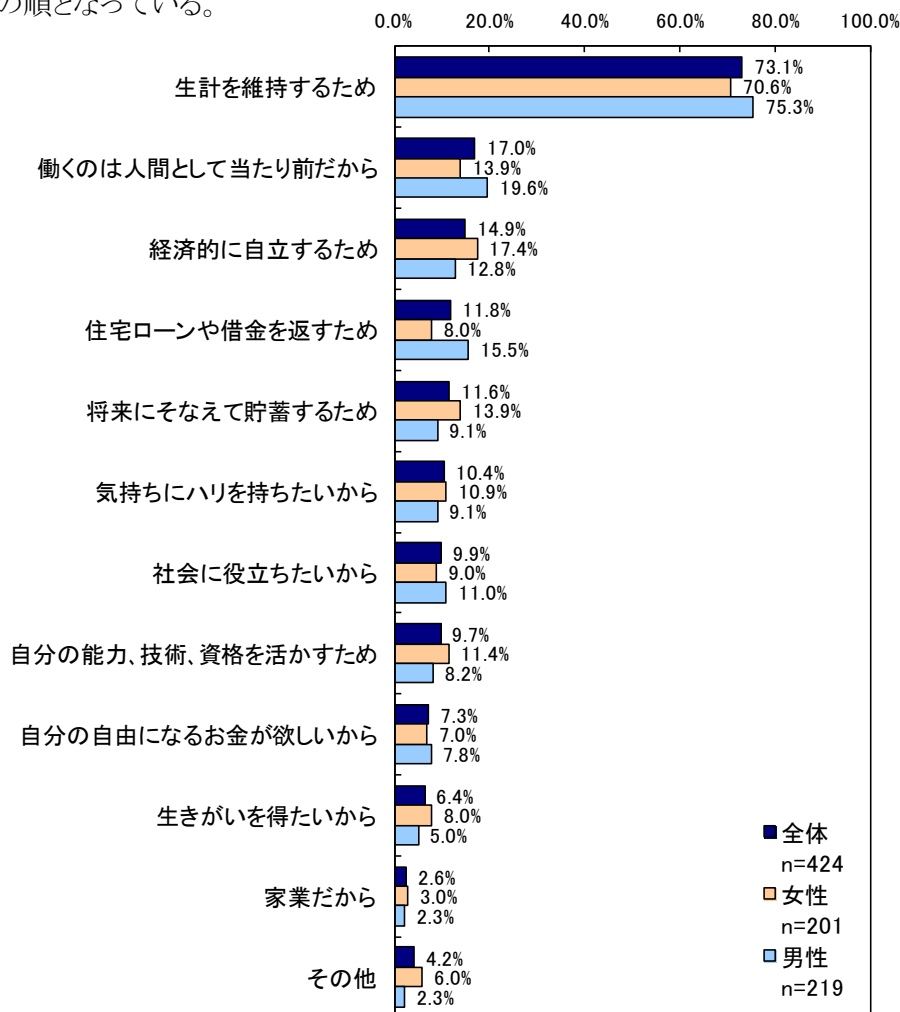
	合計	事業主	正社員、 正職員	嘱託、 契約社員	派遣社員	パートタイム	アルバイト	臨時、 日雇い	SOHO（在宅でパソコン などを用いて仕事を行うこと）	家庭（お店や農林漁業など の手伝い）	その他	
全体	424 100.0%	36 8.5%	219 51.7%	54 12.7%	12 2.8%	55 13.0%	18 4.2%	8 1.9%	9 2.1%	11 2.6%	2 0.5%	
女性	小計	201 100.0%	12 6.0%	88 43.8%	28 13.9%	7 3.5%	46 22.9%	8 4.0%	2 1.0%	3 1.5%	6 3.0%	1 0.5%
	20歳代	38 100.0%	0 0.0%	32 84.2%	2 5.3%	0 0.0%	3 7.9%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	30歳代	22 100.0%	0 0.0%	13 59.1%	3 13.6%	3 13.6%	3 13.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	40歳代	46 100.0%	2 4.3%	21 45.7%	9 19.6%	2 4.3%	10 21.7%	2 4.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	50歳代	30 100.0%	3 10.0%	13 43.3%	3 10.0%	1 3.3%	7 23.3%	1 3.3%	2 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	60歳代	45 100.0%	3 6.7%	7 15.6%	10 22.2%	1 2.2%	18 40.0%	3 6.7%	0 0.0%	1 2.2%	2 4.4%	0 0.0%
	70歳代	12 100.0%	3 25.0%	0 0.0%	1 8.3%	0 0.0%	5 41.7%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 16.7%	0 0.0%
	75歳以上	8 100.0%	1 12.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 25.0%	2 25.0%	1 12.5%
	無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	男性	小計	219 100.0%	24 11.0%	129 58.9%	26 11.9%	5 2.3%	8 3.7%	10 4.6%	6 2.7%	6 2.7%	4 1.8%
20歳代		10 100.0%	0 0.0%	9 90.0%	0 0.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30歳代		40 100.0%	3 7.5%	30 75.0%	2 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 5.0%	1 2.5%	2 5.0%	0 0.0%	0 0.0%
40歳代		59 100.0%	2 3.4%	51 86.4%	3 5.1%	1 1.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%	1 1.7%	0 0.0%
50歳代		36 100.0%	7 19.4%	26 72.2%	1 2.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.8%	1 2.8%	0 0.0%
60歳代		58 100.0%	6 10.3%	12 20.7%	18 31.0%	2 3.4%	5 8.6%	6 10.3%	4 6.9%	3 5.2%	1 1.7%	1 1.7%
70歳代		11 100.0%	4 36.4%	0 0.0%	2 18.2%	1 9.1%	2 18.2%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
75歳以上		4 100.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%
無回答		1 100.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

3 就労理由

問 7-B あなたが現在、職業を持っているのは、どういう理由からですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

現在、職業を持っている人にその理由を聞いたところ、「生計を維持するため」が最も高く、全体の73.1%を占めている。以下、回答割合の高い方から、「働くのは人間として当たり前だから」(17.0%)、「経済的に自立するため」(14.9%)、「住宅ローンや借金を返すため」(11.8%)、「将来にそなえて貯蓄するため」(11.6%)の順となっている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減があった就労理由は、「経済的に自立するため」(平成28年:14.9%、6.7ポイント増)となっている。

	平成23年 n=480 %	平成28年 n=424 %
生計を維持するため	69.4	73.1
住宅ローンや借金を返すため	14.0	11.8
将来にそなえて貯蓄するため	14.8	11.6
経済的に自立するため	6.9	14.9
自分の自由になるお金が欲しいから	7.1	7.3
自分の能力、技術、資格を活かすため	11.7	9.7
社会に役立ちたいから	8.8	9.9
気持ちにハリを持ちたいから	13.5	10.4
働くのは人間として当たり前だから	17.9	17.0
生きがいを得たいから	-	6.4
家業だから	7.3	2.6
その他	1.5	4.2

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「生計を維持するため」、「働くのは人間として当たり前」、「住宅ローンや借金を返すため」の割合が高くなっている。これに対し、「女性」は「男性」と比べ「経済的に自立するため」と「将来に備えて貯蓄するため」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『20～40 歳代』は「経済的に自立するため」の割合が高く、「男性」の『30～50 歳代』は「生計を維持するため」の割合が高くなっている。

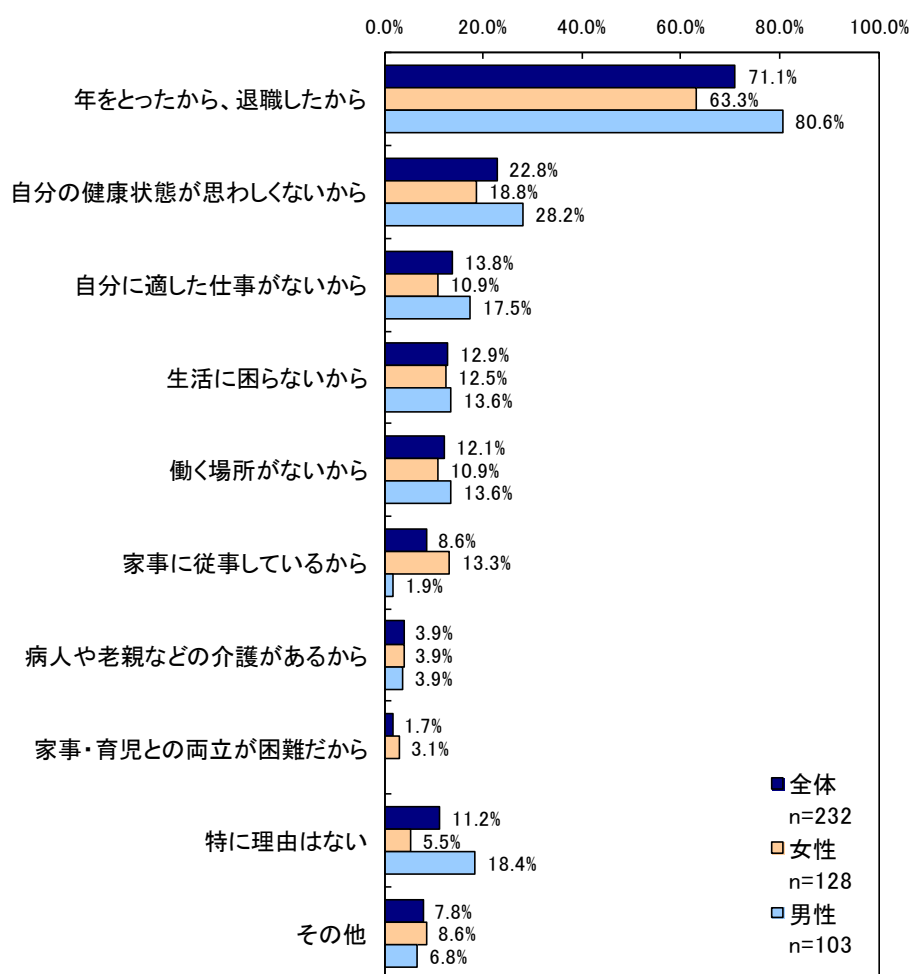
	合計	生計を維持するため	住宅ローンや借金を返すため	将来にそなえて貯蓄するため	経済的に自立するため	自分の自由になるお金が欲しいから	自分の能力、技術、資格を活かすため	社会に役立ちたいから	気持ちにハリを持ちたいから	働くのは人間として当たり前だから	生きがいを得たいから	家業だから	その他
全体	424	310	50	49	63	31	41	42	44	72	27	11	18
		73.1%	11.8%	11.6%	14.9%	7.3%	9.7%	9.9%	10.4%	17.0%	6.4%	2.6%	4.2%
女性	小計	201	142	16	28	35	14	23	18	22	28	16	12
		70.6%	8.0%	13.9%	17.4%	7.0%	11.4%	9.0%	10.9%	13.9%	8.0%	3.0%	6.0%
	20歳代	38	25	1	9	16	4	6	3	0	5	3	2
		65.8%	2.6%	23.7%	42.1%	10.5%	15.8%	7.9%	0.0%	13.2%	7.9%	0.0%	5.3%
	30歳代	22	16	6	1	5	2	3	3	0	4	1	3
		72.7%	27.3%	4.5%	22.7%	9.1%	13.6%	13.6%	0.0%	18.2%	4.5%	0.0%	13.6%
	40歳代	46	39	3	4	10	1	7	3	3	7	1	1
		84.8%	6.5%	8.7%	21.7%	2.2%	15.2%	6.5%	6.5%	15.2%	2.2%	0.0%	2.2%
	50歳代	30	26	3	10	1	1	0	2	3	2	1	2
		86.7%	10.0%	33.3%	3.3%	3.3%	0.0%	6.7%	10.0%	6.7%	3.3%	0.0%	6.7%
	60歳代	45	32	3	4	3	5	4	3	12	7	2	3
		71.1%	6.7%	8.9%	6.7%	11.1%	8.9%	6.7%	26.7%	15.6%	4.4%	4.4%	6.7%
	70歳代	12	2	0	0	0	1	3	4	2	1	4	1
		16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	25.0%	33.3%	16.7%	8.3%	33.3%	16.7%	8.3%
	75歳以上	8	2	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0
		25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
男性	小計	219	165	34	20	28	17	18	24	20	43	11	5
		75.3%	15.5%	9.1%	12.8%	7.8%	8.2%	11.0%	9.1%	19.6%	5.0%	2.3%	2.3%
	20歳代	10	10	3	1	0	2	2	0	0	0	0	0
		100.0%	30.0%	10.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30歳代	40	32	6	4	7	2	2	8	1	9	2	0
		80.0%	15.0%	10.0%	17.5%	5.0%	5.0%	20.0%	2.5%	22.5%	5.0%	2.5%	0.0%
	40歳代	59	47	9	3	12	2	4	6	1	14	3	2
		79.7%	15.3%	5.1%	20.3%	3.4%	6.8%	10.2%	1.7%	23.7%	5.1%	1.7%	3.4%
	50歳代	36	33	5	7	2	1	3	4	0	7	1	0
		91.7%	13.9%	19.4%	5.6%	2.8%	8.3%	11.1%	0.0%	19.4%	2.8%	2.8%	0.0%
	60歳代	58	34	11	5	6	7	7	6	14	9	4	0
		58.6%	19.0%	8.6%	10.3%	12.1%	12.1%	10.3%	24.1%	15.5%	6.9%	1.7%	0.0%
	70歳代	11	5	0	0	0	3	0	0	3	3	1	2
		45.5%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	0.0%	0.0%	27.3%	27.3%	9.1%	0.0%	18.2%
	75歳以上	4	3	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1
		75.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%
	無回答	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

4 就労していない理由

問7で「2.職業を持っていない」、「3.職業を持ったことがない」とお答えの方にお聞きます
 問7-C あなたが現在、職業についていないのは、どのような理由からですか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

現在、職業を持っていない人にその理由を聞いたところ、「年をとったから、退職したから」が最も高く、全体の71.1%を占めている。以下、回答割合の高い方から、「自分の健康状態が思わしくないから」(22.8%)、「自分に適した仕事がないから」(13.8%)、「生活に困らないから」(12.9%)、「働く場所がないから」(12.1%)の順となっている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減があった就労していない理由は、「年をとったから、退職したから」(同71.1%、11.1ポイント増)、「自分の健康状態が思わしくないから」(同22.8%、6.1ポイント増)、「家事・育児との両立が困難だから」(同1.7%、10.0ポイント減)、「家事に従事しているから(23年「家事も立派な仕事だから)」(平成28年:8.6%、8.6ポイント減)、「生活に困らないから」(同12.9%、5.4ポイント減)となっている。

	平成23年 n=480 %	平成28年 n=232 %
家事に従事しているから	17.2	8.6
年をとったから、退職したから	60.0	71.1
生活に困らないから	18.3	12.9
自分の健康状態が思わしくないから	16.7	22.8
家事・育児との両立が困難だから	11.7	1.7
病人や老親などの介護があるから	8.3	3.9
自分に適した仕事がないから	13.3	13.8
働く場所がないから	15.0	12.1
特に理由はない	-	11.2
その他	8.3	7.8

※平成28年調査の「家事に従事しているから」の質問は、平成23年調査では「家事も立派な仕事だから」となっている。

<性別にみた結果>

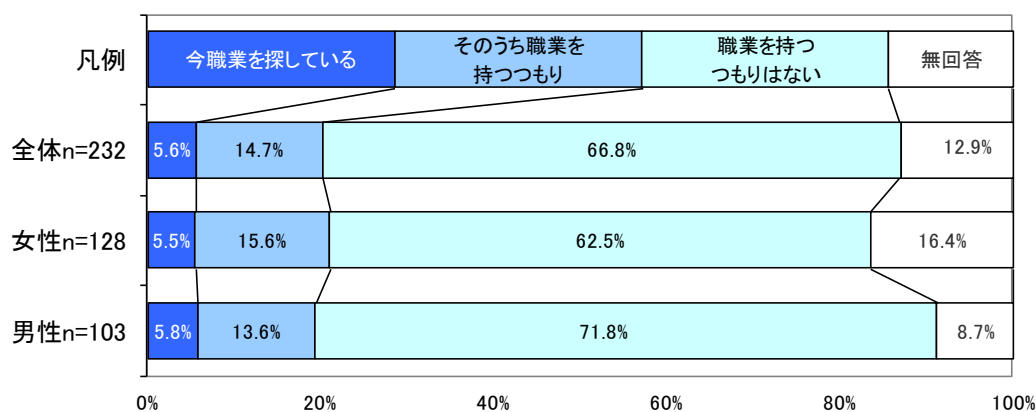
性別にみると、「男性」は「女性」と比べ「年をとったから、退職したから」、「自分の健康状態が思わしくないから」、「自分に適した仕事がないから」、「特に理由はない」の割合が高くなっている。これに対し、「女性」は「男性」と比べ「家事に従事しているから」の割合が高くなっている。

5 今後の就労意向

問 7-D あなたは今後、職業を持ちたいですか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

今後の就労意向をみると、「職業を持つつもりはない」が最も高く、全体の66.8%を占めている。「今職業を探している」と「そのうち職業を持つつもり」を合わせた『就労意向』を持つ人は20.3%となっている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減があった今後の就労意向に関わる項目は、「そのうち職業を持つつもり」(同14.7%、5.3ポイント減)となっている。「今職業を探している」と「そのうち職業を持つつもり」を合わせた『就労意向』を持つ人も8.0ポイント減少している。

	平成23年 n=180 %	平成28年 n=232 %
今職業を探している	8.3	5.6
そのうち職業を持つつもり	20.0	14.7
職業を持つつもりはない	62.8	66.8
無回答	8.9	12.9
合計	100.0	100.0

<性別にみた結果>

性別に差は認められない。『今後の職業意向を持つ人(「今職業を探している」または「そのうち職業を持つつもり)』の割合をみると、「男性」全体の19.4%に対し、「女性」は全体の21.1%となっている。

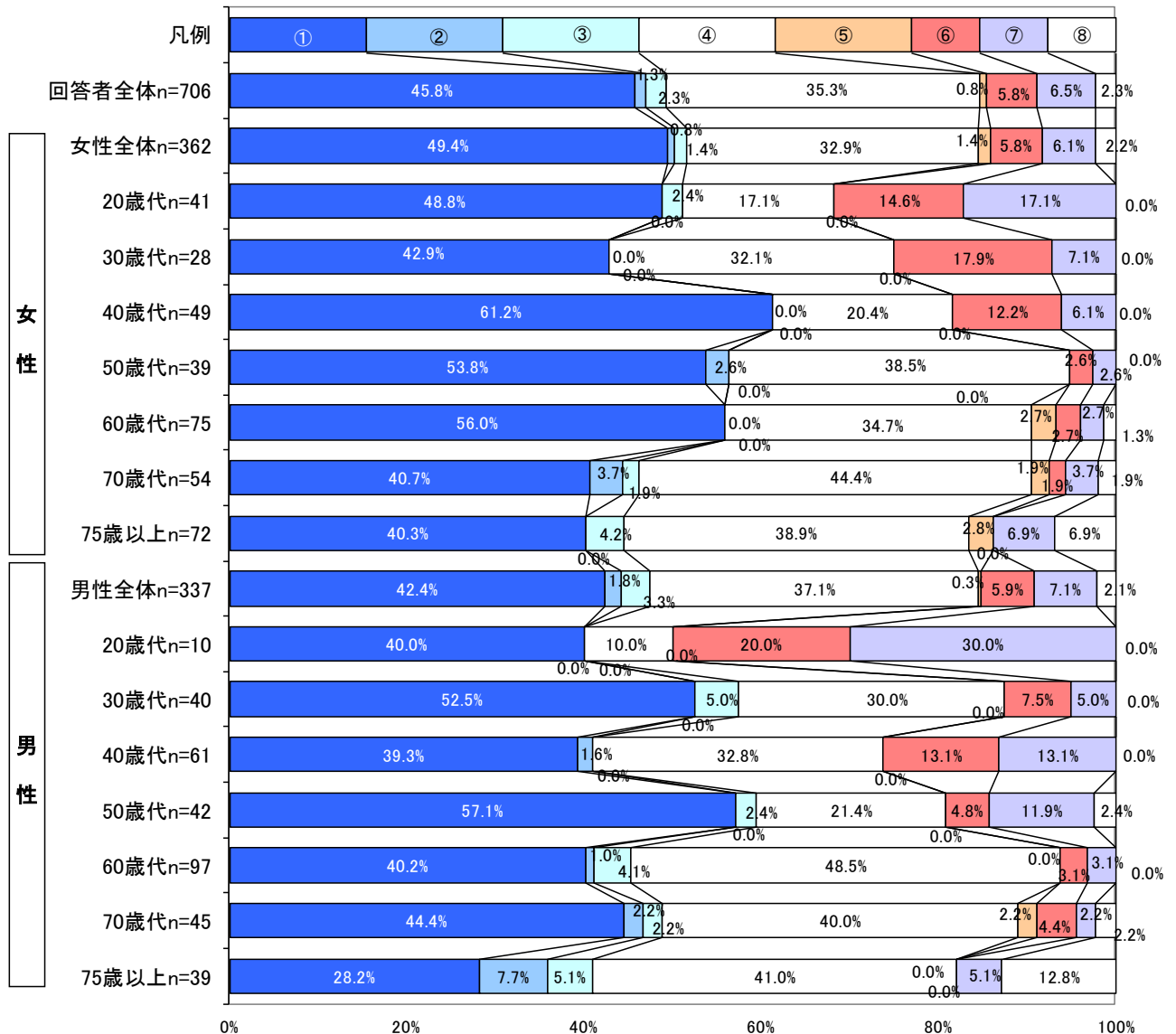
6 女性の就労についての考え方

問8 あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

女性が職業を持つことについての考えをみると、「ずっと職業を持っているほうがよい」の45.8%が最も高く、これに「子どもができれば職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい」の35.3%が続いている。

- ① ずっと職業を持っているほうがよい
- ② 結婚するまでは職業を持ち、あとは持たないほうがよい
- ③ 子どもができるまで職業を持ち、あとは持たないほうがよい
- ④ 子どもができれば職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい
- ⑤ 女性は職業を持たないほうがよい
- ⑥ その他
- ⑦ わからない
- ⑧ 無回答



<前回との比較>

平成 23 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減があった項目は、「ずっと職業を持っているほうがよい」(平成 28 年 45.8%、6.5 ポイント増)、「子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい」(平成 28 年 35.3%、8.0 ポイント減)となっている。平成 23 年調査では「子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい」が最も高くなっていたが、今回の調査結果では順位が逆転し「ずっと職業を持っているほうがよい」が最も高くなっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
ずっと職業を持っているほうがよい	39.3	45.8
結婚するまでは職業を持ち、あとは持たないほうがよい	1.7	1.3
子どもができるまで職業を持ち、あとは持たないほうがよい	2.7	2.3
子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい	43.3	35.3
女性は職業を持たないほうがよい	0.8	0.8
その他	4.1	5.8
わからない	5.3	6.5
無回答	2.9	2.3
合計	100.0	100.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べ「ずっと職業を持っているほうがよい」の割合がやや高くなっている。これに対し、「男性」は「女性」と比べ「子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい」の割合がやや高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『40～60 歳代』は「ずっと職業を持っているほうがよい」の割合が高いほか、『20～40 歳代』では「その他」の割合が 10% 台でやや高くなっている。一方、「男性」の『60 歳以上』は「子どもができたら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい」の割合が高くなっている。

<結婚の有無別にみた結果>

「女性」の「結婚していない」と「離婚」、「男性」の「既婚(共働きである)」では他の層と比べて「ずっと職業を持っているほうがよい」の割合が高い。これに対し、「男性」の「結婚していない」と「既婚(共働きでない)」では「子どもができたなら職業をやめ、子どもに手がかからなくなって再び持つほうがよい」の割合が高い。このほか、「女性」の「結婚していない」と「既婚(共働きである)」では、「その他」の割合が高くなっている。

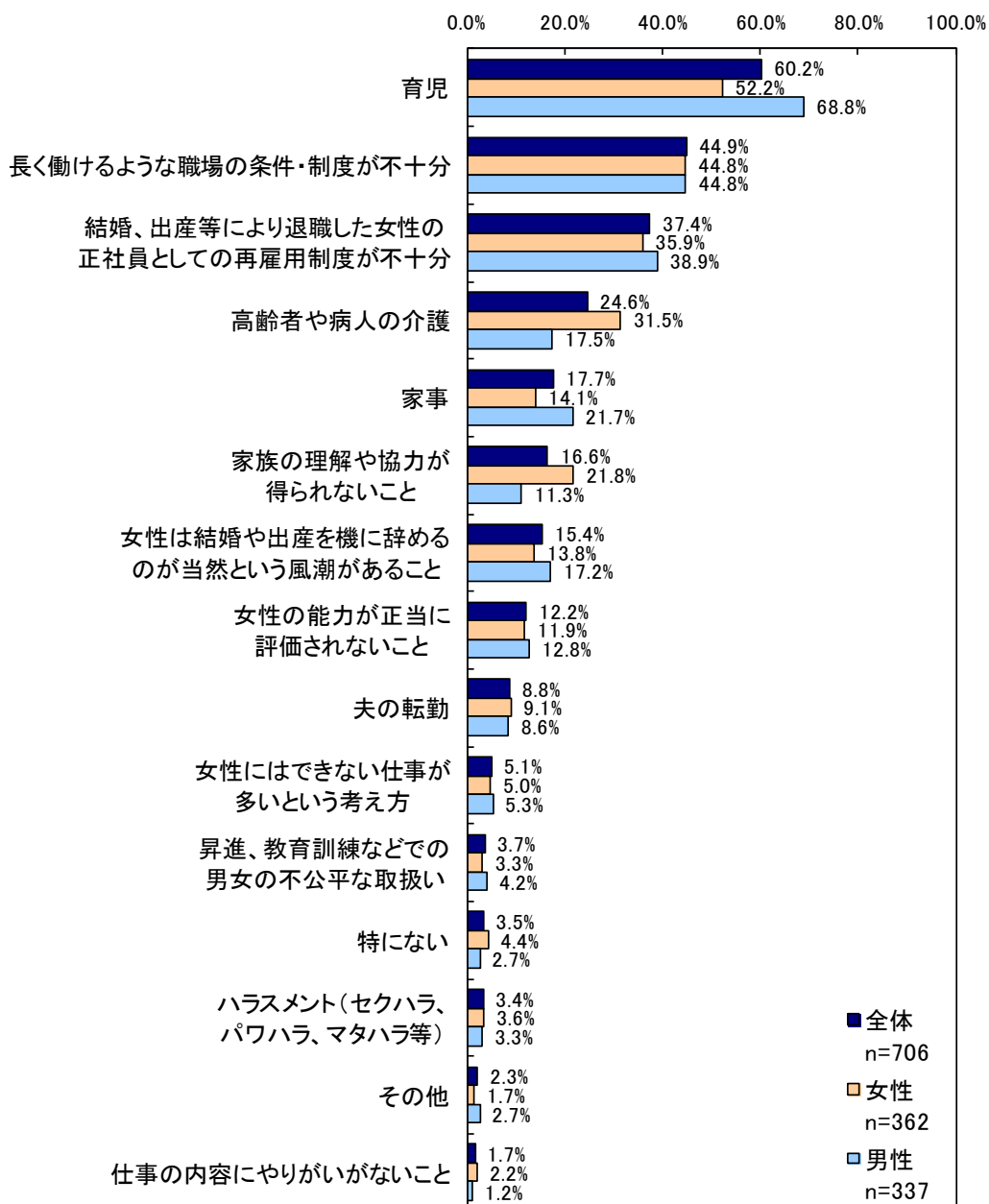
	合計	ずっと職業を持っている	結婚するまでは職業を持ち、あとは持たないほうがよい	子どもが持たないほうがよい	子どもが持たないほうがよい	子どもが持たないほうがよい	子どもが持たないほうがよい	女性職業を持たないほうがよい	その他	わからない	無回答
全体	706	323	9	16	249	6	41	46	16		
	1.0	45.8%	1.3%	2.3%	35.3%	0.8%	5.8%	6.5%	2.3%		
女性	小計	362	179	3	5	119	5	21	22	8	
		1.0	49.4%	0.8%	1.4%	32.9%	1.4%	5.8%	6.1%	2.2%	
	結婚していない	95	52	1	1	22	0	10	9	0	
		1.0	54.7%	1.1%	1.1%	23.2%	0.0%	10.5%	9.5%	0.0%	
	既婚(共働きである)	20	8	0	1	6	0	4	1	0	
		1.0	40.0%	0.0%	5.0%	30.0%	0.0%	20.0%	5.0%	0.0%	
	既婚(共働きでない)	26	11	0	0	10	1	1	3	0	
		1.0	42.3%	0.0%	0.0%	38.5%	3.8%	3.8%	11.5%	0.0%	
	死別	142	65	1	3	51	4	2	8	8	
	1.0	45.8%	0.7%	2.1%	35.9%	2.8%	1.4%	5.6%	5.6%		
離婚	76	43	0	0	28	0	4	1	0		
	1.0	56.6%	0.0%	0.0%	36.8%	0.0%	5.3%	1.3%	0.0%		
その他	1	0	0	0	1	0	0	0	0		
	1.0	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
無回答	2.0	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
	1.0	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
男性	小計	337	143	6	11	125	1	20	24	7	
		1.0	42.4%	1.8%	3.3%	37.1%	0.3%	5.9%	7.1%	2.1%	
	結婚していない	24	8	0	0	10	0	0	6	0	
		1.0	33.3%	0.0%	0.0%	41.7%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	
	既婚(共働きである)	121	68	0	0	34	0	10	8	1	
		1.0	56.2%	0.0%	0.0%	28.1%	0.0%	8.3%	6.6%	0.8%	
	既婚(共働きでない)	166	59	2	10	74	1	8	8	4	
		1.0	35.5%	1.2%	6.0%	44.6%	0.6%	4.8%	4.8%	2.4%	
死別	8	4	0	0	1	0	0	1	2		
	1.0	50.0%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	0.0%	12.5%	25.0%		
離婚	8	2	2	0	1	0	2	1	0		
	1.0	25.0%	25.0%	0.0%	12.5%	0.0%	25.0%	12.5%	0.0%		
その他	6	1	2	0	3	0	0	0	0		
	1.0	16.7%	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
無回答	4	1	0	1	2	0	0	0	0		
	1.0	25.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

7 女性が職業を持ち続けることが困難な理由

問9 あなたは、女性が職業を持ち続けることを困難にしていることがあるとすれば、それは何だと思えますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

女性が職業を持ち続けることの困難の理由をみると、「育児」の60.2%が最も高く、これに「長く働けるような職場の条件・制度が不十分」の44.9%、「結婚、出産等により退職した女性の正社員としての再雇用制度が不十分」の37.4%が続いている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減があった項目は、「育児」（平成28年60.2%、7.7ポイント減）、「家事」（平成28年17.7%、6.3ポイント減）となっている。「育児」、「家事」、「家族の理解や協力が得られないこと」、「長く働けるような職場の条件・制度が不十分」などの困難が減少傾向であることが示されたが、今回の調査で新設された「女性は結婚や出産を機に辞めるのが当然という風潮があること」は15.4%と、ある程度高い割合となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
育児	67.9	60.2
高齢者や病人の介護	27.3	24.6
夫の転勤	7.5	8.8
家事	24.0	17.7
家族の理解や協力が得られないこと	21.3	16.6
女性の能力が正当に評価されないこと	10.2	12.2
仕事の内容にやりがいがないこと	2.4	1.7
長く働けるような職場の条件・制度が不十分	48.7	44.9
結婚、出産等により退職した女性の正社員としての再雇用制度が不十分	41.9	37.4
昇進、教育訓練などでの男女の不公平な取扱い	4.3	3.7
ハラスメント(セクハラ、パワハラ、マタハラ等)	1.0	3.4
女性は結婚や出産を機に辞めるのが当然という風潮があること	-	15.4
女性にはできない仕事が多いという考え方	3.4	5.1
その他	1.7	2.3
特になし	1.3	3.5

※平成28年調査の選択肢「ハラスメント(セクハラ、パワハラ、マタハラ等)」は、平成23年調査では「セクシュアル・ハラスメント」となっている。

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べ「高齢者や病人の介護」と「家族の理解や協力が得られないこと」の割合が高くなっている。これに対し、「男性」は「女性」と比べ「育児」と「家事」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『50歳以上』は「高齢者や病人の介護」の割合が高いほか、『20～40歳代』では「家事」の割合が高くなっている。一方、「男性」の『30～60歳代』は「育児」の割合が高くなっている。「結婚、出産等により退職した女性の正社員としての再雇用制度が不十分」の割合は、「女性」の『20～30歳代』、「男性」の『60歳以上』で高くなっている。

	合計	育児	高齢者や病人の介護	夫の転勤	家事	家族の理解や協力が得られないこと	女性の能力が正当に評価されないこと	仕事の内容にやりがいがないこと	長く働けるような職場の条件・制度が不十分	雇用制度が不十分	結婚、出産等により退職した女性の正社員としての再雇用制度が不十分	昇進、教育訓練などでの男女の不公平な取扱い	パワハラ、メンタハラ（セクハラ等）	めることが当然という風潮に辞	女性にはできない仕事が多い	その他	特にな
全体	706	425	174	62	125	117	86	12	317	264	26	24	109	36	16	25	
		60.2%	24.6%	8.8%	17.7%	16.6%	12.2%	1.7%	44.9%	37.4%	3.7%	3.4%	15.4%	5.1%	2.3%	3.5%	
小計	362	189	114	33	51	79	43	8	162	130	12	13	50	18	6	16	
		52.2%	31.5%	9.1%	14.1%	21.8%	11.9%	2.2%	44.8%	35.9%	3.3%	3.6%	13.8%	5.0%	1.7%	4.4%	
20歳代	41	26	8	7	10	9	2	1	17	18	1	2	8	1	0	2	
		63.4%	19.5%	17.1%	24.4%	22.0%	4.9%	2.4%	41.5%	43.9%	2.4%	4.9%	19.5%	2.4%	0.0%	4.9%	
30歳代	28	16	2	2	7	5	3	0	15	14	1	2	5	2	2	1	
		57.1%	7.1%	7.1%	25.0%	17.9%	10.7%	0.0%	53.6%	50.0%	3.6%	7.1%	17.9%	7.1%	7.1%	3.6%	
40歳代	49	31	14	2	12	17	4	3	22	17	1	1	6	2	2	0	
		63.3%	28.6%	4.1%	24.5%	34.7%	8.2%	6.1%	44.9%	34.7%	2.0%	2.0%	12.2%	4.1%	4.1%	0.0%	
50歳代	39	27	16	4	4	8	5	0	17	14	2	1	4	1	0	1	
		69.2%	41.0%	10.3%	10.3%	20.5%	12.8%	0.0%	43.6%	35.9%	5.1%	2.6%	10.3%	2.6%	0.0%	2.6%	
60歳代	75	37	26	4	3	16	11	2	35	30	3	6	14	5	0	2	
		49.3%	34.7%	5.3%	4.0%	21.3%	14.7%	2.7%	46.7%	40.0%	4.0%	8.0%	18.7%	6.7%	0.0%	2.7%	
70歳代	54	26	23	3	8	10	12	1	27	19	2	0	4	1	1	2	
		48.1%	42.6%	5.6%	14.8%	18.5%	22.2%	1.9%	50.0%	35.2%	3.7%	0.0%	7.4%	1.9%	1.9%	3.7%	
75歳以上	72	26	23	10	7	14	6	1	27	17	2	1	9	5	1	8	
		36.1%	31.9%	13.9%	9.7%	19.4%	8.3%	1.4%	37.5%	23.6%	2.8%	1.4%	12.5%	6.9%	1.4%	11.1%	
無回答	4	0	2	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	
		0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
小計	337	232	59	29	73	38	43	4	151	131	14	11	58	18	9	9	
		68.8%	17.5%	8.6%	21.7%	11.3%	12.8%	1.2%	44.8%	38.9%	4.2%	3.3%	17.2%	5.3%	2.7%	2.7%	
20歳代	10	8	0	2	2	1	4	0	3	3	1	2	1	1	0	0	
		80.0%	0.0%	20.0%	20.0%	10.0%	40.0%	0.0%	30.0%	30.0%	10.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	
30歳代	40	29	4	5	10	6	7	0	16	14	2	4	12	2	1	0	
		72.5%	10.0%	12.5%	25.0%	15.0%	17.5%	0.0%	40.0%	35.0%	5.0%	10.0%	30.0%	5.0%	2.5%	0.0%	
40歳代	61	49	6	7	20	7	6	0	23	17	1	0	11	4	4	2	
		80.3%	9.8%	11.5%	32.8%	11.5%	9.8%	0.0%	37.7%	27.9%	1.6%	0.0%	18.0%	6.6%	6.6%	3.3%	
50歳代	42	29	10	2	8	5	6	1	20	16	1	2	5	1	2	1	
		69.0%	23.8%	4.8%	19.0%	11.9%	14.3%	2.4%	47.6%	38.1%	2.4%	4.8%	11.9%	2.4%	4.8%	2.4%	
60歳代	97	70	22	6	21	9	11	1	53	42	4	2	15	7	1	0	
		72.2%	22.7%	6.2%	21.6%	9.3%	11.3%	1.0%	54.6%	43.3%	4.1%	2.1%	15.5%	7.2%	1.0%	0.0%	
70歳代	45	25	9	6	8	5	7	2	16	22	1	0	10	0	1	2	
		55.6%	20.0%	13.3%	17.8%	11.1%	15.6%	4.4%	35.6%	48.9%	2.2%	0.0%	22.2%	0.0%	2.2%	4.4%	
75歳以上	39	19	6	1	4	5	2	0	18	17	4	1	4	3	0	4	
		48.7%	15.4%	2.6%	10.3%	12.8%	5.1%	0.0%	46.2%	43.6%	10.3%	2.6%	10.3%	7.7%	0.0%	10.3%	
無回答	3	3	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
		100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

<結婚の有無別にみた結果>

男女にかかわらず「既婚(共働きである)」では「長く働けるような職場の条件・制度が不十分」の割合が50%台となっている。同じく「既婚(共働きでない)」では「育児」の割合が高い。

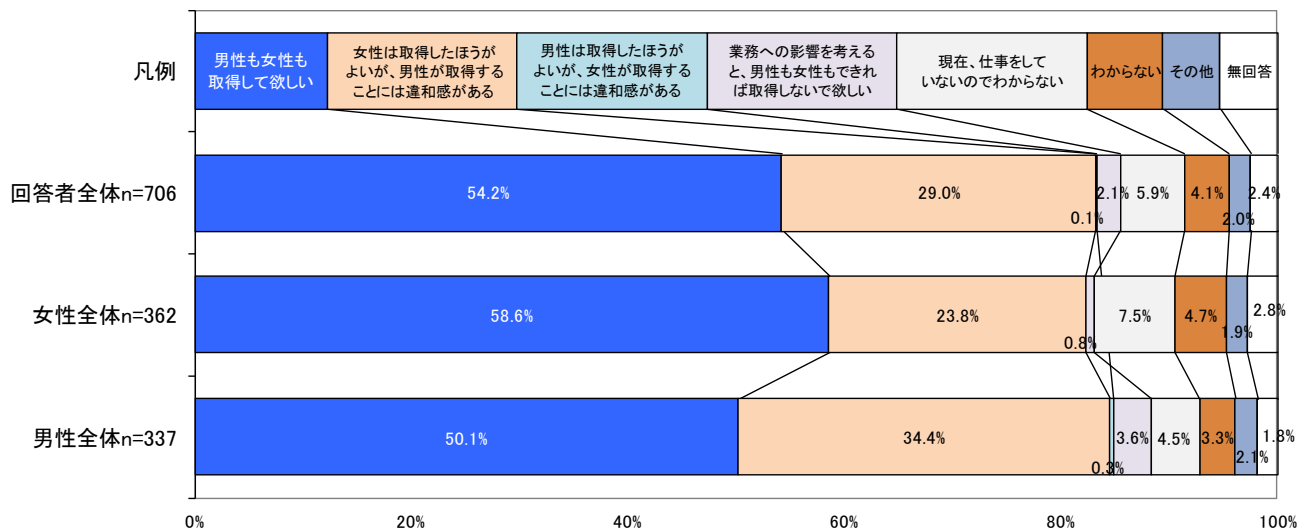
	合計	育児	高齢者や病人の介護	夫の転勤	家事	家族の理解や協力が得られないこと	女性の能力が正当に評価されないこと	仕事の内容にやりがいがないこと	長く働けるような職場の条件・制度が不十分	正社員としての再雇用制度が不十分	結婚・出産等により退職した女性の	昇進、教育訓練などでの男女の不公平	マタハラ等(セクハラ、パワハラ、)	女性には結婚や出産を機に辞めるのが当然という風潮があること	女性にはできない仕事が多いという考え	その他	特になし
全体	706	425	174	62	125	117	86	12	317	264	26	24	109	36	16	25	
小計	362	189	114	33	51	79	43	8	162	130	12	13	50	18	6	16	
結婚していない	95	56	32	8	18	22	12	3	43	38	3	5	14	4	1	3	
既婚(共働きである)	20	8	3	1	2	3	1	0	11	10	0	1	3	1	1	3	
既婚(共働きでない)	26	18	7	2	4	4	2	0	12	11	1	0	2	0	1	1	
死別	142	63	47	16	16	29	17	2	59	50	2	4	18	7	2	8	
離婚	76	43	24	6	11	21	9	3	34	20	5	3	13	6	1	1	
その他	1	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
無回答	2	0	1	0	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0	0	
小計	337	232	59	29	73	38	43	4	151	131	14	11	58	18	9	9	
結婚していない	24	15	9	4	3	3	7	0	5	12	1	1	5	1	2	0	
既婚(共働きである)	121	90	15	9	33	15	10	2	62	38	6	8	24	6	4	2	
既婚(共働きでない)	166	116	26	15	33	18	23	1	80	73	6	1	25	8	3	5	
死別	8	4	2	0	0	1	2	1	0	2	0	0	2	1	0	0	
離婚	8	4	4	1	1	0	1	0	1	2	1	0	0	2	0	0	
その他	6	1	2	0	1	1	0	0	2	2	0	0	1	0	0	2	
無回答	4	2	1	0	2	0	0	0	1	2	0	1	1	0	0	0	

8 育児休業取得についての考え方

問 10 あなたは、職場の男性または女性が育児休業を取得するとしたら、あなたはどのように思いますか。
次の中から1つ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

育児休業を取得することについての考え方をみると、「男性も女性も取得して欲しい」の54.2%が最も高く、これに「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」の29.0%が続いている。



<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べ「男性も女性も取得して欲しい」の割合が高くなっている。これに対し、「男性」は「女性」と比べ「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」では『20～30歳代』と『50歳代』は「男性も女性も取得して欲しい」の割合が高いほか、「40歳代」で「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」の割合が高くなっている。一方、「男性」の『30～60歳代』は「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」の割合が高くなっている。

	合計	い男性も女性も取得して欲しい	はが女違、性と男性が取得したほうがよい	はが男違、性と女性が取得したほうがよい	し男性も取得して欲しい	業務への影響を考えると	で現在から仕事をしていない	わからない	その他	無回答
全体	706	383	205	1	15	42	29	14	17	
	100.0%	54.2%	29.0%	0.1%	2.1%	5.9%	4.1%	2.0%	2.4%	
女性	小計	362	212	86	0	3	27	7	10	
		100.0%	58.6%	23.8%	0.0%	0.8%	7.5%	1.9%	2.8%	
	20歳代	41	33	4	0	1	0	2	1	
		100.0%	80.5%	9.8%	0.0%	2.4%	0.0%	4.9%	2.4%	
	30歳代	28	20	6	0	0	0	1	1	
		100.0%	71.4%	21.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	3.6%	
	40歳代	49	23	17	0	1	1	3	4	
		100.0%	46.9%	34.7%	0.0%	2.0%	2.0%	6.1%	8.2%	
	50歳代	39	30	7	0	0	2	0	0	
		100.0%	76.9%	17.9%	0.0%	0.0%	5.1%	0.0%	0.0%	
60歳代	75	44	20	0	1	4	4	0		
	100.0%	58.7%	26.7%	0.0%	1.3%	5.3%	5.3%	0.0%		
70歳代	54	31	14	0	0	8	0	0		
	100.0%	57.4%	25.9%	0.0%	0.0%	14.8%	0.0%	0.0%		
75歳以上	72	29	18	0	0	11	7	1		
	100.0%	40.3%	25.0%	0.0%	0.0%	15.3%	9.7%	1.4%		
無回答	4	2	0	0	0	1	0	0		
	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%		
男性	小計	337	169	116	1	12	15	11	7	
		100.0%	50.1%	34.4%	0.3%	3.6%	4.5%	3.3%	2.1%	
	20歳代	10	8	1	0	0	0	0	0	
		100.0%	80.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	30歳代	40	21	17	0	1	0	0	0	
		100.0%	52.5%	42.5%	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
	40歳代	61	33	21	1	2	1	1	2	
		100.0%	54.1%	34.4%	1.6%	3.3%	1.6%	1.6%	3.3%	
	50歳代	42	21	14	0	3	0	3	1	
		100.0%	50.0%	33.3%	0.0%	7.1%	0.0%	7.1%	2.4%	
60歳代	97	47	37	0	2	5	2	3		
	100.0%	48.5%	38.1%	0.0%	2.1%	5.2%	2.1%	3.1%		
70歳代	45	22	11	0	3	4	3	1		
	100.0%	48.9%	24.4%	0.0%	6.7%	8.9%	6.7%	2.2%		
75歳以上	39	16	13	0	1	5	2	0		
	100.0%	41.0%	33.3%	0.0%	2.6%	12.8%	5.1%	0.0%		
無回答	3	1	2	0	0	0	0	0		
	100.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		

<結婚の有無別にみた結果>

「女性」の「結婚していない」、「既婚(共働きである)」、「離婚」と「男性」の「結婚していない」では「男性も女性も取得して欲しい」の割合が高くなっている。「男性」では共働きの有無に関わらず「既婚」では「女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある」の割合が30%を超え、比較的高くなっている。

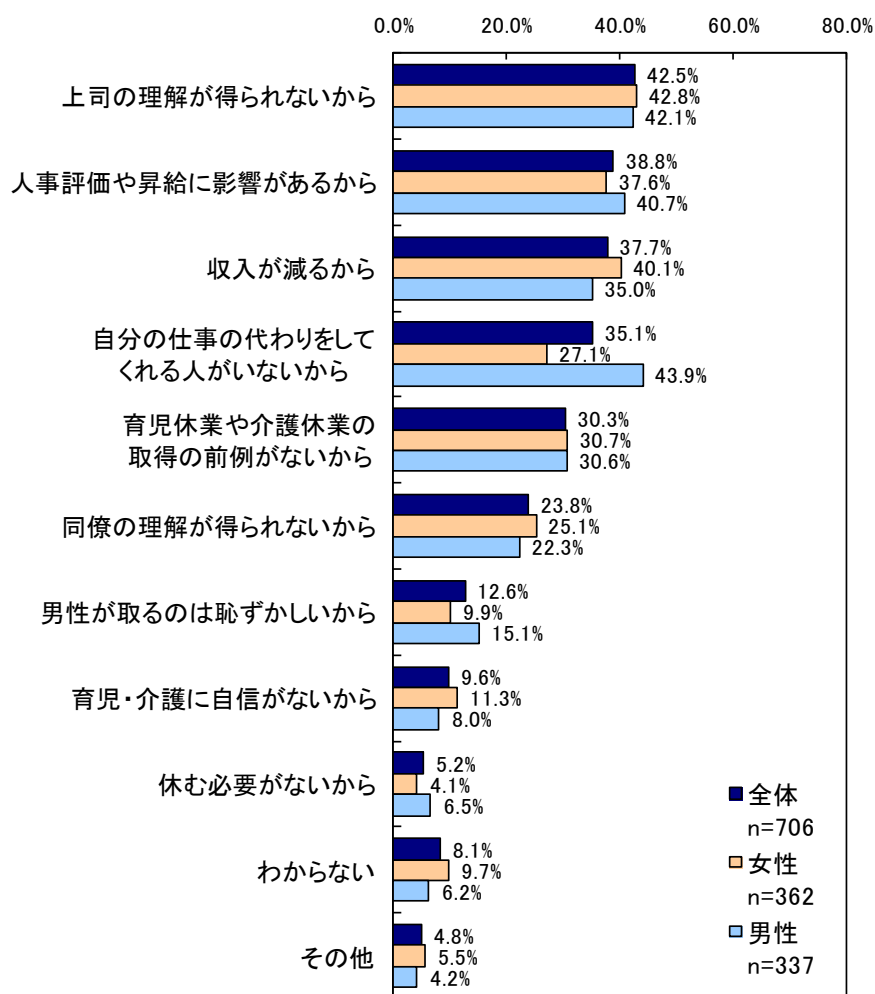
	合計	い男性も女性も取得して欲しい	はが女性と男性が取得するのとよい	はが女性と男性が取得するのとよい	はが女性と男性が取得するのとよい	し男性も女性も取得して欲しい	業務への影響を考えると、	で現在、仕事をしていないの	わからない	その他	無回答
全体	706 100.0%	383 54.2%	205 29.0%	1 0.1%	15 2.1%	42 5.9%	29 4.1%	14 2.0%	17 2.4%		
女性	小計	362 100.0%	212 58.6%	86 23.8%	0 0.0%	3 0.8%	27 7.5%	17 4.7%	7 1.9%	10 2.8%	
	結婚していない	95 100.0%	63 66.3%	23 24.2%	0 0.0%	2 2.1%	3 3.2%	2 2.1%	2 2.1%	0 0.0%	
	既婚(共働きである)	20 100.0%	13 65.0%	5 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%	0 0.0%	1 5.0%	0 0.0%	
	既婚(共働きでない)	26 100.0%	13 50.0%	5 19.2%	0 0.0%	0 0.0%	3 11.5%	3 11.5%	2 7.7%	0 0.0%	
	死別	142 100.0%	73 51.4%	33 23.2%	0 0.0%	1 0.7%	17 12.0%	7 4.9%	1 0.7%	10 7.0%	
	離婚	76 100.0%	49 64.5%	20 26.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 2.6%	4 5.3%	1 1.3%	0 0.0%	
	その他	1 100.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	無回答	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	100.0% 50.0%	100.0% 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	
	男性	小計	337 100.0%	169 50.1%	116 34.4%	1 0.3%	12 3.6%	15 4.5%	11 3.3%	7 2.1%	6 1.8%
結婚していない		24 100.0%	16 66.7%	3 12.5%	1 4.2%	0 0.0%	1 4.2%	3 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	
既婚(共働きである)		121 100.0%	65 53.7%	45 37.2%	0 0.0%	4 3.3%	0 0.0%	1 0.8%	4 3.3%	2 1.7%	
既婚(共働きでない)		166 100.0%	78 47.0%	56 33.7%	0 0.0%	8 4.8%	13 7.8%	5 3.0%	3 1.8%	3 1.8%	
死別		8 100.0%	3 37.5%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	
離婚		8 100.0%	2 25.0%	4 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	
その他		6 100.0%	2 33.3%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	
無回答		4 100.0%	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	

9 男性の育児休業や介護休業が進まない理由

問 11 男性の育児休業や介護休業が進まない現状にありますか、それはどのような理由からだと思
いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

男性の育児休業や介護休業が進まない理由をみると、「上司の理解が得られないから」の42.5%が最も高く、これに「人事評価や昇給に影響があるから」の38.8%、「収入が減るから」の37.7%が続いている。これら以外の選択肢で30%を超えているのは、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」(35.1%)、「育児休業や介護休業の取得の前例がないから」(30.3%)となっており、男性が育児休業や介護休業を取得するには、依然、さまざまな障壁があることがうかがえる結果となっている。



<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べ「収入が減るから」の割合が高くなっている。これに対し、「男性」は「女性」と比べ「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の『20～50歳代』では「収入が減るから」の割合が高い。一方、「男性」では『40～70歳代』で「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」の割合が高くなっているほか、「30歳代」で「上司の理解が得られないから」と「同僚の理解が得られないから」の割合が高くなっている。

	合計	自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから	同僚の理解が得られないから	上司の理解が得られないから	収入が減るから	人事評価や昇給に影響があるから	休む必要がないから	育児・介護に自信がないから	育児休業や介護休業の取得の前例がないから	男性が取るのは恥ずかしいから	わからない	その他	
全体	706	248 35.1%	168 23.8%	300 42.5%	266 37.7%	274 38.8%	37 5.2%	68 9.6%	214 30.3%	89 12.6%	57 8.1%	34 4.8%	
女性	小計	362	98 27.1%	91 25.1%	155 42.8%	145 40.1%	136 37.6%	15 4.1%	41 11.3%	111 30.7%	36 9.9%	35 9.7%	20 5.5%
	20歳代	41	8 19.5%	10 24.4%	19 46.3%	19 46.3%	20 48.8%	2 4.9%	4 9.8%	12 29.3%	5 12.2%	3 7.3%	6 14.6%
	30歳代	28	6 21.4%	8 28.6%	17 60.7%	16 57.1%	11 39.3%	1 3.6%	4 14.3%	8 28.6%	2 7.1%	1 3.6%	3 10.7%
	40歳代	49	17 34.7%	13 26.5%	21 42.9%	22 44.9%	14 28.6%	5 10.2%	5 10.2%	17 34.7%	8 16.3%	2 4.1%	3 6.1%
	50歳代	39	15 38.5%	5 12.8%	16 41.0%	18 46.2%	18 46.2%	1 2.6%	3 7.7%	15 38.5%	3 7.7%	1 2.6%	2 5.1%
	60歳代	75	17 22.7%	22 29.3%	38 50.7%	30 40.0%	29 38.7%	1 1.3%	10 13.3%	33 44.0%	6 8.0%	7 9.3%	1 1.3%
	70歳代	54	17 31.5%	17 31.5%	22 40.7%	18 33.3%	22 40.7%	1 1.9%	5 9.3%	13 24.1%	6 11.1%	5 9.3%	2 3.7%
	75歳以上	72	17 23.6%	16 22.2%	20 27.8%	21 29.2%	21 29.2%	4 5.6%	10 13.9%	11 15.3%	5 6.9%	16 22.2%	3 4.2%
	無回答	4	1 25.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
	男性	小計	337	148 43.9%	75 22.3%	142 42.1%	118 35.0%	137 40.7%	22 6.5%	27 8.0%	103 30.6%	51 15.1%	21 6.2%
20歳代		10	3 30.0%	6 60.0%	6 60.0%	4 40.0%	0 0.0%	2 20.0%	0 0.0%	4 40.0%	1 10.0%	0 0.0%	1 10.0%
30歳代		40	14 35.0%	14 35.0%	25 62.5%	16 40.0%	17 42.5%	1 2.5%	0 0.0%	15 37.5%	6 15.0%	0 0.0%	3 7.5%
40歳代		61	31 50.8%	16 26.2%	22 36.1%	29 47.5%	20 32.8%	3 4.9%	4 6.6%	16 26.2%	10 16.4%	1 1.6%	6 9.8%
50歳代		42	19 45.2%	5 11.9%	19 45.2%	15 35.7%	24 57.1%	2 4.8%	5 11.9%	18 42.9%	6 14.3%	0 0.0%	0 0.0%
60歳代		97	44 45.4%	21 21.6%	41 42.3%	26 26.8%	39 40.2%	8 8.2%	10 10.3%	32 33.0%	19 19.6%	4 4.1%	2 2.1%
70歳代		45	23 51.1%	6 13.3%	17 37.8%	15 33.3%	18 40.0%	2 4.4%	6 13.3%	12 26.7%	5 11.1%	6 13.3%	1 2.2%
75歳以上		39	12 30.8%	7 17.9%	11 28.2%	12 30.8%	19 48.7%	4 10.3%	2 5.1%	6 15.4%	3 7.7%	9 23.1%	1 2.6%
無回答		3	2 66.7%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%

<結婚の有無別にみた結果>

「男性」では結婚の有無に関わらず、「自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから」の割合が高くなっている。「女性」では結婚経験のある「既婚(共働きである)」と「同(共働きでない)」、「離婚」で「上司の理解が得られないから」の割合が高くなっている。

	合計	人 が 自 分 の 代 り を し て く れ る	同 僚 の 理 解 が 得 ら れ な い か ら	上 司 の 理 解 が 得 ら れ な い か ら	収 入 が 減 る か ら	人 事 評 価 や 昇 給 に 影 響 が あ る か ら	休 む 必 要 が な い か ら	育 児 ・ 介 護 に 自 信 が な い か ら	育 児 休 業 や 介 護 休 業 の 取 得 の 前 例 が な い か ら	男 性 が 取 る の は 恥 ず か し い か ら	わ か ら な い	そ の 他	
全体	706	248	168	300	266	274	37	68	214	89	57	34	
		35.1%	23.8%	42.5%	37.7%	38.8%	5.2%	9.6%	30.3%	12.6%	8.1%	4.8%	
女性	小計	362	98	91	155	145	136	15	41	111	36	35	20
			27.1%	25.1%	42.8%	40.1%	37.6%	4.1%	11.3%	30.7%	9.9%	9.7%	5.5%
	結婚していない	95	26	25	35	45	43	4	9	29	8	7	7
			27.4%	26.3%	36.8%	47.4%	45.3%	4.2%	9.5%	30.5%	8.4%	7.4%	7.4%
	既婚(共働きである)	20	5	3	12	10	6	1	1	7	1	2	3
			25.0%	15.0%	60.0%	50.0%	30.0%	5.0%	5.0%	35.0%	5.0%	10.0%	15.0%
	既婚(共働きでない)	26	7	7	13	8	7	0	4	7	5	2	2
			26.9%	26.9%	50.0%	30.8%	26.9%	0.0%	15.4%	26.9%	19.2%	7.7%	7.7%
	死別	142	34	37	57	46	52	5	16	39	10	19	6
		23.9%	26.1%	40.1%	32.4%	36.6%	3.5%	11.3%	27.5%	7.0%	13.4%	4.2%	
離婚	76	24	19	37	36	27	5	10	28	12	4	2	
		31.6%	25.0%	48.7%	47.4%	35.5%	6.6%	13.2%	36.8%	15.8%	5.3%	2.6%	
その他	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無回答	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	
男性	小計	337	148	75	142	118	137	22	27	103	51	21	14
			43.9%	22.3%	42.1%	35.0%	40.7%	6.5%	8.0%	30.6%	15.1%	6.2%	4.2%
	結婚していない	24	12	7	11	9	9	3	3	5	2	1	2
			50.0%	29.2%	45.8%	37.5%	37.5%	12.5%	12.5%	20.8%	8.3%	4.2%	8.3%
	既婚(共働きである)	121	51	36	57	47	49	4	4	42	21	1	5
			42.1%	29.8%	47.1%	38.8%	40.5%	3.3%	3.3%	34.7%	17.4%	0.8%	4.1%
	既婚(共働きでない)	166	77	28	67	56	69	11	17	50	23	15	6
			46.4%	16.9%	40.4%	33.7%	41.6%	6.6%	10.2%	30.1%	13.9%	9.0%	3.6%
	死別	8	4	2	1	0	4	2	0	0	4	1	0
		50.0%	25.0%	12.5%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	12.5%	0.0%	
離婚	8	3	2	2	3	3	0	1	2	1	2	0	
		37.5%	25.0%	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	12.5%	25.0%	12.5%	25.0%	0.0%	
その他	6	0	0	4	2	3	2	1	3	0	1	0	
		0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	50.0%	33.3%	16.7%	50.0%	0.0%	16.7%	0.0%	
無回答	4	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	
		25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	

10 男性と女性の仕事と家庭の関わり方

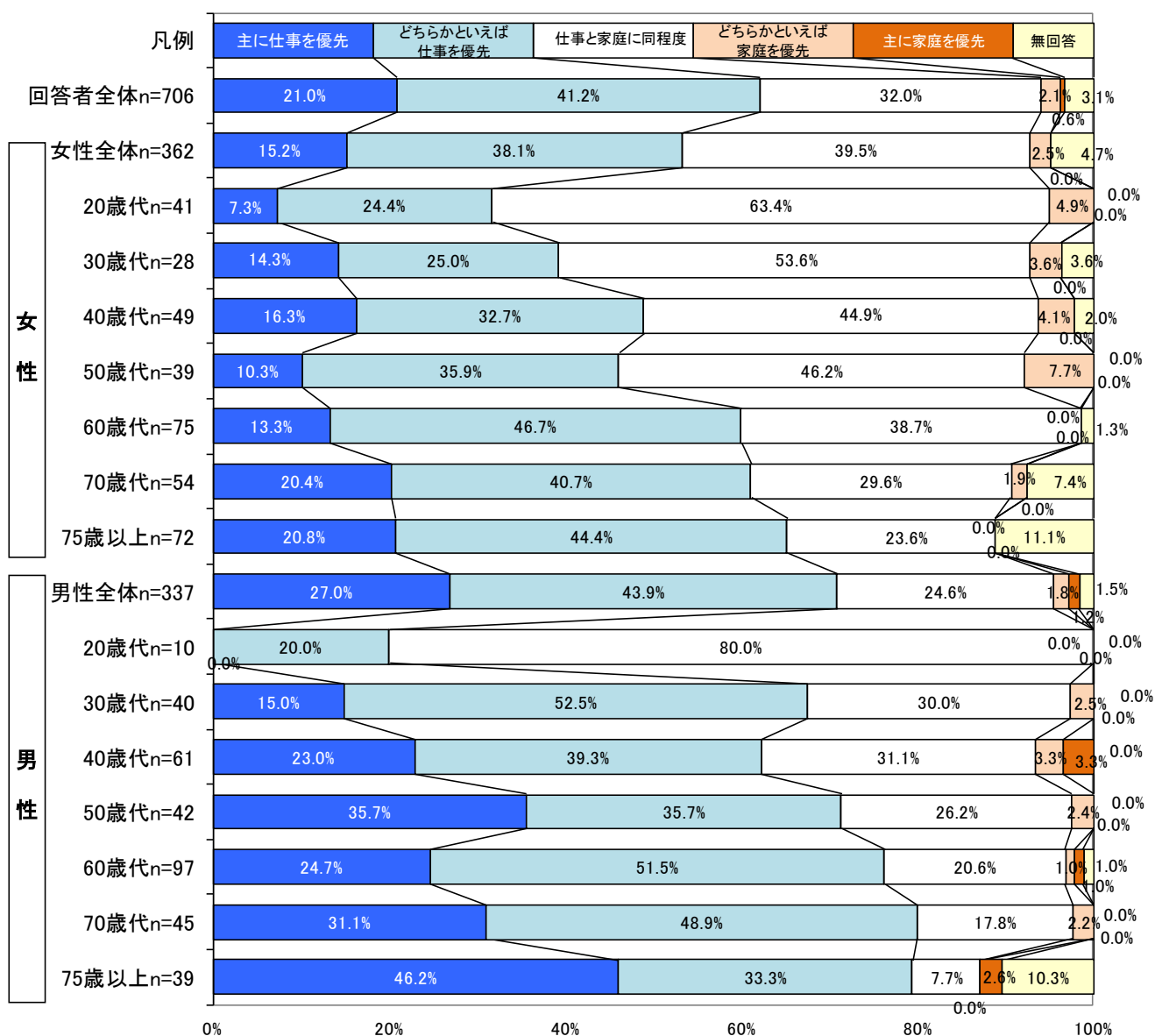
問 12 あなたは男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか。(ア)、(イ)それぞれに、次の中から1つずつ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

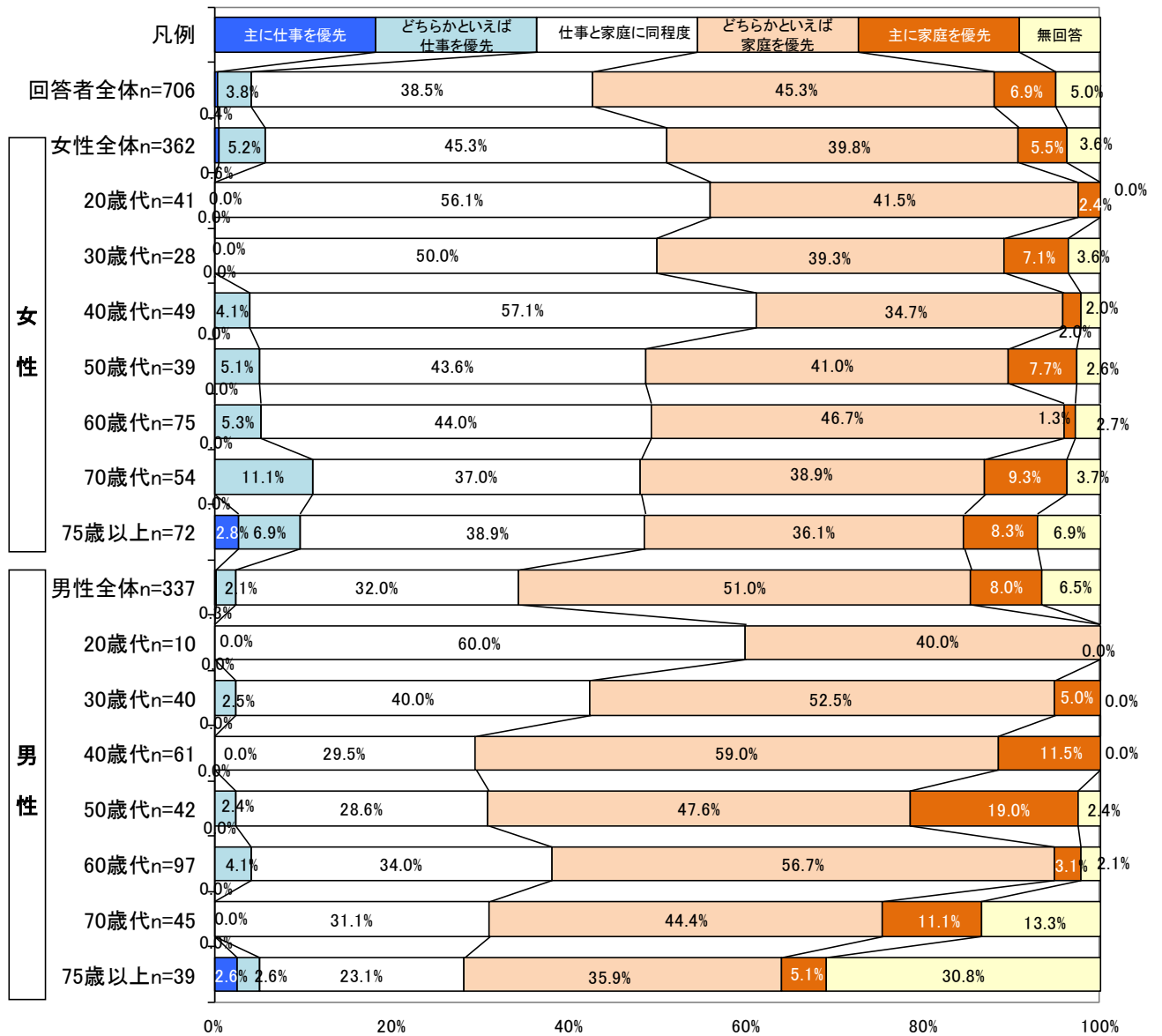
仕事と家庭について(ア)の男性の関わり方をみると、「どちらかといえば仕事を優先する」の41.2%が最も高く、これに「仕事と家庭に同程度かかわる」の32.0%が続いている。「主に仕事を優先する」と「どちらかといえば仕事を優先する」を合わせた『仕事を優先する』層は、全体の62.2%を占めている。

一方、(イ)の女性の関わり方をみると、「どちらかといえば家庭を優先する」の45.3%が最も高く、これに「仕事と家庭に同程度かかわる」の38.5%が続いている。「主に家庭を優先する」と「どちらかといえば家庭を優先する」を合わせた『家庭を優先する』層は全体の52.2%を占め、『仕事を優先する』層は4.2%を占めているに過ぎない。

(ア)男性の好ましい関わり方



(イ)女性の好ましい関わり方



<前回との比較>

平成 23 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減があった項目をみると、(ア) の男性の関わり方では、「どちらかといえば仕事を優先する」(平成 28 年 41.2%、5.4 ポイント減)、「仕事と家庭に同程度かかわる」(平成 28 年 32.0%、5.1 ポイント増)となっている。(イ) の女性の関わり方では、「どちらかといえば家庭を優先する」(平成 28 年 45.3%、5.4 ポイント減)、「仕事と家庭に同程度かかわる」(平成 28 年 38.5%、4.3 ポイント増)となっている。「男性」で家庭との関わりを優先する人が増加する一方、「女性」では家庭だけでなく仕事にかかわる人が増加している。

(ア) 男性の好ましい関わり方

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
主に仕事を優先する	20.2	21.0
どちらかといえば仕事を優先する	46.6	41.2
仕事と家庭に同程度かかわる	26.9	32.0
どちらかといえば家庭を優先する	1.4	2.1
主に家庭を優先する	0.8	0.6
無回答	4.1	3.1
合計	100.0	100.0

(イ) 女性の好ましい関わり方

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
主に仕事を優先する	0.5	0.4
どちらかといえば仕事を優先する	2.5	3.8
仕事と家庭に同程度かかわる	34.2	38.5
どちらかといえば家庭を優先する	50.7	45.3
主に家庭を優先する	8.1	6.9
無回答	3.9	5.0
合計	100.0	100.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

「(ア) 男性の好ましい関わり方」

性別にみると、「女性」で「仕事と家庭に同程度かかわる」の割合が高く、「男性」で『仕事優先』の割合が高い。

性・年代別にみると、「女性」の『20～50 歳代』では「仕事と家庭に同程度かかわる」の割合が高く、「男性」の『40 歳代以上』では「主に仕事を優先する」の割合が高い。

「(イ) 女性の好ましい関わり方」

性別にみると、「女性」で「仕事と家庭に同程度かかわる」の割合が高く、「男性」で「どちらかといえば家庭を優先する」の割合が高い。

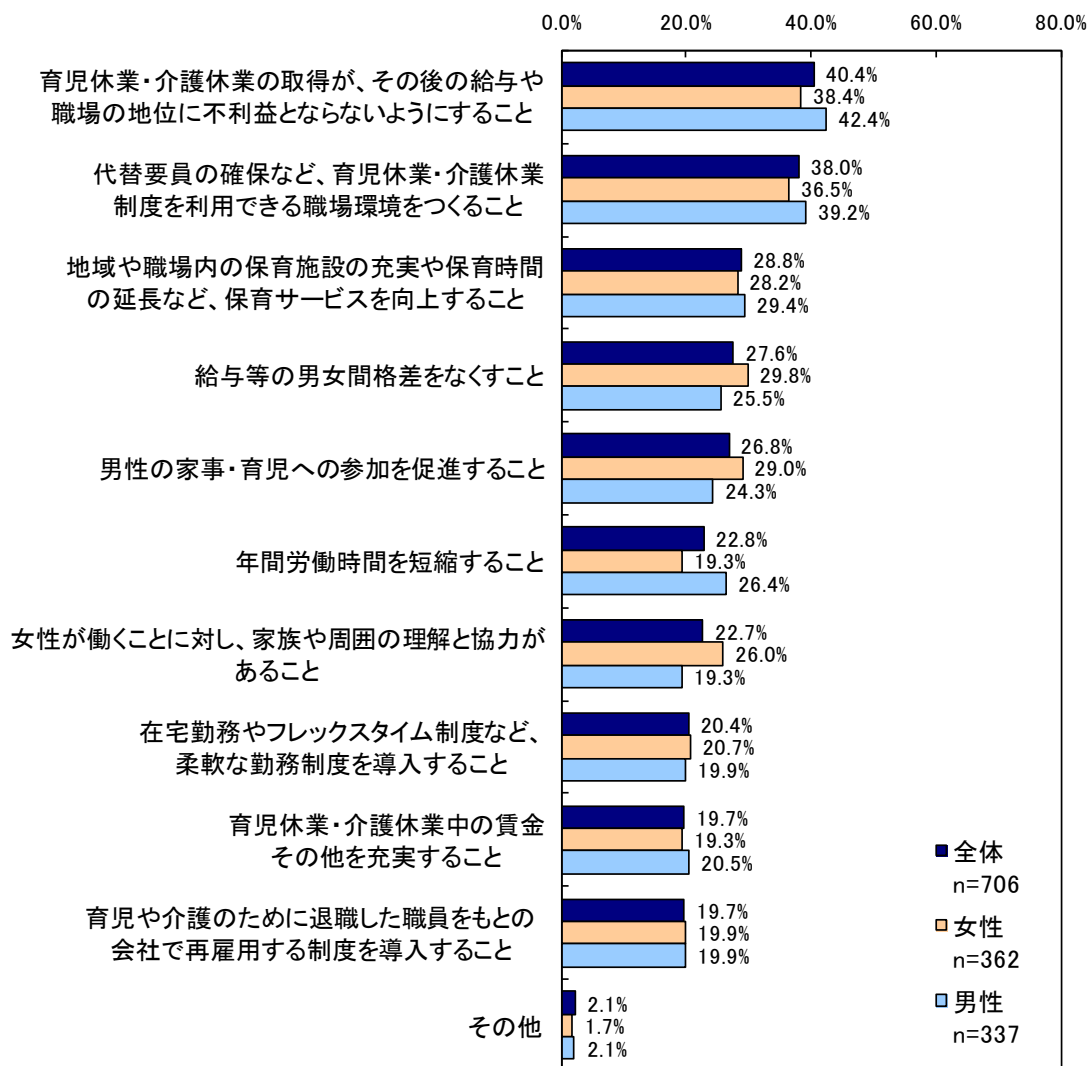
性・年代別にみると、「女性」の『20～40 歳代』では「仕事と家庭に同程度かかわる」の割合が高く、「男性」の『30 歳代以上』では「どちらかといえば家庭を優先する」の割合が高い。

1 1 仕事と家庭の両立のための条件

問 13 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

男女が共に仕事と家庭の両立をしていくための条件をみると、「育児休業・介護休業の取得が、その後の給与や職場の地位に不利益とならないようにすること」の40.4%が最も高く、これに「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」の38.0%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスを向上すること」(28.8%)、「給与等の男女間格差をなくすこと」(27.6%)、「男性の家事・育児への参加を促進すること」(26.8%)の順となっている。



<前回との比較>

平成 23 年調査と比較して 5 ポイント以上の増加した項目をみると、「育児休業・介護休業の取得が、その後の給与や職場の地位に不利益とならないようにすること」(平成 28 年 40.4%、11.7 ポイント増)、「給与等の男女間格差をなくすこと」(平成 28 年 27.6%、5.4 ポイント増)となっている。一方、5 ポイント以上減少した項目をみると、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」(平成 28 年 22.7%、15.2 ポイント減)、「男性の家事・育児への参加を促進すること」(平成 28 年 26.8%、7.9 ポイント減)となっている。平成 23 年調査では男性や家族などの理解促進や保育サービスの充実を求める条件が上位となっていたが、今回の調査では職場環境の改善を求める内容が上位となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
給与等の男女間格差をなくすこと	22.2	27.6
年間労働時間を短縮すること	19.6	22.8
男性の家事・育児への参加を促進すること	34.7	26.8
代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	34.6	38.0
育児休業・介護休業中の賃金その他を充実すること	17.0	19.7
育児休業・介護休業の取得が、その後の給与や職場の地位に不利益とならないようにすること	28.7	40.4
地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスを向上すること	32.7	28.8
育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	20.2	19.7
在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	20.8	20.4
女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	37.9	22.7
その他	1.1	2.1

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」では「男性の家事・育児への参加を促進すること」と「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合が高く、「男性」では「年間労働時間を短縮すること」の割合が高い。

性・年代別にみると、「女性」の『20～30 歳代』では「育児休業・介護休業中の賃金その他を充実すること」と「地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスを向上すること」、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が高い。同じく『30～60 歳代』では「男性の家事・育児への参加を促進すること」、「50～70 歳代』では「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」の割合が高くなっている。

一方、「男性」の「30 歳代」では「育児休業・介護休業中の賃金その他を充実すること」と「地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスを向上すること」の割合が高くなっている。また、「50 歳代」では「給与等の男女間格差をなくすこと」と「年間労働時間を短縮すること」、「育児休業・介護休業中の賃金その他を充実すること」、「育児休業・介護休業の取得が、その後の給与や職場の地位に不利益とならないようにすること」、「育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること」、「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」の割合が高く、職場経営や改善に関わることを多く挙げている。

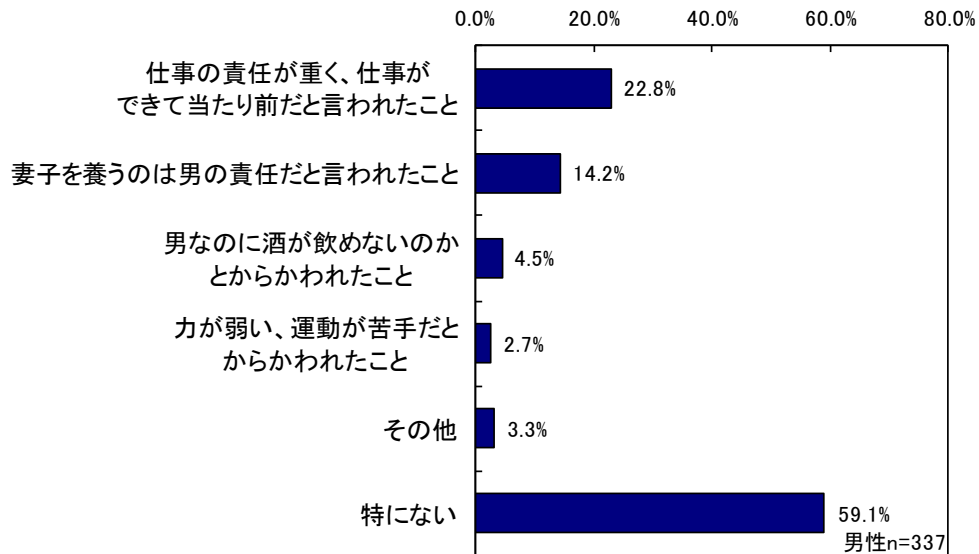
	合計	給与等の男女間格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	男性の家事・育児への参加を促進すること	できる・職場環境をつくること	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用すること	育児休業・介護休業中の賃金を充実すること	地位に不利とならないよう、その後の給与や職場の取得に努めること	育児休業・介護休業の取得が、その後の給与や職場の取得に不利とならないよう、その後の給与や職場の取得に努めること	地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスの向上を図ること	育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制を導入すること	家族や周囲の理解と協力があ	女性が働くことに対し、家事や周囲の理解と協力があ	その他
全体	706	195 27.6%	161 22.8%	189 26.8%	268 38.0%	139 19.7%	285 40.4%	203 28.8%	139 19.7%	144 20.4%	160 22.7%	15 2.1%			
女性	小計	362	108 29.8%	70 19.3%	105 29.0%	132 36.5%	70 19.3%	139 38.4%	102 28.2%	72 19.9%	75 20.7%	94 26.0%	6 1.7%		
	20歳代	41	13 31.7%	14 34.1%	4 9.8%	11 26.8%	10 24.4%	19 46.3%	17 41.5%	6 14.6%	11 26.8%	8 19.5%	2 4.9%		
	30歳代	28	10 35.7%	4 14.3%	12 42.9%	4 14.3%	11 39.3%	5 17.9%	13 46.4%	1 3.6%	11 39.3%	2 7.1%	1 3.6%		
	40歳代	49	14 28.6%	11 22.4%	18 36.7%	16 32.7%	10 20.4%	17 34.7%	10 20.4%	8 16.3%	12 24.5%	14 28.6%	2 4.1%		
	50歳代	39	13 33.3%	3 7.7%	12 30.8%	17 43.6%	7 17.9%	22 56.4%	14 35.9%	9 23.1%	7 17.9%	7 17.9%	0 0.0%		
	60歳代	75	23 30.7%	16 21.3%	24 32.0%	34 45.3%	14 18.7%	28 37.3%	18 24.0%	15 20.0%	20 26.7%	19 25.3%	0 0.0%		
	70歳代	54	18 33.3%	12 22.2%	15 27.8%	26 48.1%	6 11.1%	24 44.4%	13 24.1%	15 27.8%	8 14.8%	19 35.2%	0 0.0%		
	75歳以上	72	17 23.6%	10 13.9%	19 26.4%	23 31.9%	12 16.7%	24 33.3%	16 22.2%	17 23.6%	6 8.3%	24 33.3%	1 1.4%		
	無回答	4	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%		
	男性	小計	337	86 25.5%	89 26.4%	82 24.3%	132 39.2%	69 20.5%	143 42.4%	99 29.4%	67 19.9%	67 19.9%	65 19.3%	7 2.1%	
20歳代		10	0 0.0%	5 50.0%	4 40.0%	4 40.0%	4 40.0%	5 50.0%	3 30.0%	1 10.0%	1 10.0%	2 20.0%	0 0.0%		
30歳代		40	10 25.0%	8 20.0%	11 27.5%	16 40.0%	10 25.0%	14 35.0%	17 42.5%	5 12.5%	9 22.5%	7 17.5%	3 7.5%		
40歳代		61	13 21.3%	18 29.5%	19 31.1%	23 37.7%	11 18.0%	23 37.7%	18 29.5%	8 13.1%	15 24.6%	12 19.7%	2 3.3%		
50歳代		42	14 33.3%	12 28.6%	8 19.0%	15 35.7%	11 26.2%	21 50.0%	7 16.7%	11 26.2%	12 28.6%	4 9.5%	1 2.4%		
60歳代		97	24 24.7%	22 22.7%	19 19.6%	49 50.5%	15 15.5%	38 39.2%	35 36.1%	21 21.6%	20 20.6%	24 24.7%	0 0.0%		
70歳代		45	14 31.1%	15 33.3%	10 22.2%	14 31.1%	8 17.8%	19 42.2%	11 24.4%	11 24.4%	8 17.8%	7 15.6%	1 2.2%		
75歳以上		39	10 25.6%	8 20.5%	10 25.6%	11 28.2%	10 25.6%	21 53.8%	7 17.9%	9 23.1%	2 5.1%	8 20.5%	0 0.0%		
無回答		3	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%		

12 日常生活で男性がつらいと感じること

問 14 男性にお聞きします。あなたは、日常生活の中で「男もつらい」と感じたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

男性に限定して、日常生活の中で「男もつらい」と感じたことをみると、「仕事の責任が重く、仕事ができたり前だと言われたこと」の 22.8% が最も高く、これに「妻子を養うのは男の責任だと言われたこと」の 14.2% が続いている。仕事や家計に関わる内容に「つらい」と感じている人の割合が高い。



<前回との比較>

平成 23 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減した項目をみると、「特にない」(平成 28 年 59.1%、10.2 ポイント増)、「妻子を養うのは男の責任だと言われたこと」(平成 28 年 14.2%、9.2 ポイント減)となっている。「妻子を養うのは男の責任だと言われたこと」が減少した分、「特にない」の割合が増加している。

	平成23年 n=333 %	平成28年 n=337 %
妻子を養うのは男の責任だと言われたこと	23.4	14.2
男なのに酒が飲めないのかとからかわれたこと	3.6	4.5
仕事の責任が重く、仕事ができたり前だと言われたこと	24.6	22.8
力が弱い、運動が苦手だとからかわれたこと	2.4	2.7
その他	1.2	3.3
特にない	48.9	59.1

<年代別にみた結果>

年代別にみると、「30歳代」は「特にない」の割合が50.0%で他の年代と比べ最も低く、その分、「仕事の責任が重く、仕事ができたり前だと言われたこと」と「妻子を養うのは男の責任だと言われたこと」、「力が弱い、運動が苦手だからかわれたこと」の割合が高くなっている。

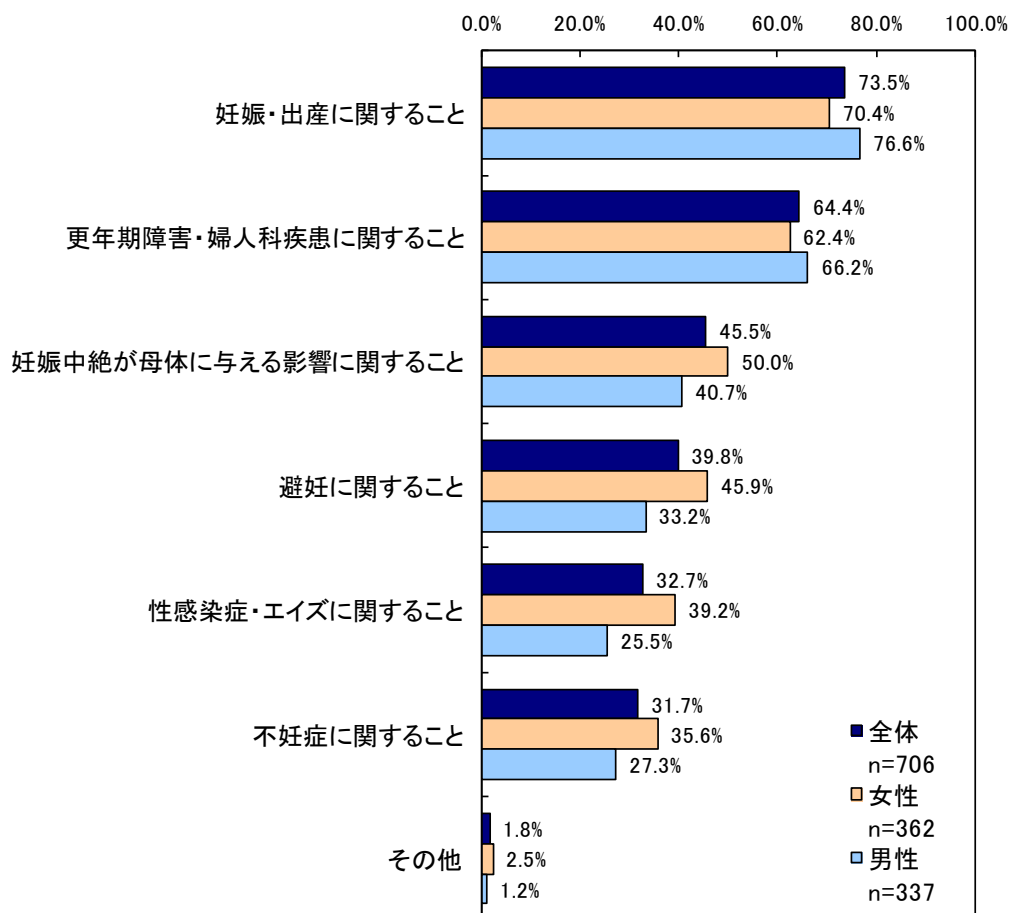
	合計	わ 妻 子 を 養 う の は 男 の 責 任 だ と 言 わ れ た こ と	ら 男 か わ れ た の に 酒 が 飲 め な い の か と か	て 仕 事 の 責 任 が 重 く 、 仕 事 が で き な か ら い と 言 わ れ た こ と	か 力 が 弱 い こ と 、 運 動 が 苦 手 だ と か ら	そ の 他	特 に な い	
男性	小計	337	48	15	77	9	11	199
			14.2%	4.5%	22.8%	2.7%	3.3%	59.1%
	20歳代	10	1	1	2	0	0	6
			10.0%	10.0%	20.0%	0.0%	0.0%	60.0%
	30歳代	40	11	2	12	4	2	20
			27.5%	5.0%	30.0%	10.0%	5.0%	50.0%
	40歳代	61	7	2	17	3	3	34
			11.5%	3.3%	27.9%	4.9%	4.9%	55.7%
	50歳代	42	7	2	10	0	4	22
			16.7%	4.8%	23.8%	0.0%	9.5%	52.4%
60歳代	97	11	4	19	2	1	63	
		11.3%	4.1%	19.6%	2.1%	1.0%	64.9%	
70歳代	45	5	2	9	0	1	29	
		11.1%	4.4%	20.0%	0.0%	2.2%	64.4%	
75歳以上	39	6	2	8	0	0	22	
		15.4%	5.1%	20.5%	0.0%	0.0%	56.4%	
無回答	3	0	0	0	0	0	3	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	

13 女性の体を保護するために知っておいたほうがよいこと

問 15 あなたは、女性の体を保護するために、男女とも知っておいたほうがよいことは、どのようなことだと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

女性の体を保護するために男女とも知っておいたほうがよいと思うことについては、「妊娠・出産に関すること」の73.5%が最も高く、これに「更年期障害・婦人科疾患に関すること」の64.4%が続いている。以下、「その他」を除くすべての選択肢で30%を超えている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減した項目はなく、大きな変動は認められない。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
妊娠・出産に関すること	70.8	73.5
更年期障害・婦人科疾患に関すること	67.9	64.4
性感染症・エイズに関すること	37.4	32.7
妊娠中絶が母体に与える影響に関すること	47.9	45.5
避妊に関すること	40.9	39.8
不妊症に関すること	29.2	31.7
その他	0.8	1.8

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」では「性感染症・エイズに関すること」と「妊娠中絶が母体に与える影響に関すること」、「避妊に関すること」、「不妊症に関すること」と、具体的な内容の割合が高く、「男性」では「妊娠・出産に関すること」の割合が高い。

性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」では「更年期障害・婦人科疾患に関すること」を除くすべての項目の割合が高くなっている。同じく「40歳代」では「更年期障害・婦人科疾患に関すること」を含むすべての項目の割合が高くなっている。

一方、「男性」の「30歳代」では「妊娠・出産に関すること」と「妊娠中絶が母体に与える影響に関すること」、「避妊に関すること」、「不妊症に関すること」の割合が高く、「40歳代」では「妊娠・出産に関すること」と「更年期障害・婦人科疾患に関すること」、「不妊症に関すること」の割合が高くなっている。

		す妊 るこ と出 産に 関	る人 こ科 と疾 患障 害 関 す 婦	ズ性 に感 染 す 症 ・ こ エ と イ	関に 妊 と 娠 中 絶 が 母 体 に	と避 妊 に 関 す こ	こ不 と妊 症 に 関 す	そ の 他	
全体	706	519	455	231	321	281	224	13	
		73.5%	64.4%	32.7%	45.5%	39.8%	31.7%	1.8%	
女性	小計	362	255	226	142	181	166	129	9
			70.4%	62.4%	39.2%	50.0%	45.9%	35.6%	2.5%
	20歳代	41	39	23	25	31	32	24	4
			95.1%	56.1%	61.0%	75.6%	78.0%	58.5%	9.8%
	30歳代	28	21	16	9	13	15	13	0
			75.0%	57.1%	32.1%	46.4%	53.6%	46.4%	0.0%
	40歳代	49	39	35	19	26	25	22	1
			79.6%	71.4%	38.8%	53.1%	51.0%	44.9%	2.0%
	50歳代	39	28	32	14	17	16	15	3
			71.8%	82.1%	35.9%	43.6%	41.0%	38.5%	7.7%
	60歳代	75	48	49	25	32	35	21	0
		64.0%	65.3%	33.3%	42.7%	46.7%	28.0%	0.0%	
70歳代	54	40	33	25	29	20	16	1	
		74.1%	61.1%	46.3%	53.7%	37.0%	29.6%	1.9%	
75歳以上	72	37	38	24	33	22	18	0	
		51.4%	52.8%	33.3%	45.8%	30.6%	25.0%	0.0%	
無回答	4	3	0	1	0	1	0	0	
		75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
男性	小計	337	258	223	86	137	112	92	4
			76.6%	66.2%	25.5%	40.7%	33.2%	27.3%	1.2%
	20歳代	10	10	1	5	7	5	3	0
			100.0%	10.0%	50.0%	70.0%	50.0%	30.0%	0.0%
	30歳代	40	38	23	15	23	26	22	1
			95.0%	57.5%	37.5%	57.5%	65.0%	55.0%	2.5%
	40歳代	61	54	49	19	27	25	27	0
			88.5%	80.3%	31.1%	44.3%	41.0%	44.3%	0.0%
	50歳代	42	27	28	10	14	15	12	1
			64.3%	66.7%	23.8%	33.3%	35.7%	28.6%	2.4%
60歳代	97	73	66	25	37	26	20	1	
		75.3%	68.0%	25.8%	38.1%	26.8%	20.6%	1.0%	
70歳代	45	35	30	8	16	11	6	1	
		77.8%	66.7%	17.8%	35.6%	24.4%	13.3%	2.2%	
75歳以上	39	19	25	3	12	3	2	0	
		48.7%	64.1%	7.7%	30.8%	7.7%	5.1%	0.0%	
無回答	3	2	1	1	1	1	0	0	
		66.7%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	

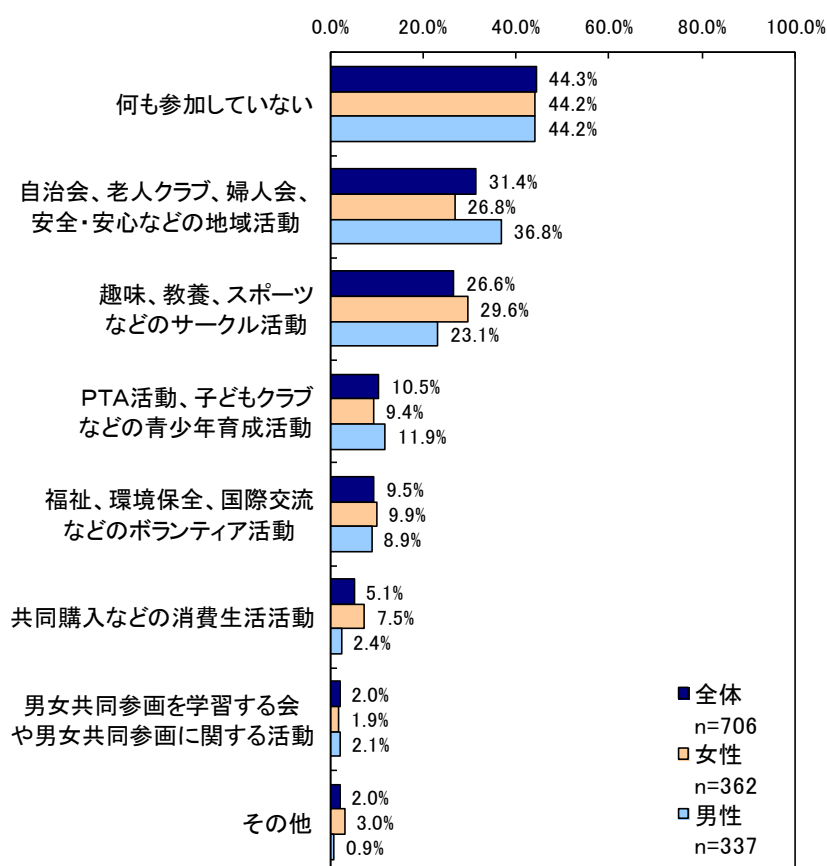
第4章 社会参加について

1 参加している地域社会活動

問 16 あなたは、次のような地域社会活動に参加していますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

参加している地域社会活動をみると、「何も参加していない」の44.3%が最も高く、これに「自治会、老人クラブ、婦人会、安全・安心などの地域活動」の31.4%、「趣味、教養、スポーツなどのサークル活動」の26.6%が続いている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減した項目をみると、「PTA活動、子どもクラブなどの青少年育成活動」(平成28年10.5%、10.0ポイント減)、「何も参加していない」(平成28年44.3%、5.4ポイント増)となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
自治会、老人クラブ、婦人会、安全・安心などの地域活動	30.2	31.4
PTA活動、子どもクラブなどの青少年育成活動	20.5	10.5
趣味、教養、スポーツなどのサークル活動	27.6	26.6
福祉、環境保全、国際交流などのボランティア活動	8.9	9.5
共同購入などの消費生活活動	8.6	5.1
男女共同参画を学習する会や男女共同参画に関する活動	1.3	2.0
その他	0.4	2.0
何も参加していない	38.9	44.3

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」では「共同購入などの消費生活活動」の割合が高く、「男性」では自治会、老人クラブ、婦人会、安全・安心などの地域活動」の割合が高い。

性・年代別にみると、「女性」の『20～40歳代』では「何も参加していない」の割合が高くなっているが、『30～40歳代』では「PTA活動、子どもクラブなどの青少年育成活動」の割合が高い。同じく『70歳以上』では「自治会、老人クラブ、婦人会、安全・安心などの地域活動」と「趣味、教養、スポーツなどのサークル活動」の割合が高くなっている。

一方、「男性」の『60歳以上』では「自治会、老人クラブ、婦人会、安全・安心などの地域活動」の割合が高くなっている。

		自治会、老人クラブ、安全・安心などの地域活動	PTAなどの活動、青少年育成クラブ	趣味、教養、スポーツなど	交流活動など	福祉、環境保全、国際	共同購入などの消費生活活動	男女共同参画を学ぶ	その他	何も参加していない
全体	706	222 31.4%	74 10.5%	188 26.6%	67 9.5%	36 5.1%	14 2.0%	14 2.0%	313 44.3%	
女性	小計	362 26.8%	97 9.4%	107 29.6%	36 9.9%	27 7.5%	7 1.9%	11 3.0%	160 44.2%	
	20歳代	41 4.9%	2 2.4%	1 19.5%	8 2.4%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	31 75.6%	
	30歳代	28 3.6%	1 32.1%	9 17.9%	5 3.6%	1 3.6%	1 3.6%	0 0.0%	15 53.6%	
	40歳代	49 20.4%	10 30.6%	15 16.3%	8 6.1%	3 8.2%	4 0.0%	1 2.0%	25 51.0%	
	50歳代	39 28.2%	11 10.3%	4 17.9%	7 12.8%	5 15.4%	6 2.6%	1 2.6%	16 41.0%	
	60歳代	75 26.7%	20 4.0%	3 32.0%	24 13.3%	10 8.0%	6 1.3%	3 4.0%	35 46.7%	
	70歳代	54 37.0%	20 1.9%	1 50.0%	27 16.7%	9 9.3%	5 3.7%	2 5.6%	15 27.8%	
	75歳以上	72 44.4%	32 1.4%	1 37.5%	27 9.7%	7 6.9%	5 2.8%	3 4.2%	21 29.2%	
	無回答	4 25.0%	1 0.0%	0 25.0%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	
	男性	小計	337 36.8%	124 11.9%	40 23.1%	78 8.9%	30 2.4%	8 2.1%	3 0.9%	149 44.2%
20歳代		10 0.0%	0 20.0%	2 30.0%	3 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 50.0%	
30歳代		40 10.0%	4 12.5%	5 10.0%	4 5.0%	2 0.0%	0 0.0%	1 2.5%	26 65.0%	
40歳代		61 29.5%	18 29.5%	18 18.0%	11 11.5%	7 1.6%	1 3.3%	0 0.0%	23 37.7%	
50歳代		42 28.6%	12 7.1%	3 21.4%	9 11.9%	5 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	27 64.3%	
60歳代		97 48.5%	47 9.3%	9 21.6%	21 11.3%	11 4.1%	4 2.1%	1 1.0%	34 35.1%	
70歳代		45 48.9%	22 4.4%	2 42.2%	19 8.9%	4 2.2%	1 4.4%	1 2.2%	15 33.3%	
75歳以上		39 51.3%	20 2.6%	1 28.2%	11 2.6%	1 5.1%	2 2.6%	0 0.0%	17 43.6%	
無回答		3 33.3%	1 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	

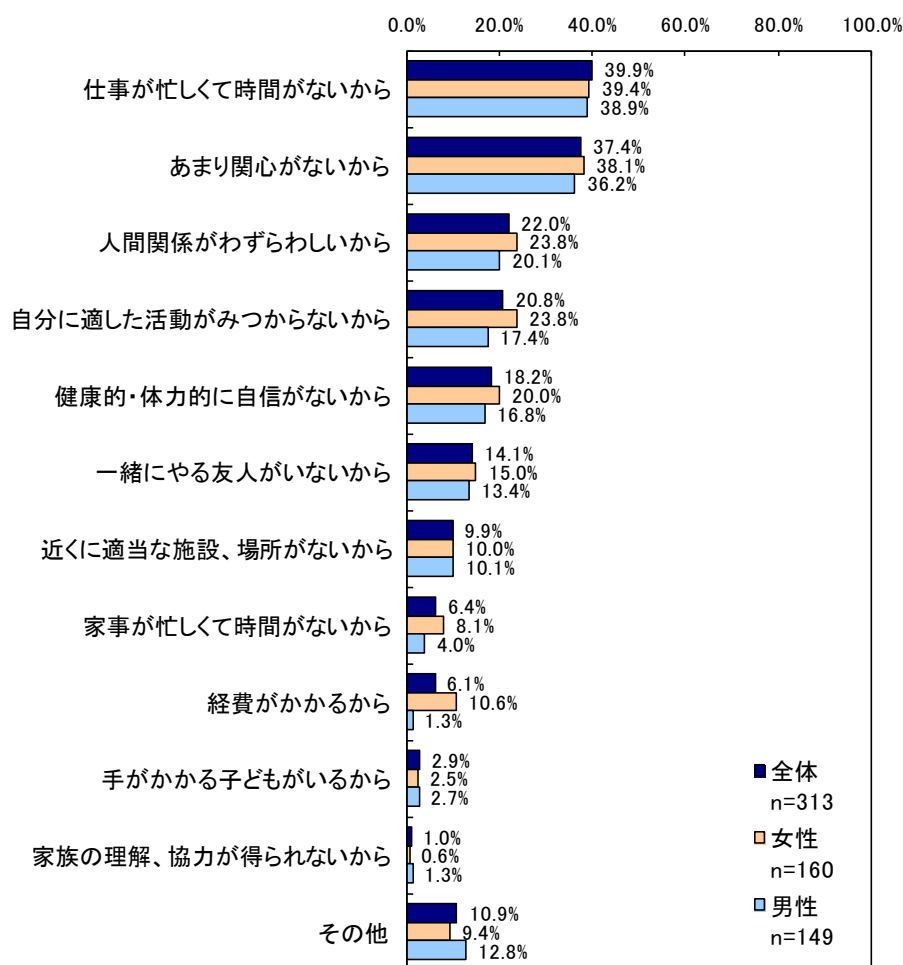
2 地域社会活動をしていない理由

問 16 で「8.何も参加していない」とお答えの方にお聞きします

問 16-A あなたが地域社会活動に参加していない理由は何ですか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

<全体の結果>

地域社会活動をしていない理由をみると、「仕事が忙しくて時間がないから」の39.9%が最も高く、これに「あまり関心がないから」の37.4%が続いている。以下、回答割合が高い方から、「人間関係がわずらわしいから」(22.0%)、「自分に適した活動が見つからないから」(20.8%)、「健康的・体力的に自信がないから」(18.2%)の順となっている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減した項目をみると、「仕事が忙しくて時間がないから」(平成28年39.9%、10.8ポイント増)、「あまり関心がないから」(平成28年37.4%、6.0ポイント増)、「手がかかる子どもがいるから」(平成28年2.9%、6.6ポイント減)、「家事が忙しくて時間がないから」(平成28年6.4%、5.7ポイント減)、「自分に適した活動が見つからないから」(平成28年20.8%、5.0ポイント減)とな

	平成23年 n=306 %	平成28年 n=313 %
家事が忙しくて時間がないから	12.1	6.4
手がかかる子どもがいるから	9.5	2.9
一緒にやる友人がいないから	16.7	14.1
家族の理解、協力が得られないから	1.0	1.0
仕事が忙しくて時間がないから	29.1	39.9
健康的・体力的に自信がないから	19.3	18.2
人間関係がわずらわしいから	20.9	22.0
自分に適した活動が見つからないから	25.8	20.8
近くに適切な施設、場所がないから	10.1	9.9
経費がかかるから	8.5	6.1
あまり関心がないから	31.4	37.4
その他	8.2	10.9

っている。仕事での忙しさや関心のなさを理由とする回答が増加し、育児や家事を理由とする回答が減少している。

<性別にみた結果>

性別にみると、「女性」では「家事が忙しくて時間がないから」と「健康的・体力的に自信がないから」、「自分に適した活動が見つからないから」、「経費がかかるから」の割合が高くなっている。

		家事が忙しくて時間がないから	手がかる子どもがい	一緒にやる友がい	家族の理解、協力が	仕事がかたくな	健康的・体力的に自信がないから	人間関係がわずらわ	自分に適した活動が	近くに適切な施設、	経費がかかるから	あまり関心がないか	その他	
全体	313	20 6.4%	9 2.9%	44 14.1%	3 1.0%	125 39.9%	57 18.2%	69 22.0%	65 20.8%	31 9.9%	19 6.1%	117 37.4%	34 10.9%	
女性	小計	160	13 8.1%	4 2.5%	24 15.0%	1 0.6%	63 39.4%	32 20.0%	38 23.8%	16 10.0%	17 10.6%	61 38.1%	15 9.4%	
	20歳代	31	1 3.2%	0 0.0%	7 22.6%	0 0.0%	18 58.1%	2 6.5%	4 12.9%	7 22.6%	4 12.9%	5 16.1%	15 48.4%	1 3.2%
	30歳代	15	6 40.0%	3 20.0%	1 6.7%	0 0.0%	6 40.0%	2 13.3%	2 13.3%	3 20.0%	2 13.3%	2 13.3%	7 46.7%	1 6.7%
	40歳代	25	3 12.0%	1 4.0%	2 8.0%	0 0.0%	14 56.0%	1 4.0%	5 20.0%	6 24.0%	1 4.0%	3 12.0%	8 32.0%	0 0.0%
	50歳代	16	0 0.0%	0 0.0%	3 18.8%	0 0.0%	4 25.0%	5 31.3%	3 18.8%	3 18.8%	3 18.8%	1 6.3%	6 37.5%	2 12.5%
	60歳代	35	2 5.7%	0 0.0%	7 20.0%	1 2.9%	19 54.3%	5 14.3%	10 28.6%	9 25.7%	3 8.6%	2 5.7%	15 42.9%	1 2.9%
	70歳代	15	1 6.7%	0 0.0%	2 13.3%	0 0.0%	1 6.7%	8 53.3%	7 46.7%	5 33.3%	0 0.0%	1 6.7%	2 13.3%	3 20.0%
	75歳以上	21	0 0.0%	0 0.0%	2 9.5%	0 0.0%	1 4.8%	8 38.1%	6 28.6%	5 23.8%	3 14.3%	3 14.3%	7 33.3%	6 28.6%
	無回答	2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%
	男性	小計	149	6 4.0%	4 2.7%	20 13.4%	2 1.3%	58 38.9%	25 16.8%	30 20.1%	26 17.4%	15 10.1%	2 1.3%	54 36.2%
20歳代		5	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 60.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 40.0%	1 20.0%
30歳代		26	1 3.8%	2 7.7%	5 19.2%	0 0.0%	14 53.8%	1 3.8%	3 11.5%	2 7.7%	3 11.5%	1 3.8%	9 34.6%	4 15.4%
40歳代		23	2 8.7%	0 0.0%	1 4.3%	0 0.0%	14 60.9%	2 8.7%	7 30.4%	3 13.0%	0 0.0%	0 0.0%	8 34.8%	0 0.0%
50歳代		27	1 3.7%	0 0.0%	2 7.4%	1 3.7%	10 37.0%	3 11.1%	8 29.6%	5 18.5%	4 14.8%	0 0.0%	11 40.7%	6 22.2%
60歳代		34	0 0.0%	0 0.0%	8 23.5%	1 2.9%	12 35.3%	11 32.4%	6 17.6%	11 32.4%	3 8.8%	0 0.0%	15 44.1%	1 2.9%
70歳代		15	1 6.7%	1 6.7%	1 6.7%	0 0.0%	2 13.3%	4 26.7%	1 6.7%	3 20.0%	3 20.0%	0 0.0%	6 40.0%	3 20.0%
75歳以上		17	1 5.9%	0 0.0%	2 11.8%	0 0.0%	2 11.8%	4 23.5%	3 17.6%	2 11.8%	2 11.8%	0 0.0%	2 11.8%	4 23.5%
無回答		2	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%

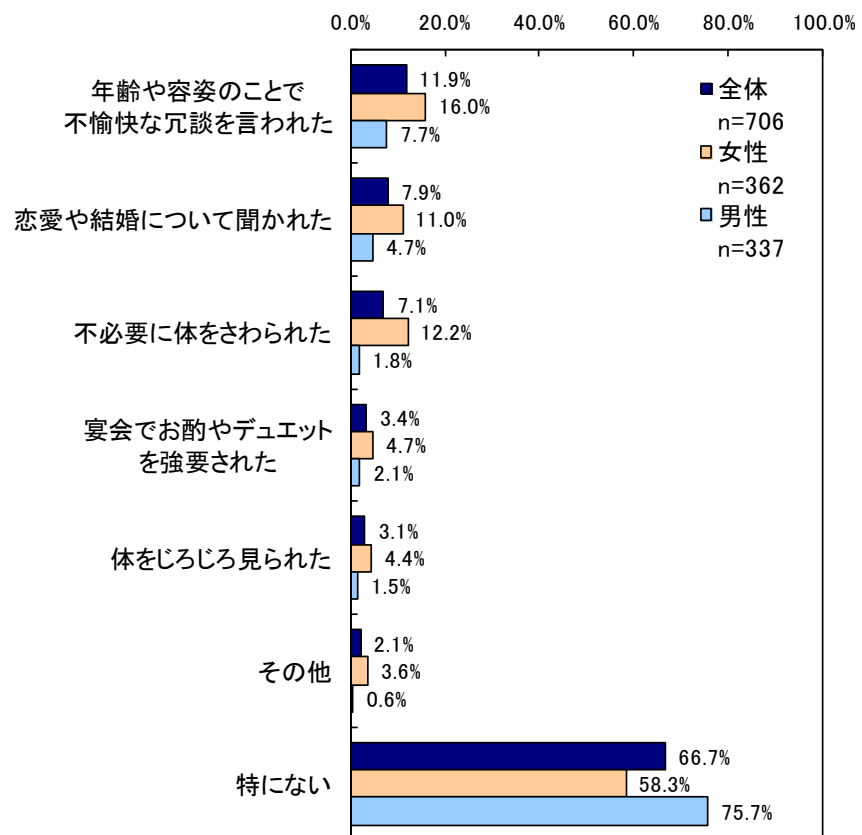
第5章 人権の尊重について

1 性的いやがらせの経験

問 17 あなたは、セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)だと感じることを経験されたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

性的いやがらせの経験をみると、「特にない」の66.7%が最も高く、これに「年齢や容姿のことで不愉快な冗談を言われた」の11.9%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「恋愛や結婚について聞かれた」(7.9%)、「不必要に体をさわられた」(7.1%)の順となっている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減した項目をみると、「特にない」(平成28年66.7%、5.3ポイント増)のみとなっている。「特にない」が増加した分、「恋愛や結婚について聞かれた」と「その他」を除く項目が減少している。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
恋愛や結婚について聞かれた	7.8	7.9
年齢や容姿のことで不愉快な冗談を言われた	15.8	11.9
不必要に体をさわられた	10.8	7.1
宴会でお酌やデュエットを強要された	5.8	3.4
体をじろじろ見られた	3.9	3.1
その他	0.9	2.1
特にない	61.4	66.7

※平成28年調査の選択肢「恋愛や結婚について聞かれた」は、平成23年調査では「異性との交際関係や結婚について聞かれた」となっている。

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「特にない」は「男性」の75.7%に対し、「女性」は58.3%となっており、その分、「年齢や容姿のことで不愉快な冗談を言われた」、「不必要に体をさわられた」などすべての項目で「男性」の割合を上回っている。

性・年代別にみると、「女性」の特に『20～50歳代』で性的いやがらせを受けた経験をしている人の割合が高くなっている。

		い 恋 愛 聞 か 結 婚 た に つ	談 と を 言 わ れ た 冗 談	年 齢 や 容 姿 の こ と で 不 愉 快 な 冗 談	わ ら な い 必 要 に 体 を さ わ ら れ た	要 デ 宴 さ ユ 会 れ エ ツ ト を 強 く お 酌 や す	ら 体 を さ わ ら れ た じ ろ じ ろ 見	そ の 他	特 に な い
全体	706	56 7.9%	84 11.9%	50 7.1%	24 3.4%	22 3.1%	15 2.1%	471 66.7%	
女性	小計	362	40 11.0%	58 16.0%	44 12.2%	17 4.7%	16 4.4%	13 3.6%	211 58.3%
	20歳代	41	9 22.0%	9 22.0%	4 9.8%	3 7.3%	2 4.9%	4 9.8%	20 48.8%
	30歳代	28	6 21.4%	7 25.0%	8 28.6%	1 3.6%	3 10.7%	1 3.6%	12 42.9%
	40歳代	49	10 20.4%	9 18.4%	10 20.4%	5 10.2%	3 6.1%	1 2.0%	27 55.1%
	50歳代	39	6 15.4%	10 25.6%	5 12.8%	2 5.1%	2 5.1%	3 7.7%	19 48.7%
	60歳代	75	4 5.3%	14 18.7%	6 8.0%	5 6.7%	1 1.3%	4 5.3%	46 61.3%
	70歳代	54	2 3.7%	5 9.3%	9 16.7%	0 0.0%	2 3.7%	0 0.0%	36 66.7%
	75歳以上	72	2 2.8%	4 5.6%	2 2.8%	1 1.4%	3 4.2%	0 0.0%	50 69.4%
	無回答	4	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%
	男性	小計	337	16 4.7%	26 7.7%	6 1.8%	7 2.1%	5 1.5%	2 0.6%
20歳代		10	1 10.0%	2 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 70.0%
30歳代		40	7 17.5%	6 15.0%	2 5.0%	1 2.5%	2 5.0%	0 0.0%	28 70.0%
40歳代		61	3 4.9%	6 9.8%	3 4.9%	2 3.3%	1 1.6%	2 3.3%	47 77.0%
50歳代		42	3 7.1%	5 11.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	31 73.8%
60歳代		97	1 1.0%	4 4.1%	0 0.0%	1 1.0%	1 1.0%	0 0.0%	81 83.5%
70歳代		45	1 2.2%	3 6.7%	1 2.2%	2 4.4%	1 2.2%	0 0.0%	30 66.7%
75歳以上		39	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 2.6%	0 0.0%	0 0.0%	29 74.4%
無回答		3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%

2 ドメスティック・バイオレンスの経験

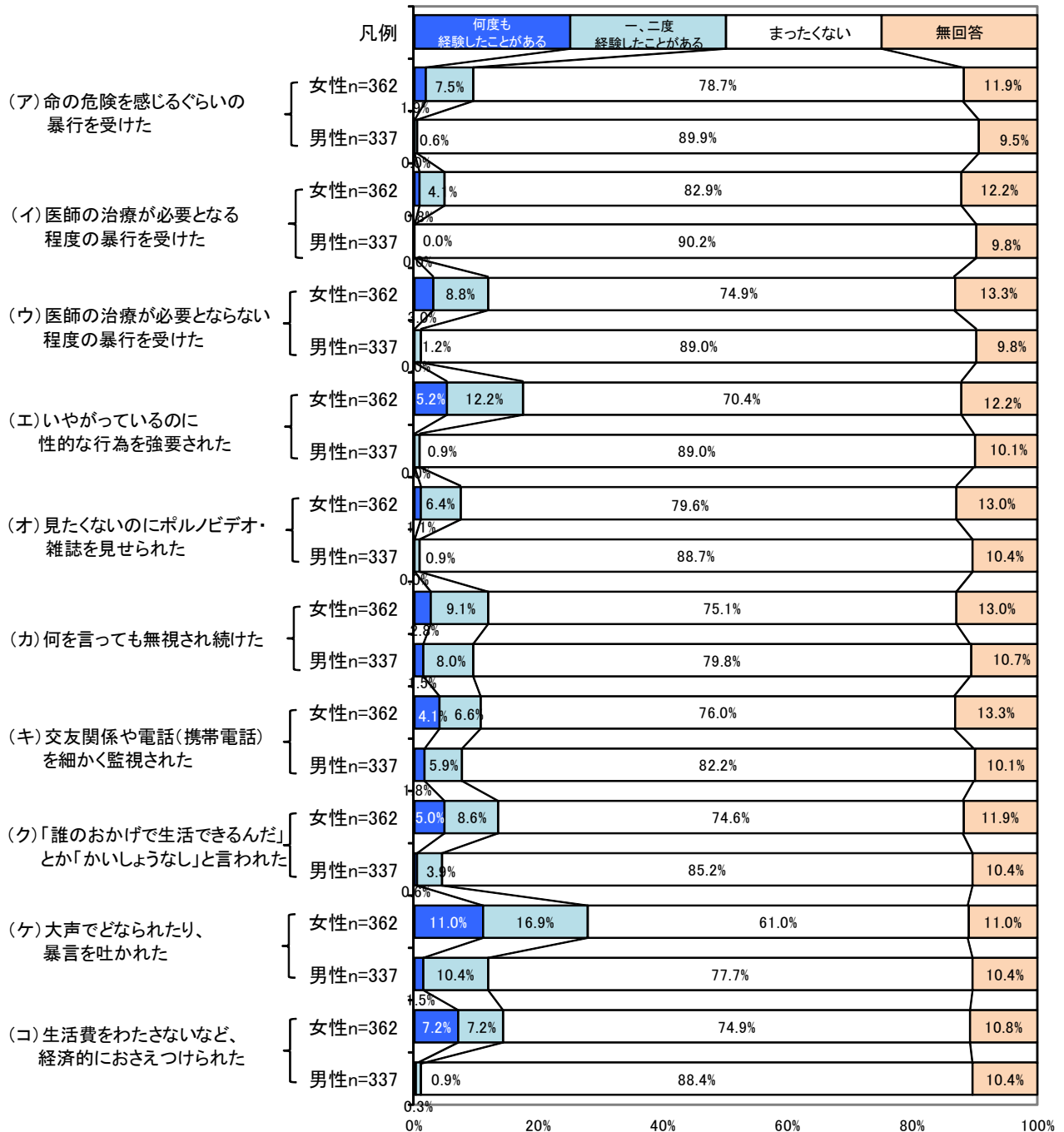
問 18 あなたは今までに、配偶者や恋人※から、次のような行為をされた経験がありますか。(ア)から(コ)の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

配偶者や恋人がいない方は、(ア)の欄の4に○をつけてください。

※婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者や元恋人も含まれます。

<全体の結果>

ドメスティック・バイオレンスの経験をみると、「何度も経験したことがある」と「一、二度経験したことがある」を合わせた経験者の割合は、「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」の20.3%が最も高くなっている。以下、経験者の割合の高い方から、「何を言っても無視され続けた」(10.7%)、「いやがっているのに性的な行為を強要された」(9.6%)、「交友関係や電話(携帯電話)を細かく監視された」(9.2%)、「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われた(同)の順となっている。(ア)～(エ)の暴行の経験者の割合は、2.5～9.6%となっている。



<前回との比較>

平成 23 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減した項目はない。わずかなポイントだが「経験したことがある」が増加したのは、「命の危険を感じるぐらいの暴行を受けた」（平成 28 年 5.1%、2.0 ポイント増）、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」（平成 28 年 2.5%、0.2 ポイント増）、「生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられた」（平成 28 年 8.0%、2.6 ポイント増）となっている。

	調査実施年	n	経験したことがある	まったくない	配偶者や恋人はいない	無回答
(ア) 命の危険を感じるぐらいの暴行を受けた	H28年全体	706	5.1	84.3	-	10.6
	H23年全体	787	3.1	79.7	8.4	8.9
(イ) 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	H28年全体	706	2.5	86.5	-	10.9
	H23年全体	787	2.3	80.6	-	17.2
(ウ) 医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた	H28年全体	706	6.8	81.7	-	11.5
	H23年全体	787	7.5	75.5	-	17.0
(エ) いやがっているのに性的な行為を強要された	H28年全体	706	9.6	79.3	-	11.0
	H23年全体	787	11.2	71.7	-	17.2
(オ) 見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられた	H28年全体	706	4.3	84.1	-	11.6
	H23年全体	787	3.8	79.0	-	17.2
(カ) 何を言っても無視され続けた	H28年全体	706	10.7	77.5	-	11.8
	H23年全体	787	13.7	69.3	-	17.0
(キ) 交友関係や電話(携帯電話)を細かく監視された	H28年全体	706	9.2	79.2	-	11.6
	H23年全体	787	10.0	72.6	-	17.4
(ク) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言われた	H28年全体	706	9.2	79.7	-	11.0
	H23年全体	787	11.5	71.8	-	16.8
(ケ) 大声でどなられたり、暴言を吐かれた	H28年全体	706	20.3	69.1	-	10.6
	H23年全体	787	25.2	58.4	-	16.4
(コ) 生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられた	H28年全体	706	8.0	81.4	-	10.5
	H23年全体	787	5.4	77.6	-	16.9

<性別にみた結果>

性別にみると、(ア)から(コ)のすべての項目で「女性」の経験者の割合が高くなっている。「女性」の経験者の割合が最も高いのは「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」の 27.9%で、これに「いやがっているのに性的な行為を強要された」の 17.4%が続いている。「男性」の経験者がほとんどいないのは、「命の危険を感じるぐらいの暴行を受けた」、「医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」、「医師の治療が必要とされない程度の暴行を受けた」、「いやがっているのに性的な行為を強要された」、「見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられた」の 5 項目。「女性」よりも低いものの「男性」の経験者の割合がある程度認められるのが「何を言っても無視され続けた」と「交友関係や電話(携帯電話)を細かく監視された」、「『誰のおかげで生活できるんだ』とか『かいしょうなし』と言われた」、「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」の 4 項目となっている。

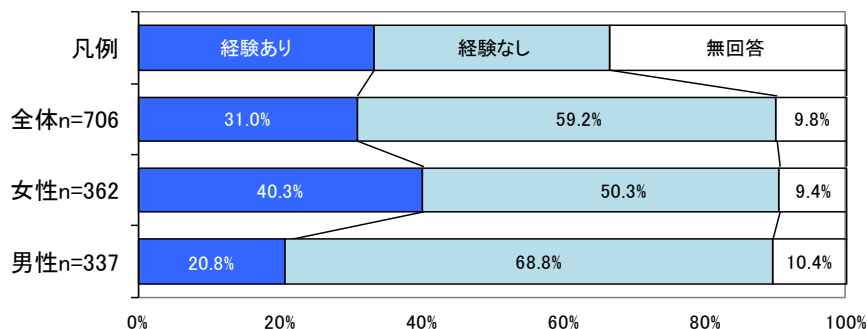
3 ドメスティック・バイオレンスについての相談の有無

問 18 で「経験したことがある」とお答えの方にお聞きます

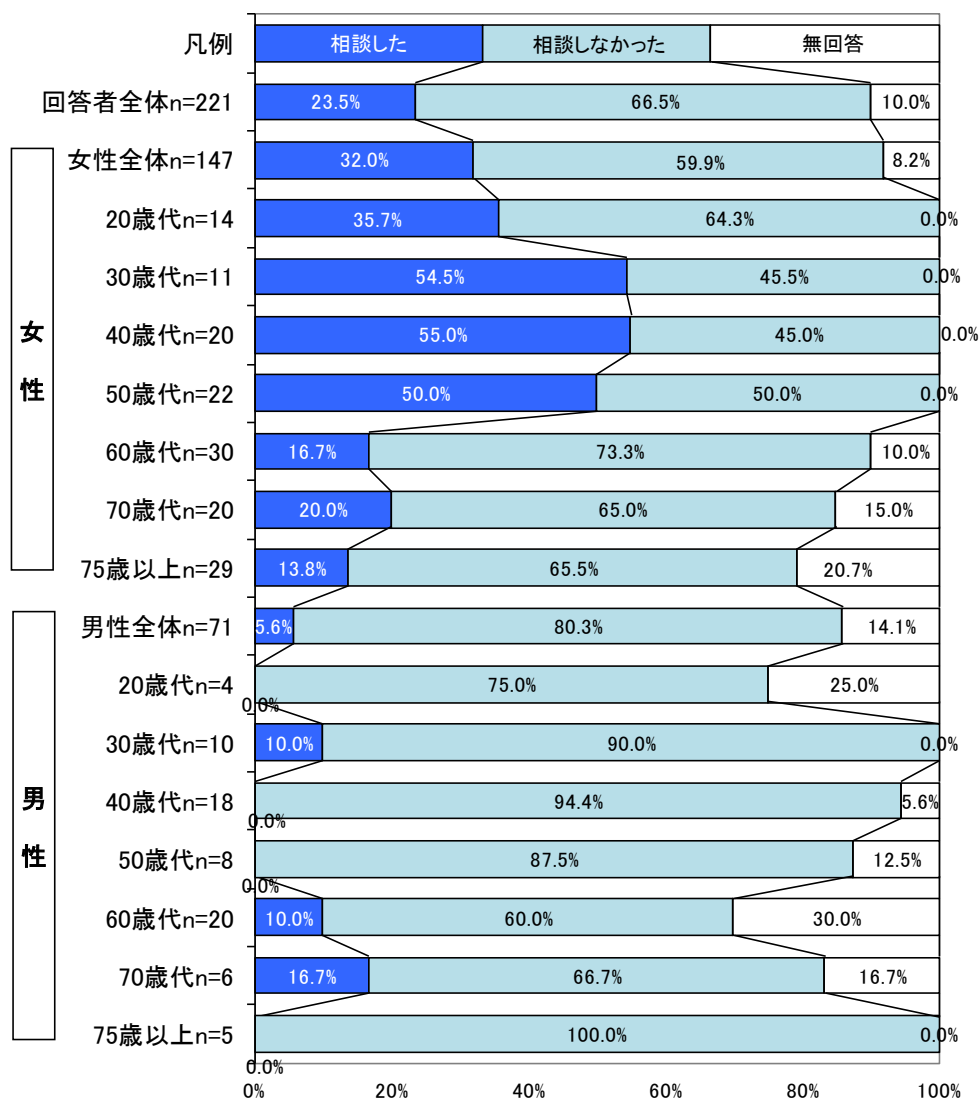
問 18-A その時誰かに相談しましたか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

ドメスティック・バイオレンスの被害経験のある人は、女性が 40.3%、男性が 20.8%で、女性が圧倒的に多い。



ドメスティック・バイオレンスを経験した人に聞いた相談の有無をみると、「相談した」は 23.5%で、「相談しなかった」は 66.5%となっている。



<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「相談した」は「男性」の5.6%に対し、「女性」は32.0%となっている。
性・年代別にみると、「女性」の特に『30～50歳代』で「相談した」は50%台となっている。

<結婚の有無別にみた結果>

結婚の有無別にみると、「相談した」割合が高いのは「女性」で、「離婚」している人の40.7%を占める。
これに「女性」で「結婚していない」人の32.0%が続いている。

■性別及び性・年代別にみた相談の有無

		合計	相談した	相談しなかった	無回答
全体		221	52	147	22
		100.0%	23.5%	66.5%	10.0%
女性	小計	147	47	88	12
		100.0%	32.0%	59.9%	8.2%
	20歳代	14	5	9	0
		100.0%	35.7%	64.3%	0.0%
	30歳代	11	6	5	0
		100.0%	54.5%	45.5%	0.0%
	40歳代	20	11	9	0
		100.0%	55.0%	45.0%	0.0%
	50歳代	22	11	11	0
		100.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	60歳代	30	5	22	3
		100.0%	16.7%	73.3%	10.0%
男性	小計	71	4	57	10
		100.0%	5.6%	80.3%	14.1%
	20歳代	4	0	3	1
		100.0%	0.0%	75.0%	25.0%
	30歳代	10	1	9	0
		100.0%	10.0%	90.0%	0.0%
	40歳代	18	0	17	1
		100.0%	0.0%	94.4%	5.6%
	50歳代	8	0	7	1
		100.0%	0.0%	87.5%	12.5%
	60歳代	20	2	12	6
		100.0%	10.0%	60.0%	30.0%
70歳代	6	1	4	1	
	100.0%	16.7%	66.7%	16.7%	
75歳以上	5	0	5	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
無回答	0	0	0	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

■結婚の有無別にみた相談の有無

		合計	相談した	相談しなかった	無回答
全体		221	52	147	22
		100.0%	23.5%	66.5%	10.0%
女性	小計	147	47	88	12
		100.0%	32.0%	59.9%	8.2%
	結婚していない	25	8	15	2
		100.0%	32.0%	60.0%	8.0%
	既婚(共働きである)	4	2	2	0
		100.0%	50.0%	50.0%	0.0%
	既婚(共働きでない)	13	3	9	1
		100.0%	23.1%	69.2%	7.7%
	死別	50	12	31	7
		100.0%	24.0%	62.0%	14.0%
	離婚	54	22	30	2
		100.0%	40.7%	55.6%	3.7%
その他	0	0	0	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無回答	1	0	1	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
男性	小計	71	4	57	10
		100.0%	5.6%	80.3%	14.1%
	結婚していない	4	0	4	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	既婚(共働きである)	31	3	24	4
		100.0%	9.7%	77.4%	12.9%
	既婚(共働きでない)	29	0	23	6
		100.0%	0.0%	79.3%	20.7%
	死別	1	0	1	0
		100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
離婚	5	1	4	0	
	100.0%	20.0%	80.0%	0.0%	
その他	1	0	1	0	
	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
無回答	0	0	0	0	
	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

4 ドメスティック・バイオレンスについての相談先

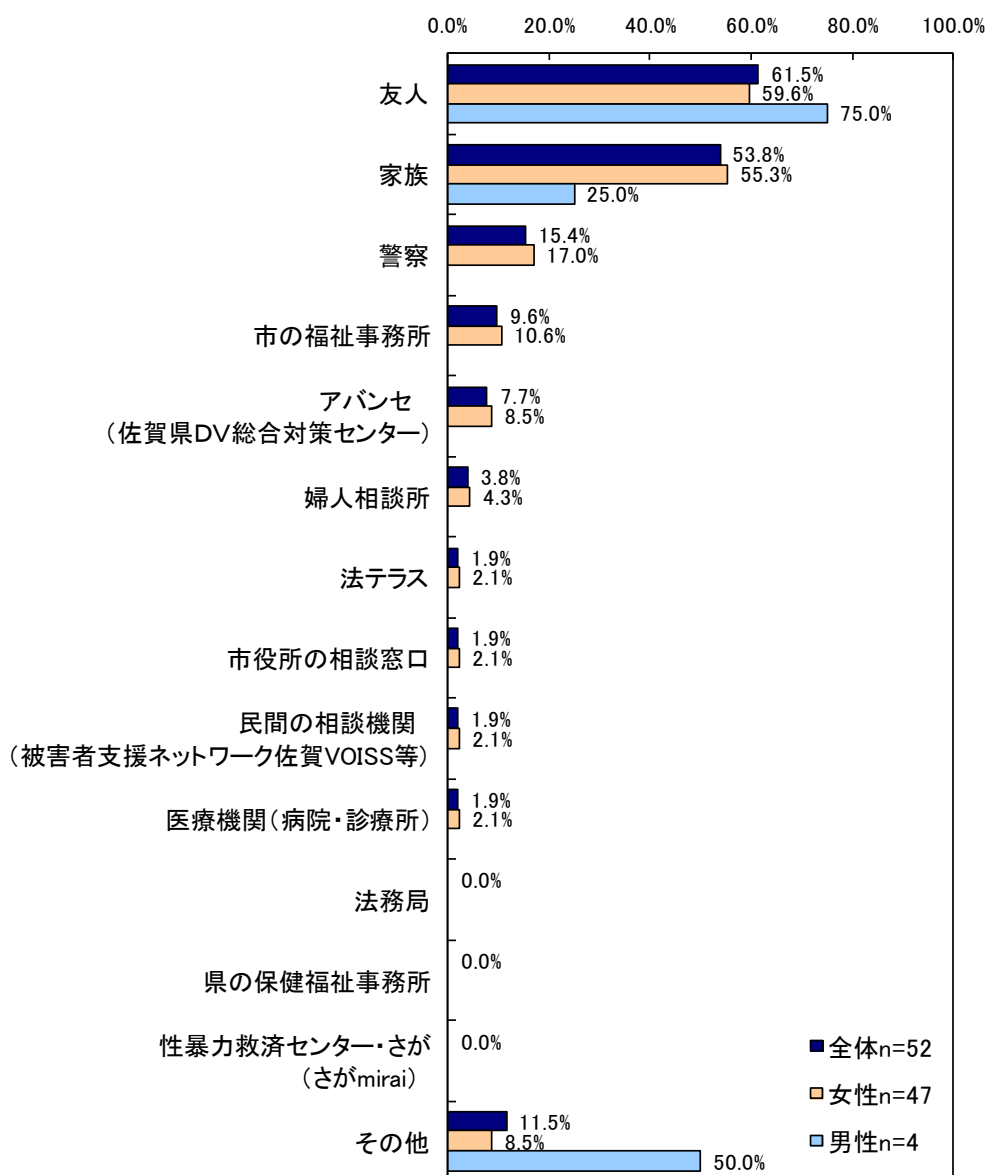
問 18-Aで「1. 相談した」とお答えの方にお聞きます。

問 18-B そのときの相談先はどちらでしたか。

次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

ドメスティック・バイオレンスについての相談先をみると、「友人」の61.5%が最も多く、これに「家族」の53.8%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「警察」(15.4%)、「その他」(11.5%)、「市の福祉事務所」(9.6%)、「アバンセ(佐賀県DV総合対策センター)」(7.7%)の順となっている。



<性別にみた結果>

性別にみると、「相談した」と回答した「男性」は4人で、このうち3人が「友人」、1人が「家族」に相談したとしている。「女性」で「相談した」と回答したのは47人で、「家族」や「友人」に相談したのが50%台となっているが、このうち8人が「警察」、5人が「市の福祉事務所」、4人が「アバンセ」に相談したとしている。

	合計	アバンセ （佐賀県DV総合対策セ ンター）	婦人相談所	法テラス	警察	法務局	県の保健福祉事務所	市の福祉事務所	市役所の相談窓口	民間の相談機関（被害者支援ネット ワーク佐賀VOIS等）	性暴力救済センター・さが （さがmirai）	医療機関（病院・診療所）	家族	友人	その他	
全体	52	4 7.7%	2 3.8%	1 1.9%	8 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	5 9.6%	1 1.9%	1 1.9%	0 0.0%	1 1.9%	28 53.8%	32 61.5%	6 11.5%	
女性	小計	47	4 8.5%	2 4.3%	1 2.1%	8 17.0%	0 0.0%	0 0.0%	5 10.6%	1 2.1%	1 2.1%	0 0.0%	1 2.1%	26 55.3%	28 59.6%	4 8.5%
	20歳代	5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 40.0%	5 100.0%	0 0.0%
	30歳代	6	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 16.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	1 16.7%
	40歳代	11	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	8 72.7%	8 72.7%	1 9.1%
	50歳代	11	2 18.2%	0 0.0%	1 9.1%	1 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 36.4%	8 72.7%	1 9.1%
	60歳代	5	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	2 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	4 80.0%	2 40.0%	0 0.0%
	70歳代	4	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	1 25.0%	0 0.0%
	75歳以上	4	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
	無回答	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
	男性	小計	4	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	3 75.0%
20歳代		0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
30歳代		1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
40歳代		0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
50歳代		0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
60歳代		2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%
70歳代		1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	1 100.0%
75歳以上		0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
無回答		0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%

<結婚の有無別にみた結果>

結婚の有無別にみると、「女性」で「相談した」と回答した47人のうち22人(46.8%)が「離婚」、12人(25.5%)が「死別」、8人(17.0%)が「結婚していない」となっており、既婚者は5人(10.6%)となっている。

	合計	アバンセ ンター (佐賀県DV 総合対策セ ンター)	婦人 相談所	法 テラス	警 察	法 務局	県 の保 健福 祉事 務所	市 の福 祉事 務所	市 役所 の相 談窓 口	民 間 の相 談機 関(被 害者 支 援 ネ ッ トワ ーク 佐賀 VOI SS等)	性 暴 力 救 済 セ ン ター ・ さ が (s a g a m i r a i)	医 療 機 関 (病 院・ 診 療 所)	家 族	友 人	そ の 他
全体	52	4	2	1	8	0	0	5	1	1	0	1	28	32	6
		7.7%	3.8%	1.9%	15.4%	0.0%	0.0%	9.6%	1.9%	1.9%	0.0%	1.9%	53.8%	61.5%	11.5%
小計	47	4	2	1	8	0	0	5	1	1	0	1	26	28	4
		8.5%	4.3%	2.1%	17.0%	0.0%	0.0%	10.6%	2.1%	2.1%	0.0%	2.1%	55.3%	59.6%	8.5%
結婚していない	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	8	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	37.5%	100.0%	12.5%
既婚(共働きである)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%
既婚(共働きでない)	3	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0
		33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	66.7%	0.0%
死別	12	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	1	9	5	1
		0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	75.0%	41.7%	8.3%
離婚	22	3	0	1	5	0	0	2	1	1	0	0	11	12	2
		13.6%	0.0%	4.5%	22.7%	0.0%	0.0%	9.1%	4.5%	4.5%	0.0%	0.0%	50.0%	54.5%	9.1%
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
小計	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	50.0%
結婚していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
既婚(共働きである)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%
既婚(共働きでない)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
死別	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
離婚	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

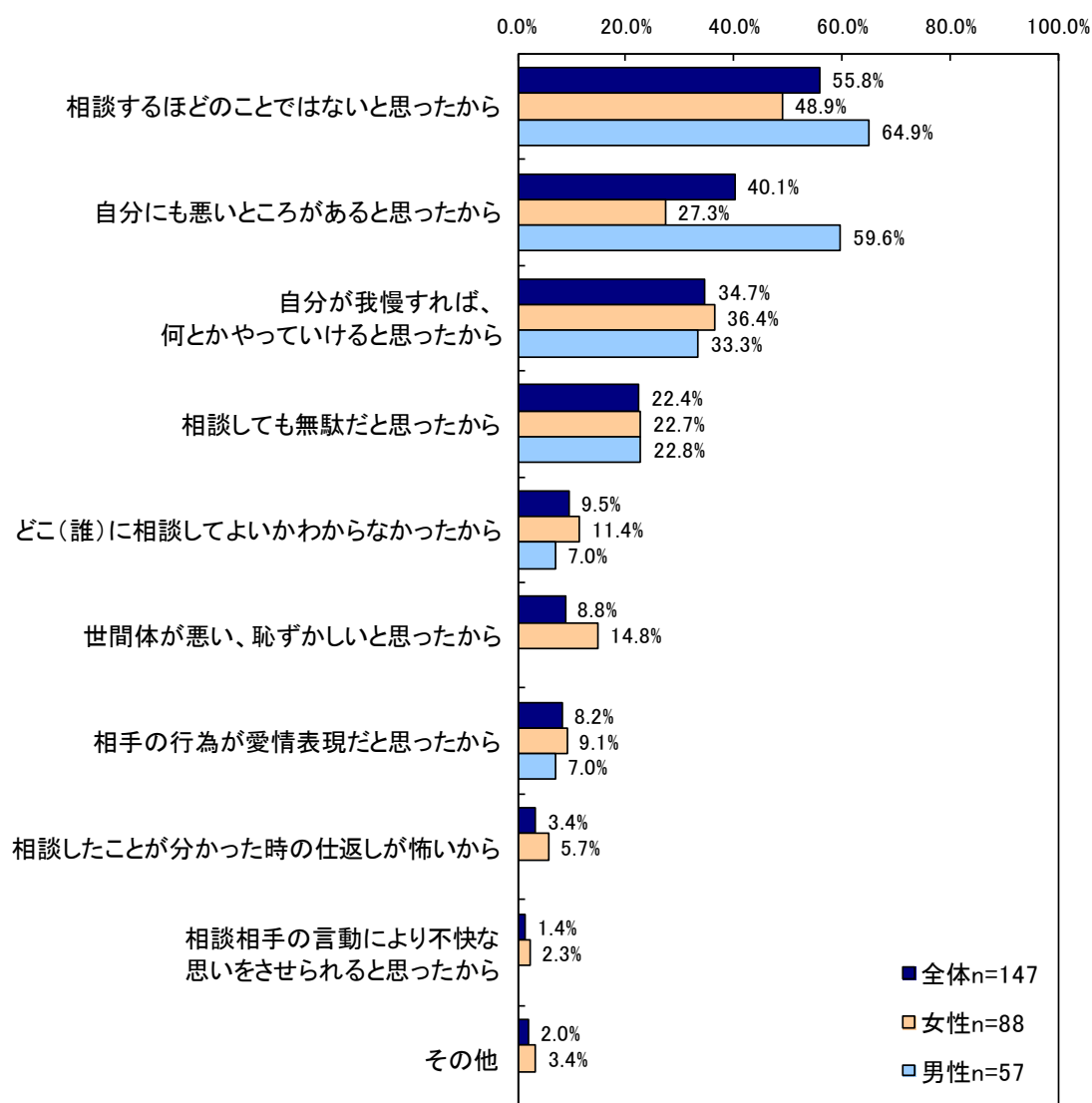
5 ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった理由

問 18-A で「2.相談しなかった」とお答えの方にお聞きします

問 18-C それはなぜですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

ドメスティック・バイオレンスについて相談しなかった理由をみると、「相談するほどのことではないと思ったから」の 55.8%が最も多く、これに「自分にも悪いところがあると思ったから」の 40.1%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「自分が我慢すれば、何とかやっていたらと思ったから」(34.7%)、「相談しても無駄だと思ったから」(22.4%)の順となっている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減した項目は、「相談するほどのことではないと思ったから」(平成28年55.8%、18.5ポイント増)、「相談しても無駄だと思ったから」(平成28年22.4%、11.8ポイント減)、「自分が我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」(平成28年34.7%、5.2ポイント減)となっている。

	平成23年 n=158 %	平成28年 n=147 %
相談するほどのことではないと思ったから	37.3	55.8
自分にも悪いところがあったから	38.6	40.1
自分が我慢すれば、何とかやっていけると思ったから	39.9	34.7
相談しても無駄だと思ったから	34.2	22.4
世間体が悪い、恥ずかしいと思ったから	7.0	8.8
恥ずかしくて誰にも言えなかったから	13.3	-
相手の行為が愛情表現だと思ったから	-	8.2
どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから	6.3	9.5
相談したことが分かった時の仕返しが怖いから	6.3	3.4
相談相手の言動により不快な思いをさせられると思ったから	0.6	1.4
他人を巻き込みたくなかったから	8.9	-
被害を受けたことを忘れたかったから	3.2	-
その他	2.0	2.0

※平成28年調査と23年調査の選択肢の違いは、以下のとおり。

- ・28年「自分が我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」⇒23年「自分さえ我慢すれば何とかこのままでやっていけると思ったから」
- ・28年「世間体が悪い、恥ずかしいと思ったから」⇒23年「世間体が悪いから」
- ・28年「相談したことが分かった時の仕返しが怖いから」⇒23年「相談したことが分かると、仕返しされたり暴力がひどくなったりすると思ったから」

<性別にみた結果>

性別にみると、「男性」は「女性」より「相談するほどのことではないと思ったから」と「自分にも悪いところがあったから」の割合が高くなっている。「男性」の選択が皆無で「女性」だけが選択した理由は、「世間体が悪い、恥ずかしいと思ったから」(8.8%)、「相談したことが分かった時の仕返しが怖いから」(3.4%)、「相談相手の言動により不快な思いをさせられると思ったから」(1.4%)となっている。

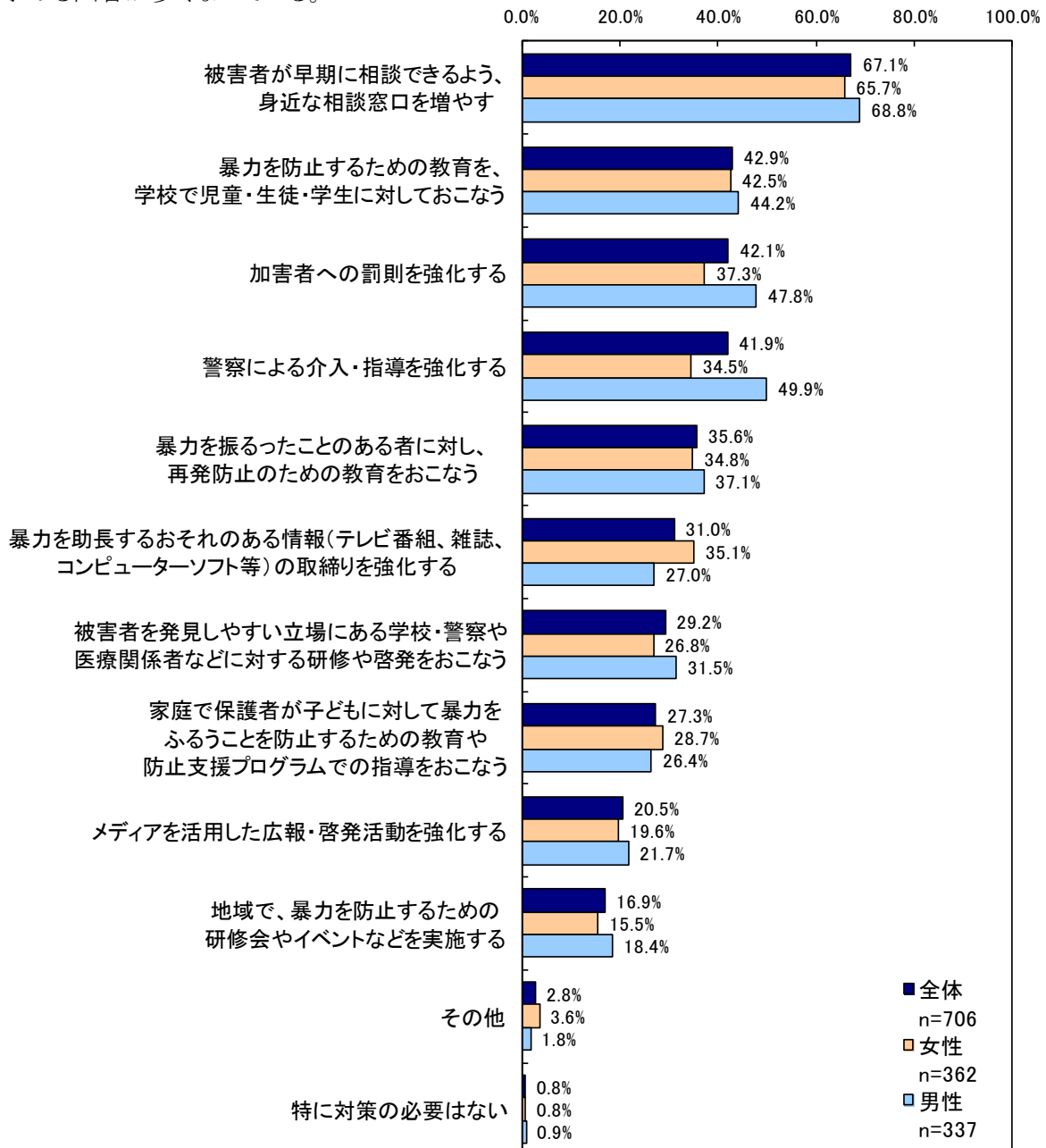
6 女性への暴力をなくす方法

問 19 あなたは、性犯罪、売買春、ドメスティック・バイオレンス(配偶者や恋人からの暴力)、セクシュアル・ハラスメント等による被害をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

性犯罪、売買春、ドメスティック・バイオレンス(配偶者や恋人からの暴力)、セクシュアル・ハラスメント等による被害をなくす方法をみると、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の67.1%が最も多く、これに「暴力を防止するための教育を、学校で児童・生徒・学生に対しておこなう」の42.9%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「加害者への罰則を強化する」(42.1%)、「警察による介入・指導を強化する」(41.9%)の順となっている。

広報・啓発などの方法よりも、身近な相談窓口の設置や罰則強化、警察の介入などの厳しい方法を求める回答が多くなっている。



<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「男性」による「加害者への罰則を強化する」(47.8%)と「警察による介入・指導を強化する」(49.9%)の選択率は、「女性」よりも10ポイント以上高くなっている。「女性」の選択率が「男性」を大きく上回っているのは、「暴力を助長するおそれのある情報(テレビ番組、雑誌、コンピューターソフト等)の取締りを強化する」(35.1%)となっている。

性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」では、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が75.6%と高い割合になっているほか、「加害者の罰則を強化する」も50%台となっている。また、「女性」の『60歳以上』では「暴力を助長するおそれのある情報(テレビ番組、雑誌、コンピューターソフト等)の取締りを強化する」の割合が他の層よりも高くなっている。

一方、「男性」の中で「加害者への罰則を強化する」と「警察による介入・指導を強化する」の割合が高くなっているのは『30～60歳代』となっている。

		相談窓口を増やす	被害者が早期に相談できるよう増やす	支援を促す	家庭での保護を強化する	児童・生徒の安全確保	暴力を防止する	加害者への罰則を強化する	警察による介入・指導を強化する	等しい	テレビ番組、雑誌、コンピューターソフト等の取締りを強化する	暴力を助長するおそれのある情報(テレビ番組、雑誌、コンピューターソフト等)の取締りを強化する	発せられるおそれのある情報(テレビ番組、雑誌、コンピューターソフト等)の取締りを強化する	広報・啓発活動	メディア・インターネット	発せられるおそれのある情報(テレビ番組、雑誌、コンピューターソフト等)の取締りを強化する	警察による介入・指導を強化する	被害者への支援	すべ	地域での暴力を防止する	その他	特に必要はない				
全体	706	474	67.1%	193	27.3%	303	42.9%	297	42.1%	296	41.9%	219	31.0%	251	35.6%	145	20.5%	206	29.2%	119	16.9%	20	2.8%	6	0.8%	
女性	小計	362	238	65.7%	104	28.7%	154	42.5%	135	37.3%	125	34.5%	127	35.1%	126	34.8%	71	19.6%	97	26.8%	56	15.5%	13	3.6%	3	0.8%
	20歳代	41	31	75.6%	15	36.6%	17	41.5%	21	51.2%	16	39.0%	7	17.1%	16	39.0%	7	17.1%	14	34.1%	5	12.2%	3	7.3%	0	0.0%
	30歳代	28	18	64.3%	10	35.7%	8	28.6%	12	42.9%	12	42.9%	8	28.6%	10	35.7%	5	17.9%	9	32.1%	2	7.1%	2	7.1%	1	3.6%
	40歳代	49	36	73.5%	14	28.6%	19	38.8%	20	40.8%	25	51.0%	16	32.7%	18	36.7%	7	14.3%	13	26.5%	7	14.3%	3	6.1%	1	2.0%
	50歳代	39	26	66.7%	8	20.5%	18	46.2%	18	46.2%	16	41.0%	13	33.3%	14	35.9%	8	20.5%	9	23.1%	8	20.5%	2	5.1%	0	0.0%
	60歳代	75	52	69.3%	21	28.0%	40	53.3%	28	37.3%	24	32.0%	28	37.3%	25	33.3%	23	30.7%	21	28.0%	13	17.3%	1	1.3%	0	0.0%
	70歳代	54	35	64.8%	18	33.3%	31	57.4%	14	25.9%	15	27.8%	29	53.7%	21	38.9%	12	22.2%	15	27.8%	10	18.5%	0	0.0%	0	0.0%
	75歳以上	72	40	55.6%	17	23.6%	21	29.2%	21	29.2%	16	22.2%	26	36.1%	22	30.6%	9	12.5%	16	22.2%	11	15.3%	2	2.8%	1	1.4%
	無回答	4	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	1	25.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	男性	小計	337	232	68.8%	89	26.4%	149	44.2%	161	47.8%	168	49.9%	91	27.0%	125	37.1%	73	21.7%	106	31.5%	62	18.4%	6	1.8%	3
20歳代		10	4	40.0%	3	30.0%	5	50.0%	7	70.0%	3	30.0%	1	10.0%	5	50.0%	1	10.0%	2	20.0%	2	20.0%	0	0.0%	1	10.0%
30歳代		40	24	60.0%	9	22.5%	14	35.0%	25	62.5%	20	50.0%	10	25.0%	19	47.5%	11	27.5%	10	25.0%	6	15.0%	2	5.0%	0	0.0%
40歳代		61	44	72.1%	19	31.1%	26	42.6%	28	45.9%	42	68.9%	11	18.0%	26	42.6%	13	21.3%	25	41.0%	9	14.8%	2	3.3%	0	0.0%
50歳代		42	35	83.3%	16	38.1%	21	50.0%	22	52.4%	25	59.5%	12	28.6%	15	35.7%	10	23.8%	11	26.2%	6	14.3%	1	2.4%	1	2.4%
60歳代		97	65	67.0%	28	28.9%	46	47.4%	49	50.5%	46	47.4%	25	25.8%	33	34.0%	22	22.7%	31	32.0%	21	21.6%	1	1.0%	1	1.0%
70歳代		45	33	73.3%	9	20.0%	19	42.2%	18	40.0%	21	46.7%	19	42.2%	18	40.0%	8	17.8%	16	35.6%	11	24.4%	0	0.0%	0	0.0%
75歳以上		39	25	64.1%	4	10.3%	16	41.0%	11	28.2%	9	23.1%	12	30.8%	8	20.5%	6	15.4%	11	28.2%	7	17.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答		3	2	66.7%	1	33.3%	2	66.7%	1	33.3%	2	66.7%	1	33.3%	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

第6章 男女共同参画社会について

1 男女平等に関する法律や用語などの認知状況

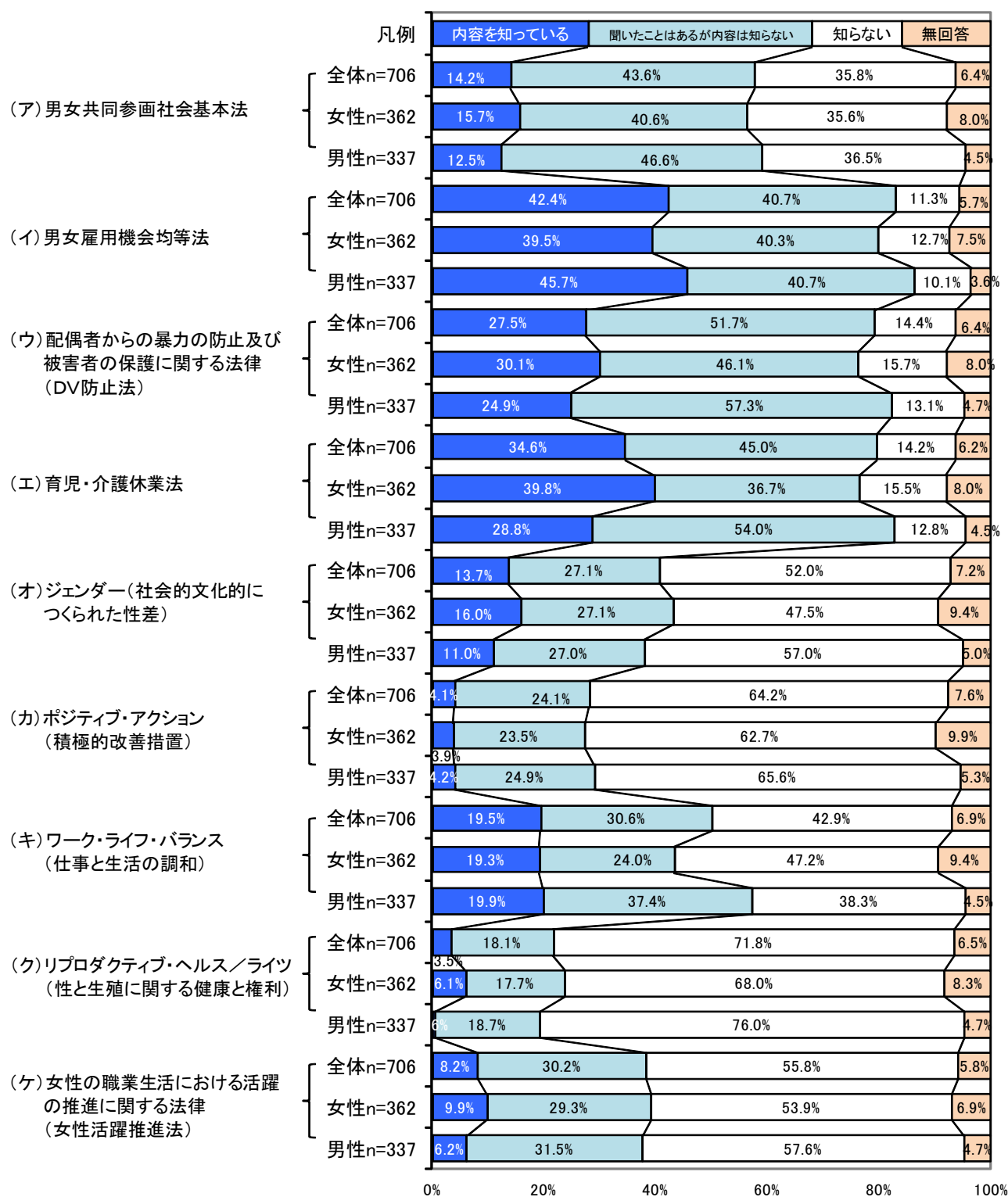
問 20 あなたは、男女共同参画に関する次のような用語を、どの程度ご存じですか。(ア)から(ケ)の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

男女平等に関する法律や用語などの認知状況をみると、「内容を知っている」では「男女雇用機会均等法」の42.4%が最も高く、これに「育児・介護休業法」の34.6%、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」の27.5%が続いている。「聞いたことはあるが内容は知らない」では、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」の51.7%が最も高く、これに「育児・介護休業法」の45.0%、「男女共同参画社会基本法」の43.6%が続いている。「内容を知っている」と「聞いたことあるが内容は知らない」を合わせた『認知度』をみると、「男女雇用機会均等法」(83.1%)、「育児・介護休業法」(79.6%)、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」(79.2%)の順で高くなっている。

一方、「知らない」の割合をみると、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」の71.8%が最も高く、これに「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」の64.2%、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」の55.8%が続く結果となっている。

雇用、DV、育児・介護といった日常生活に関わる用語の認知度は比較的高いが、理念や考え方に関わる用語の認知度が低くなっている。平成28年4月1日に施行されたばかりの「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」の認知度は38.4%で、「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が30.2%で比較的高くなっている。



<前回との比較>

平成 23 年調査と比較すると、「内容を知っている」で 5 ポイント以上の増加した項目は、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(平成 28 年 19.5%、10.7 ポイント増)、「ジェンダー(社会的文化的につくられた性差)」(平成 28 年 13.7%、5.8 ポイント増)となっている。「聞いたことはあるが内容は知らない」で 5 ポイント以上の増減した項目は、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」(平成 28 年 18.1%、5.5 ポイント増)となっている。

一方、「知らない」で 5 ポイント以上減少した項目は、「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」(平成 28 年 42.9%、11.6 ポイント減)、「ジェンダー(社会的文化的につくられた性差)」(平成 28 年 52.0%、9.1 ポイント減)、「ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」(平成 28 年 64.2%、7.0 ポイント減)、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」(平成 28 年 71.8%、6.5 ポイント減)となっており、男女共同参画に関わる理念や考え方についての認知度も徐々に向上していることがうかがえる。

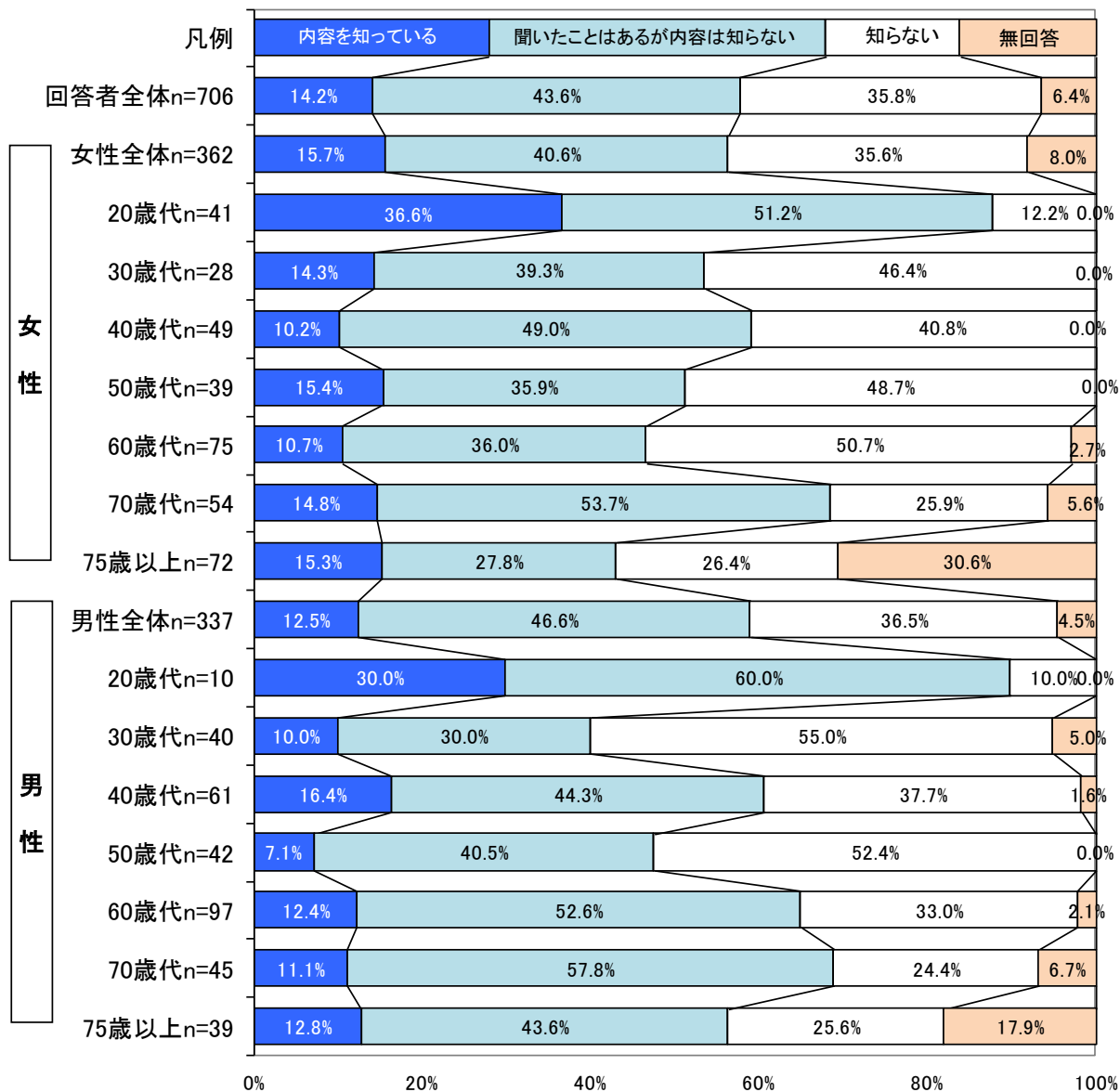
	調査実施年	n	内容を 知っている	が聞いた 内容は知 らはない	知らない	無回答
(ア) 男女共同参画社会基本法	H28年全体	706	14.2	43.6	35.8	6.4
	H23年全体	787	10.7	43.7	39.4	6.2
(イ) 男女雇用機会均等法	H28年全体	706	42.4	40.7	11.3	5.7
	H23年全体	787	41.0	42.8	10.0	6.1
(ウ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)	H28年全体	706	27.5	51.7	14.4	6.4
	H23年全体	787	23.4	55.5	15.0	6.1
(エ) 育児・介護休業法	H28年全体	706	34.6	45.0	14.2	6.2
	H23年全体	787	36.8	44.1	12.5	6.6
(オ) ジェンダー(社会的文化的につくられた性差)	H28年全体	706	13.7	27.1	52.0	7.2
	H23年全体	787	7.9	24.1	61.1	6.9
(カ) ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	H28年全体	706	4.1	24.1	64.2	7.6
	H23年全体	787	2.7	19.4	71.2	6.7
(キ) ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	H28年全体	706	19.5	30.6	42.9	6.9
	H23年全体	787	8.8	29.9	54.5	6.9
(ク) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	H28年全体	706	3.5	18.1	71.8	6.5
	H23年全体	787	2.4	12.6	78.3	6.7
(ケ) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)	H28年全体	706	8.2	30.2	55.8	5.8
	H23年全体	787	-	-	-	-

<性別及び性・年代別にみた結果>

「(ア)男女共同参画社会基本法」

性別にみると、「男性」で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が「女性」よりやや高く、「女性」では「内容を知っている」の割合が「男性」よりやや高い。

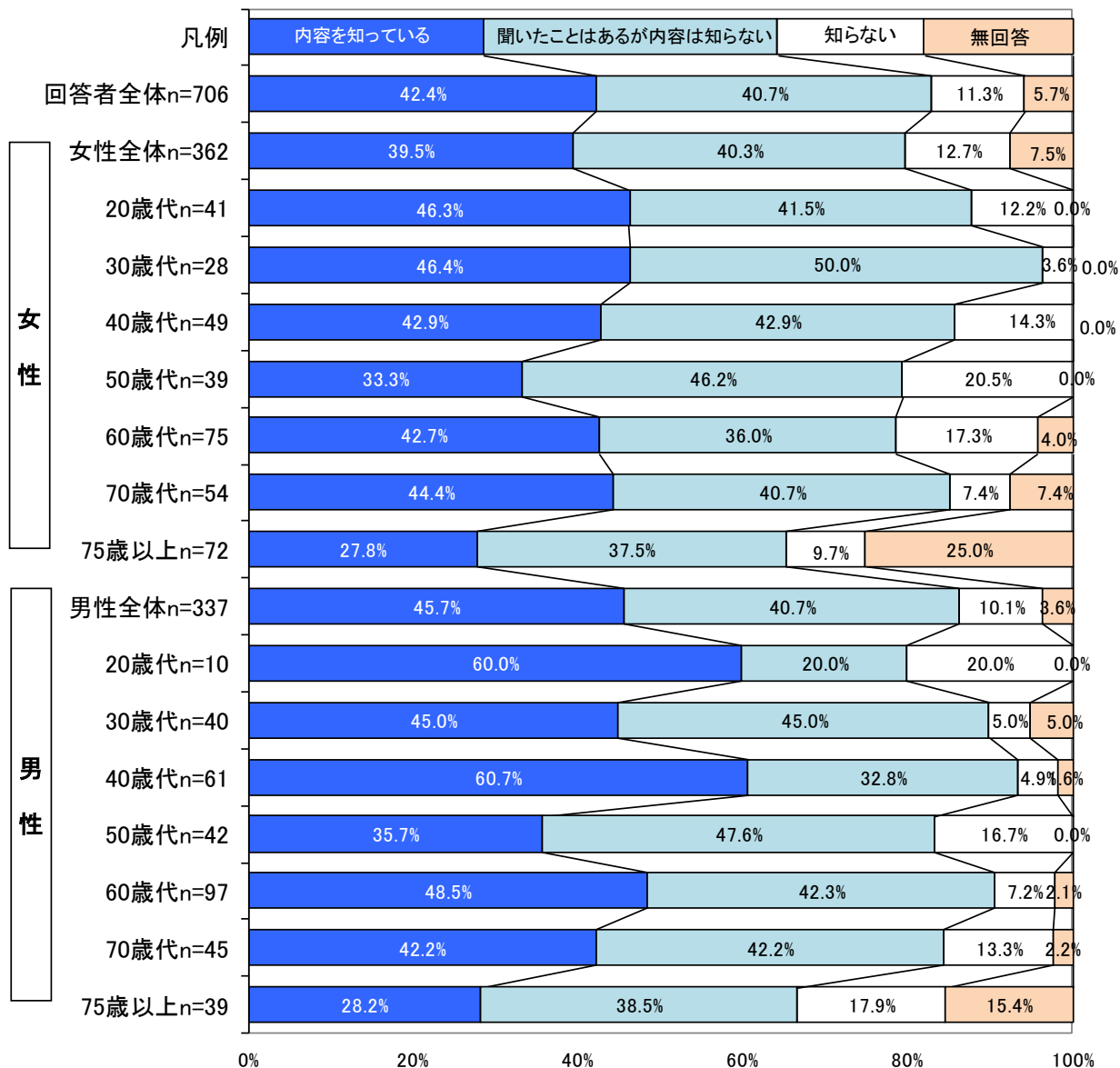
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」では「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高く、認知度が高い。「女性」の『30～60歳代』では「知らない」の割合が高くなっている。



「(イ)男女雇用機会均等法」

性別にみると、「男性」で「内容を知っている」の割合が「女性」よりやや高くなっている。

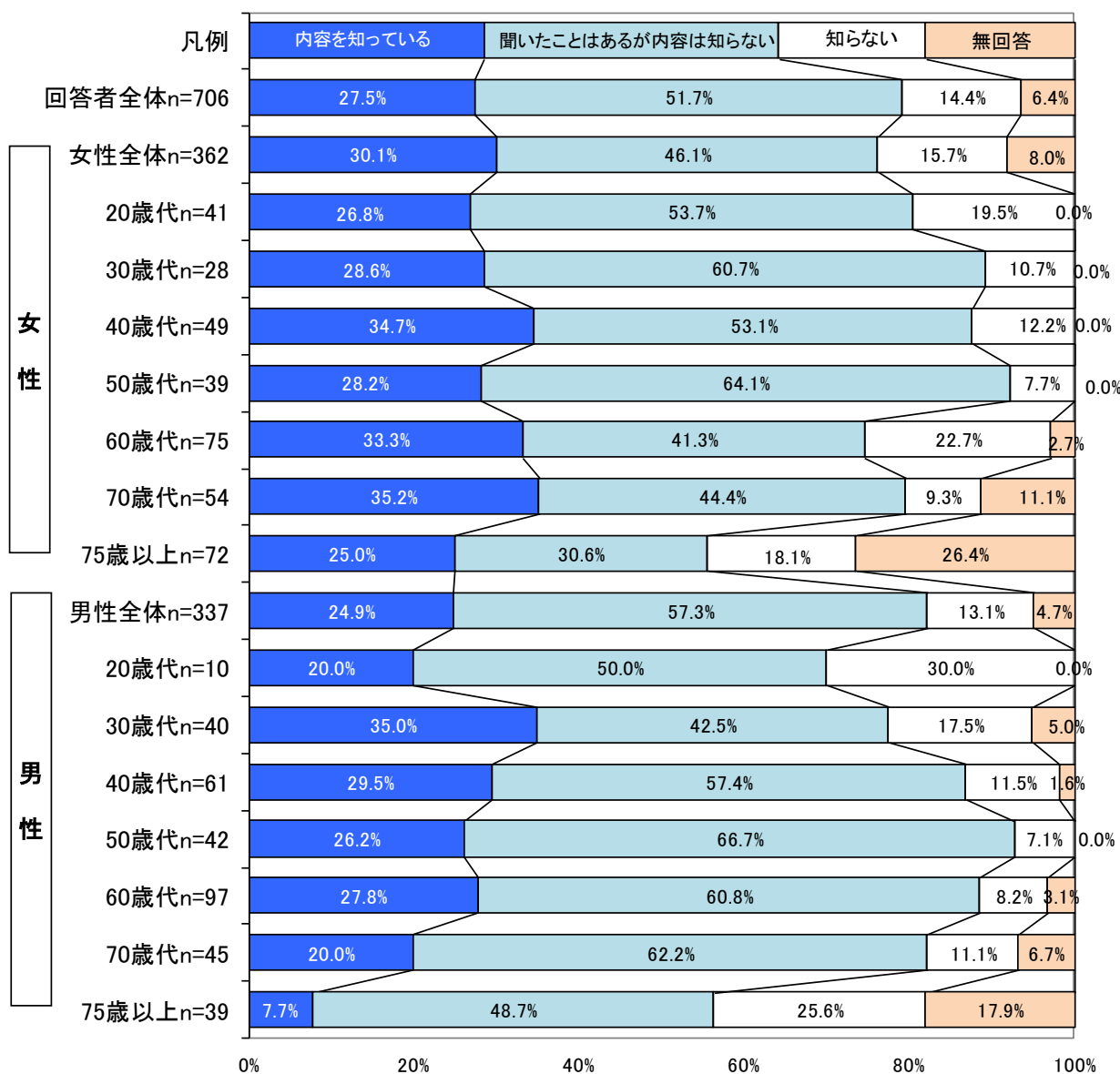
性・年代別にみると、「男性」の「40歳代」と「60歳代」では「内容を知っている」の割合が高く、「女性」の『50～60歳代』では「知らない」の割合が高くなっている。



「(ウ)配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」

性別にみると、「女性」で「内容を知っている」の割合が「男性」よりやや高く、「男性」では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が「女性」よりやや高い。

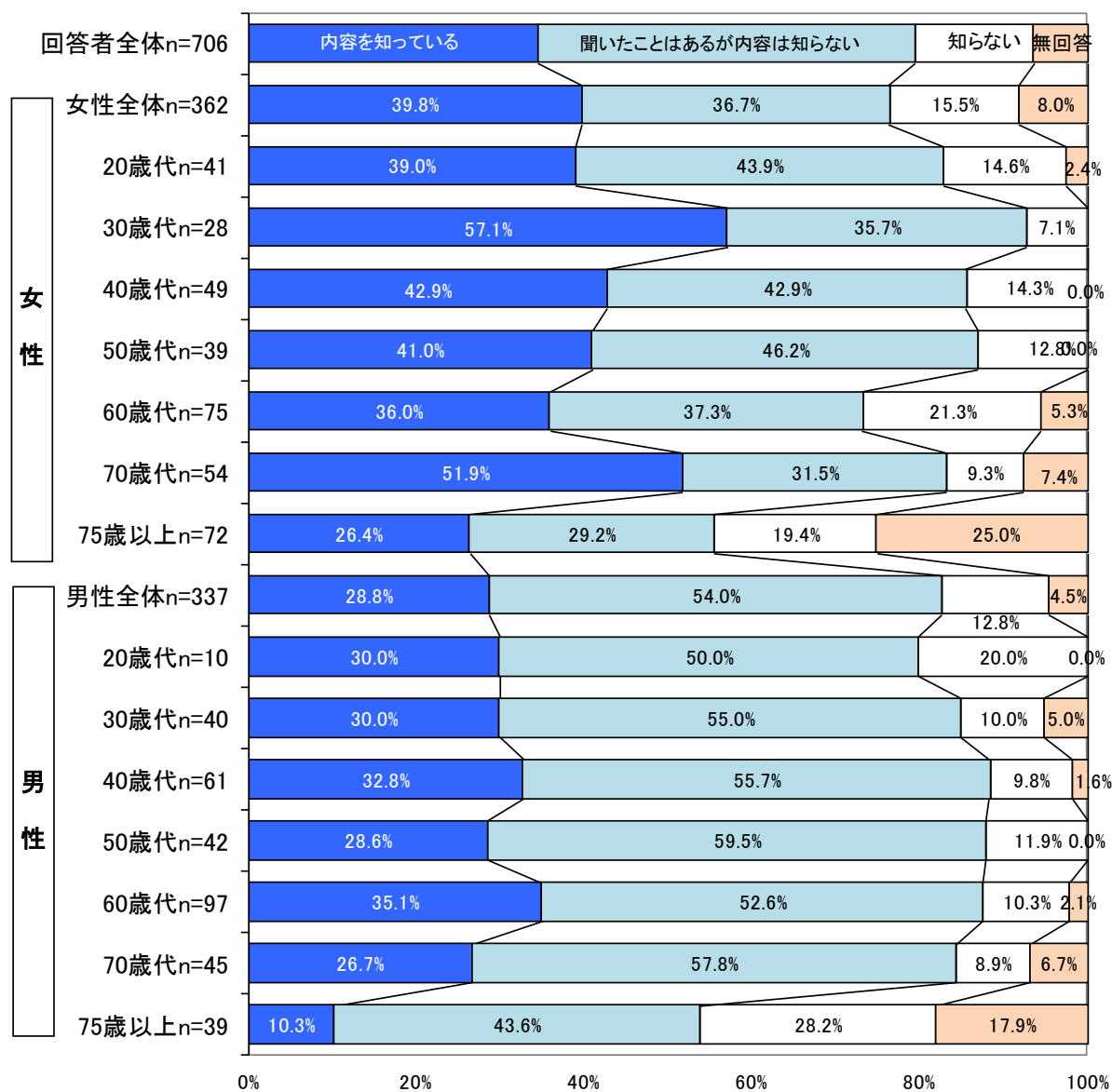
性・年代別にみると、「女性」の「40歳代」と『60～70歳代』では「内容を知っている」の割合が高い。「男性」の『40～70歳代』では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



「(エ) 育児・介護休業法」

性別にみると、「女性」で「内容を知っている」の割合が「男性」より高くなっている。

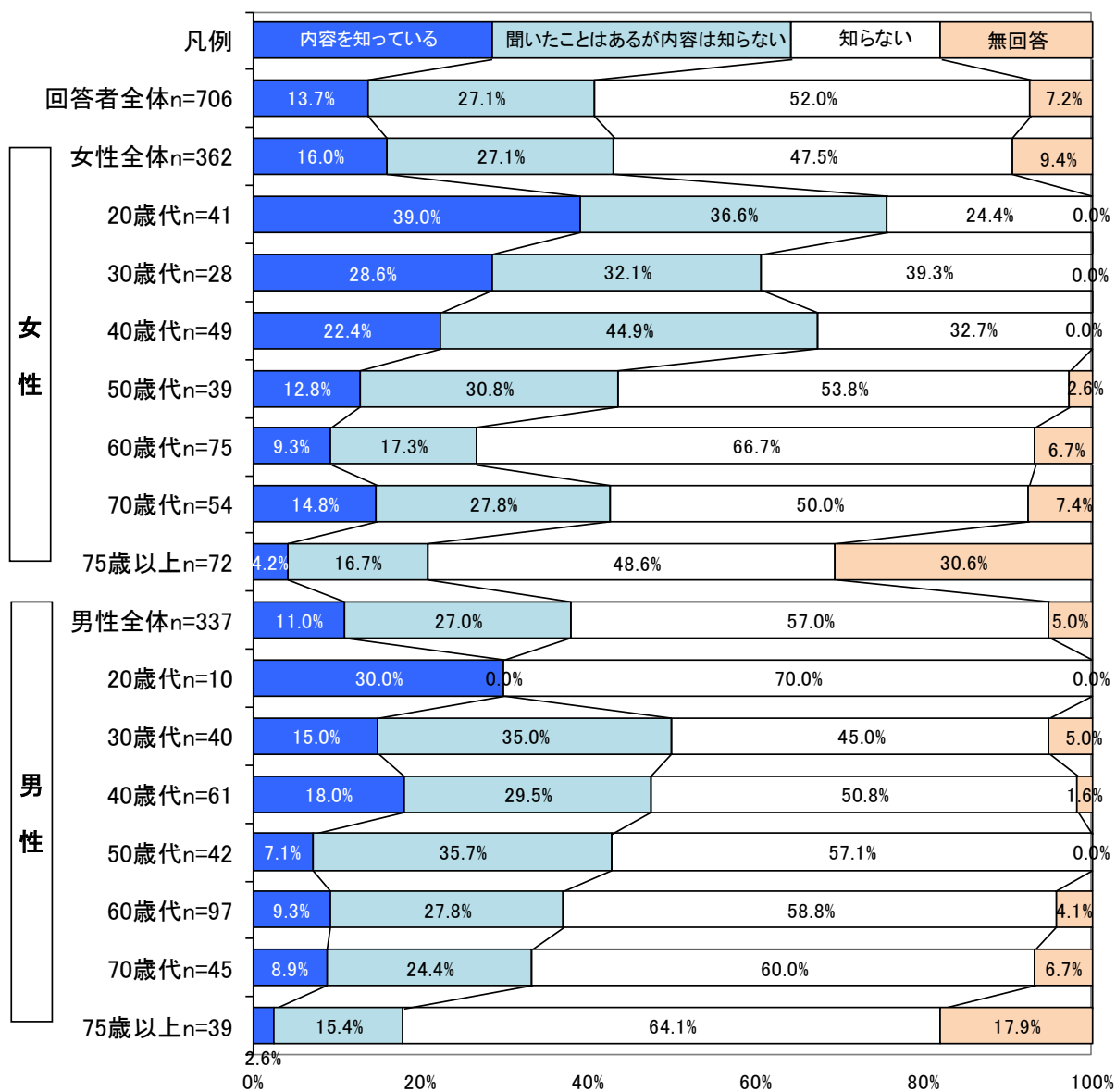
性・年代別にみると、「女性」の『20～50 歳代』と『70 歳代』では「内容を知っている」の割合が高く、「男性」の『30～70 歳代』では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



「(オ)ジェンダー(社会的文化的につくられた性差)」

性別にみると、「女性」で「内容を知っている」の割合が「男性」より高く、「男性」では「知らない」の割合が高くなっている。

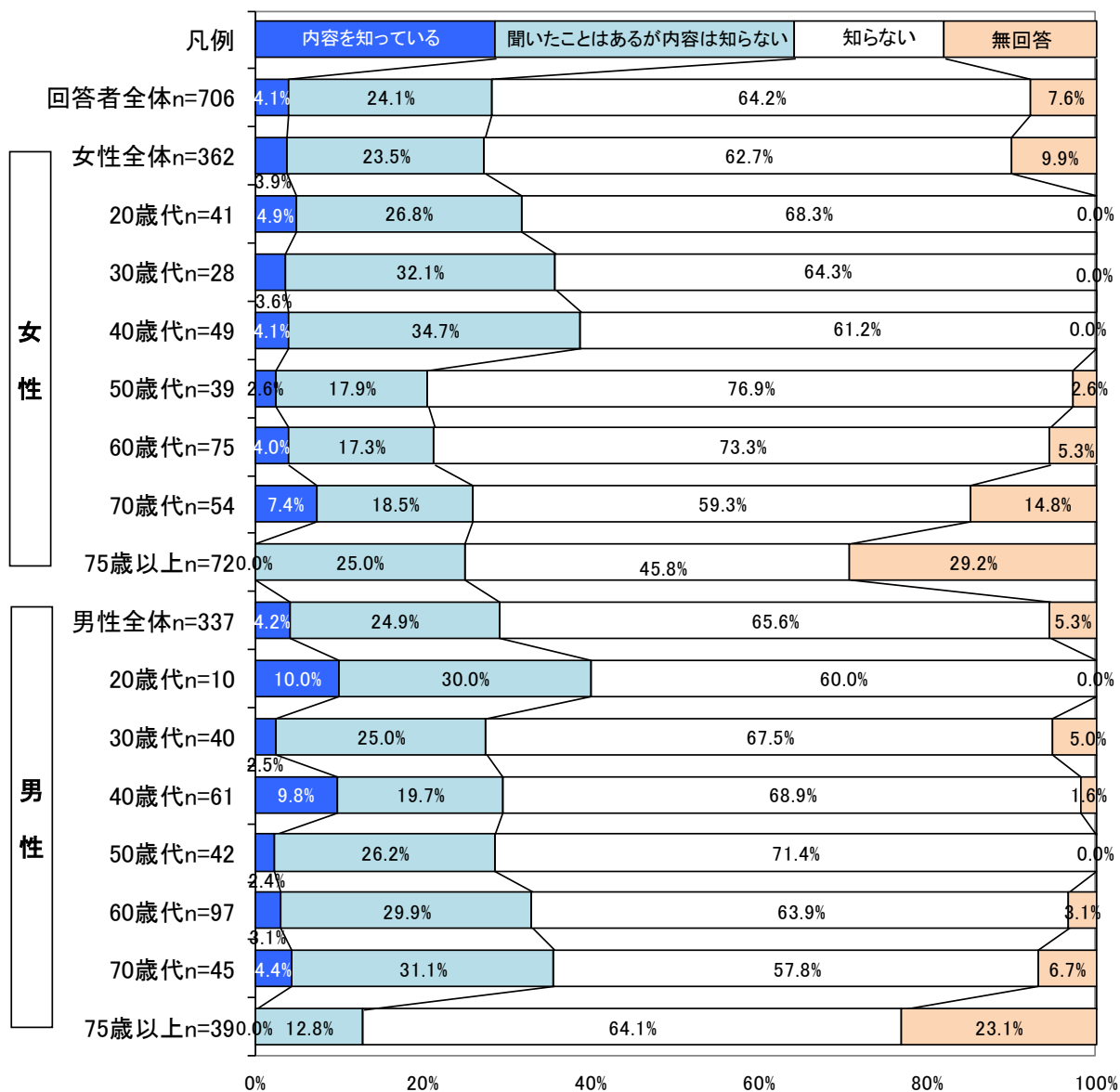
性・年代別にみると、「女性」の『20～40 歳代』では「内容を知っている」の割合が高く、「男性」の『50 歳代以上』では「知らない」の割合が高くなっている。



「(カ) ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」

性別による差は認められない。

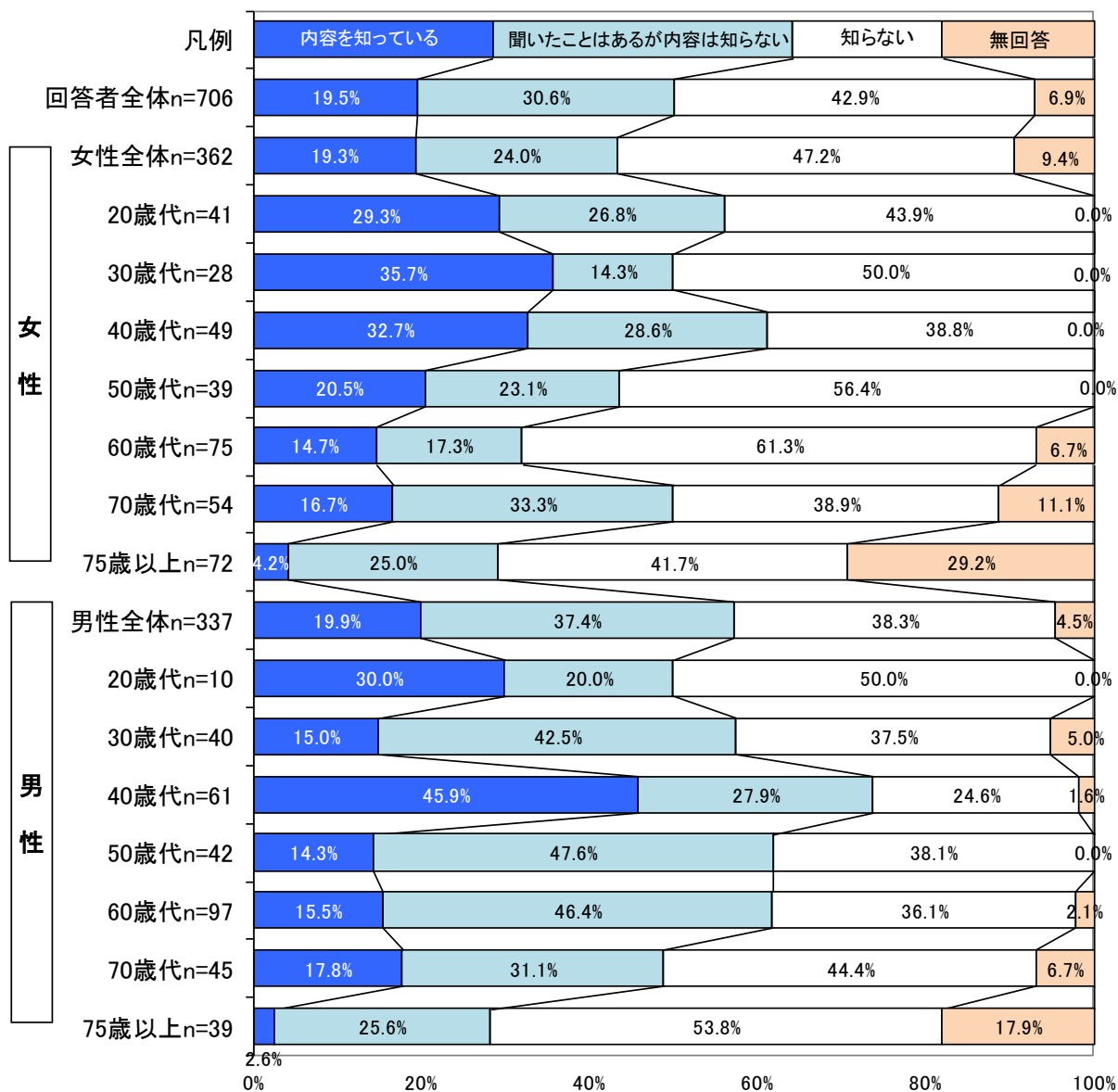
性・年代別にみると、「女性」の『30～40 歳代』と「男性」の『60～70 歳代』では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高い。また、「女性」の『50～60 歳代』と「男性」の『50 歳代』では「知らない」の割合が高い。



「(キ)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」

性別にみると、「男性」で「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が「女性」より高くなっている。

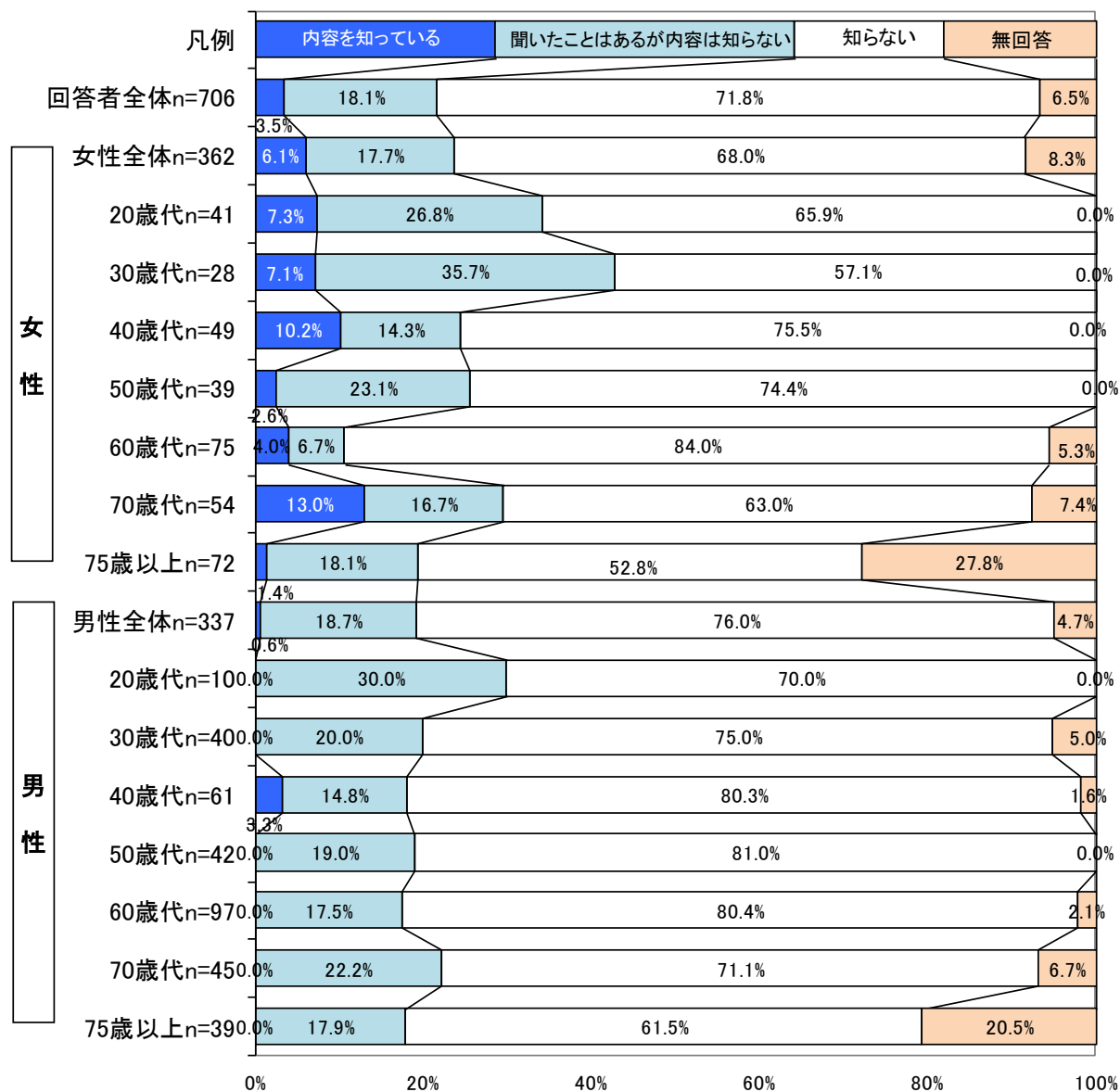
性・年代別にみると、「女性」の『20～40 歳代』と「男性」の「40 歳代」では「内容を知っている」の割合が高く、「男性」の「30 歳代」と『50～60 歳代』では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



「(ク)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」

性別にみると、「女性」で「内容を知っている」の割合が「男性」よりやや高く、「男性」では「知らない」の割合が「女性」よりやや高い。

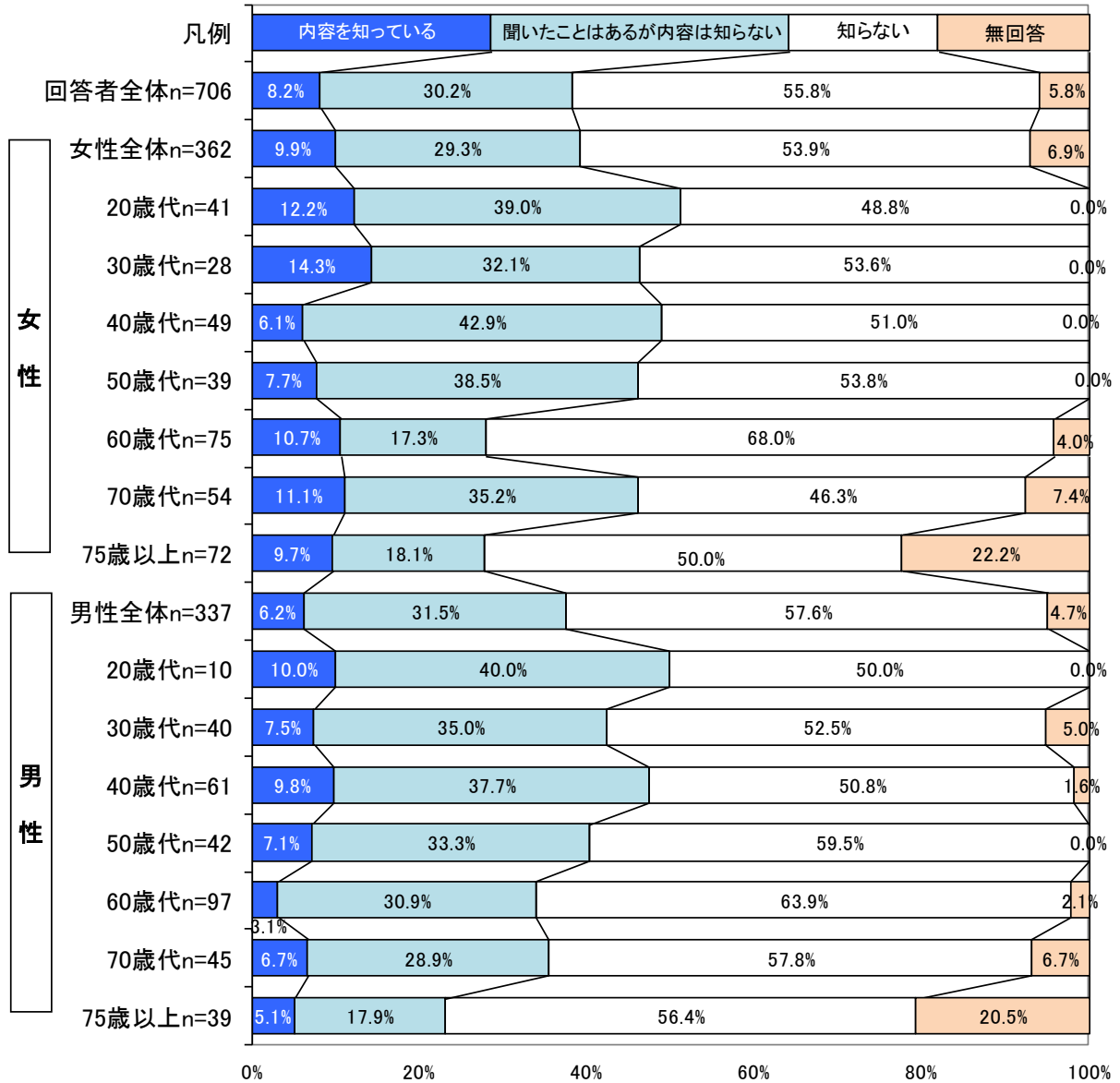
性・年代別にみると、「女性」の「40歳代」と「70歳代」では「内容を知っている」の割合が高い。また「女性」の『30～40歳代』と「50歳代」では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



「(ケ)女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」

性別による差は認められない。

性・年代別にみると、「女性」の「30歳代」で「内容を知っている」の割合が高い。また、「女性」の「20歳代」と「40～50歳代」、「70歳代」では「聞いたことはあるが内容は知らない」の割合が高くなっている。



2 男女の地位の平等観

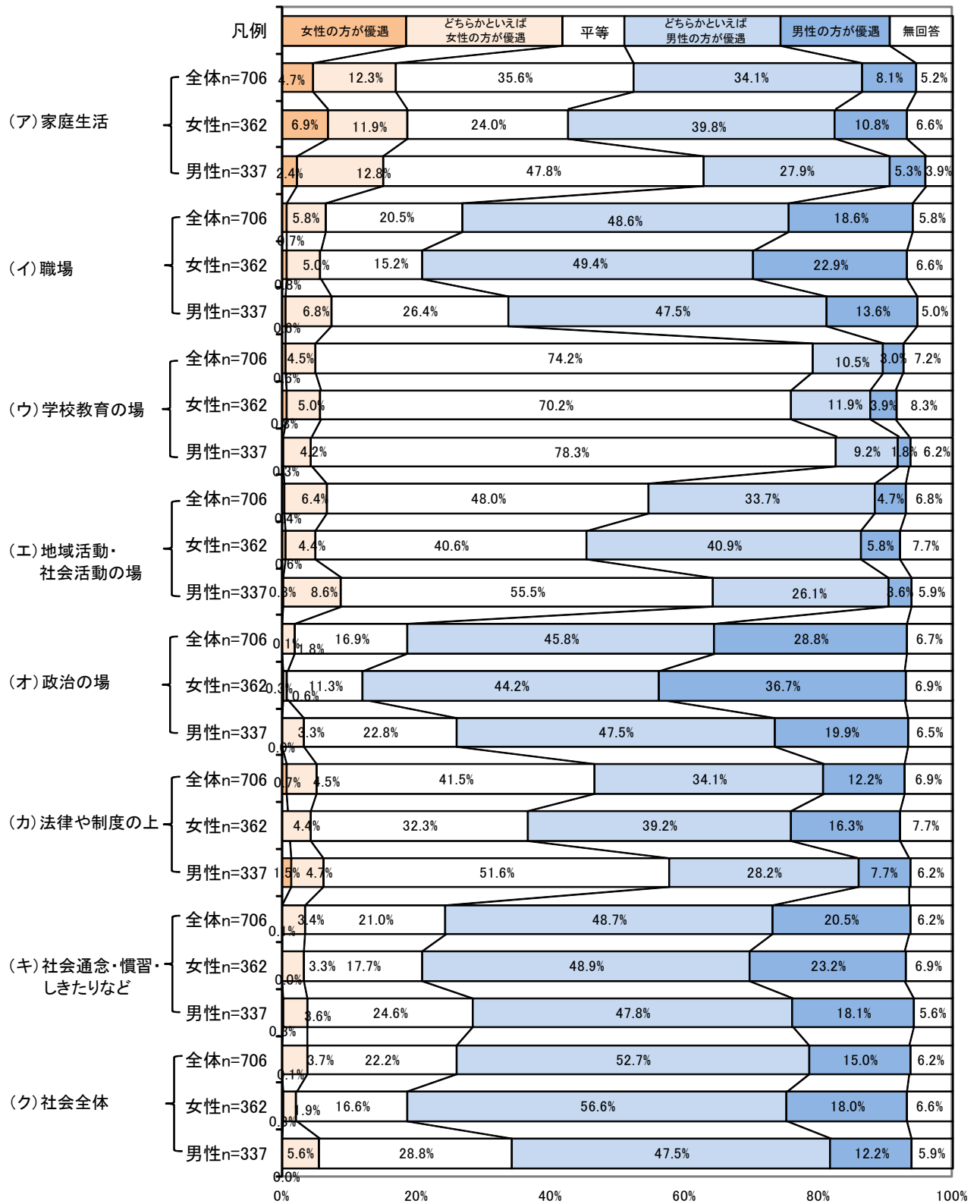
問 21 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)から(ク)の分野ごとに、あてはまる番号を1 つずつ選んで○をつけてください。

<全体の結果>

男女の地位の平等観をみると、「社会全体」では『男性の方が優遇』（「男性の方が優遇」+「どちらかといえば男性の方が優遇」）が67.7%となり、「平等」22.2%、『女性の方が優遇』（「女性の方が優遇」+「どちらかといえば女性の方が優遇」）3.8%となっており、男性の方が優遇されていると思っている人の割合が7割近くを占める結果となっている。

『女性の方が優遇』を分野別にみると、「家庭生活」の17.0%が最も高くなっているが、「職場」や「学校教育の場」など他の項目では10%に満たない割合となっている。「平等」を分野別にみると、「学校教育の場」の74.2%が最も高く、これに「地域活動・社会活動の場」の48.0%、「法律や制度の上」の41.5%が続いている。『男性の方が優遇』を分野別にみると、「政治の場」の74.6%が最も高く、これに「社会通念・慣習・しきたりなど」の69.2%、「家庭生活」の67.2%が続いている。

全般的に男性の優遇感が高いものの、家庭や地域、学校など身近なところでは男女平等と思っている人の割合が高くなっているが、職場や政治など組織や団体活動に関わる場所では男性優遇と思っている人の割合が高くなっている。



<前回との比較>

平成 23 年調査と比較すると、「社会全体」では「平等」が 6.4 ポイント増加し、その分、『男性の方が優遇』（「男性の方が優遇」+「どちらかといえば男性の方が優遇」）が 7.2 ポイント減少している。

『女性の方が優遇』（「女性の方が優遇」+「どちらかといえば女性の方が優遇」）で 5 ポイント以上増減した分野はない。

「平等」で 5 ポイント以上減少した分野は、「地域活動・社会活動の場」（平成 28 年 48.0%、9.0 ポイント増）、「学校教育の場」（平成 28 年 74.2%、8.3 ポイント増）、「社会通念・慣習・しきたりなど」（平成 28 年 21.0%、6.9 ポイント増）、「家庭生活」（平成 28 年 35.6%、5.2 ポイント増）の 4 分野となっている。

『男性の方が優遇』で 5 ポイント以上増減した分野は、「地域活動・社会活動の場」（平成 28 年 38.4%、8.8 ポイント減）、「学校教育の場」（平成 28 年 13.5%、8.1 ポイント減）、「社会通念・慣習・しきたりなど」（平成 28 年 69.2%、8.1 ポイント減）、「家庭生活」（平成 28 年 42.2%、7.7 ポイント減）の 4 分野となっている。

この 5 年間で男性優遇が減少し、平等と思う人の割合が増加したのは、家庭や地域、学校など日常生活に関わる分野や生活慣習となっている。

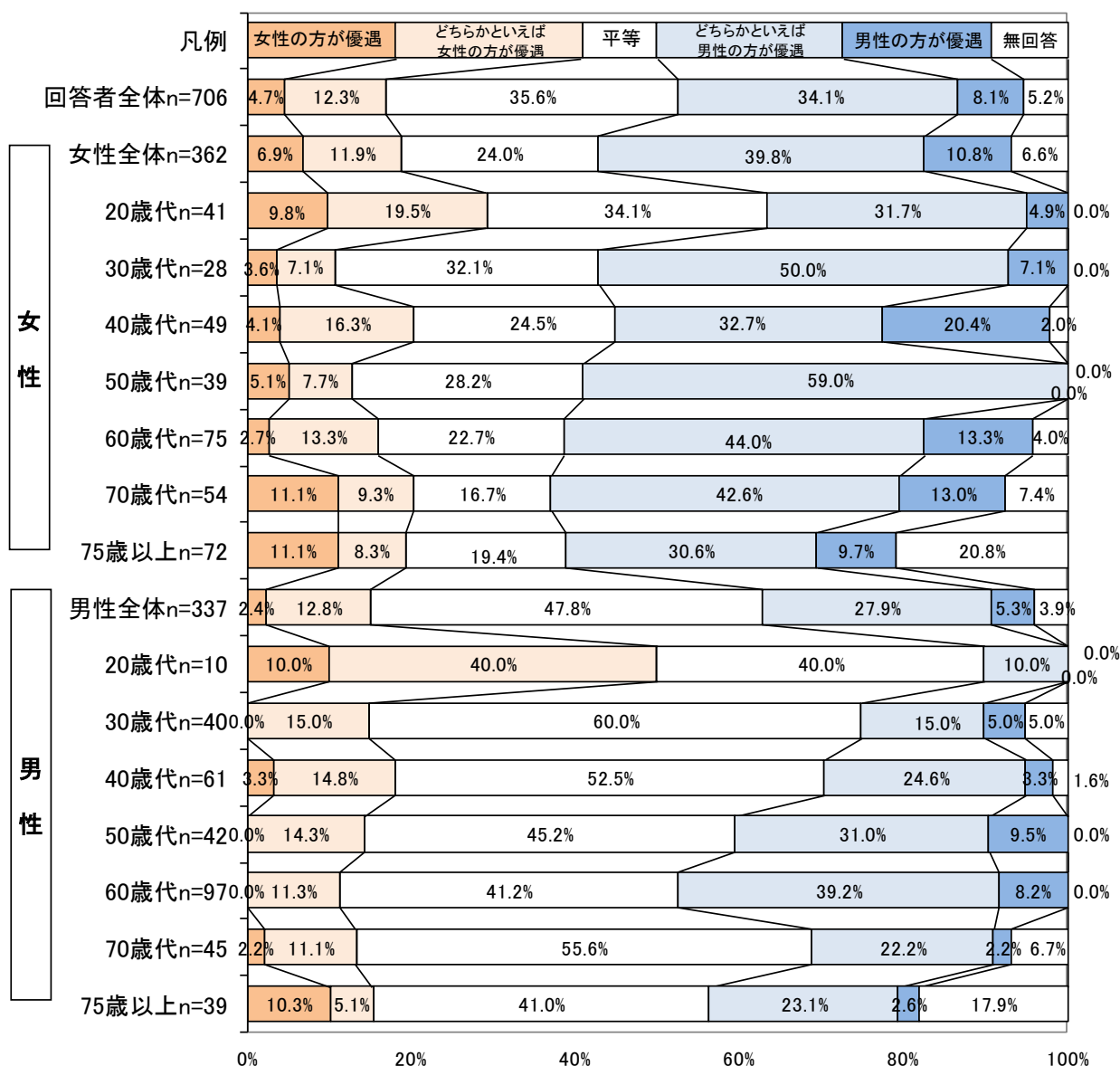
	調査実施年	n	女性の方が優遇	平等	男性の方が優遇	無回答
(ア) 家庭生活	H28年全体	706	17.0	35.6	42.2	5.2
	H23年全体	787	13.9	30.4	49.9	5.8
(イ) 職場	H28年全体	706	6.5	20.5	67.2	5.8
	H23年全体	787	5.8	19.6	68.5	6.2
(ウ) 学校教育の場	H28年全体	706	5.1	74.2	13.5	7.2
	H23年全体	787	3.4	65.9	21.6	9.0
(エ) 地域活動・社会活動の場	H28年全体	706	6.8	48.0	38.4	6.8
	H23年全体	787	6.3	39.0	47.2	7.5
(オ) 政治の場	H28年全体	706	1.9	16.9	74.6	6.7
	H23年全体	787	0.9	16.1	76.2	6.7
(カ) 法律や制度の上	H28年全体	706	5.2	41.5	46.3	6.9
	H23年全体	787	4.3	40.5	47.9	7.2
(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど	H28年全体	706	3.5	21.0	69.2	6.2
	H23年全体	787	2.5	14.1	77.3	6.1
(ク) 社会全体	H28年全体	706	3.8	22.2	67.7	6.2
	H23年全体	787	2.5	15.8	74.9	7.0

<性別及び性・年代別にみた結果>

「(ア) 家庭生活」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

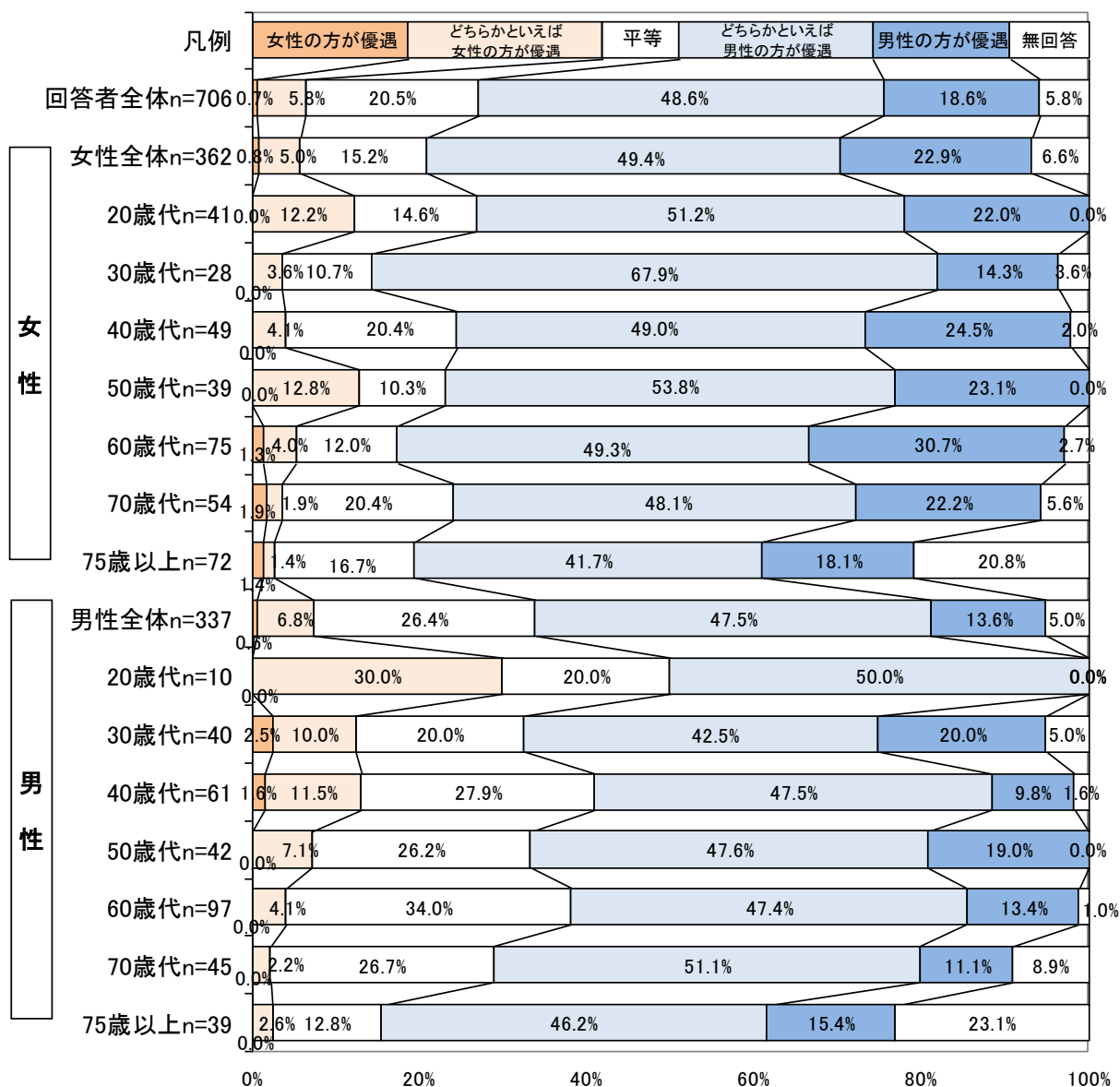
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」では「女性優遇」と「どちらかといえば女性優遇」の割合がやや高いが、「女性」の『30～70歳代』では「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『30歳代以上』では「平等」の割合が高い。



「(イ)職場」

性別にみると、「女性」で「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

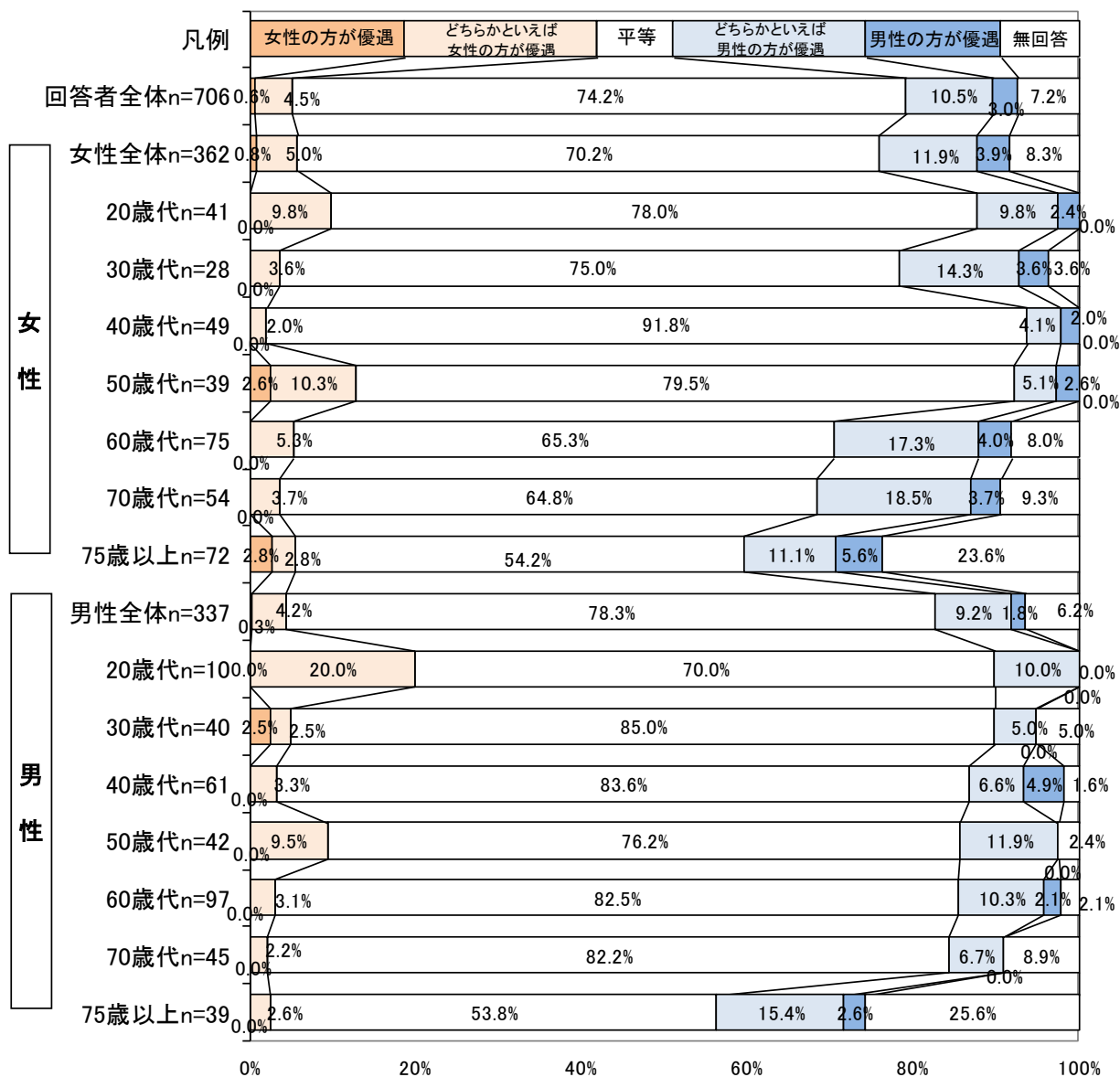
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」と「50歳代」では「どちらかといえば女性優遇」の割合がやや高いが、「女性」の『30～60歳代』では「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『40歳代以上』では「平等」の割合が高い。



「(ウ)学校教育の場」

性別にみると、「男性」の「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

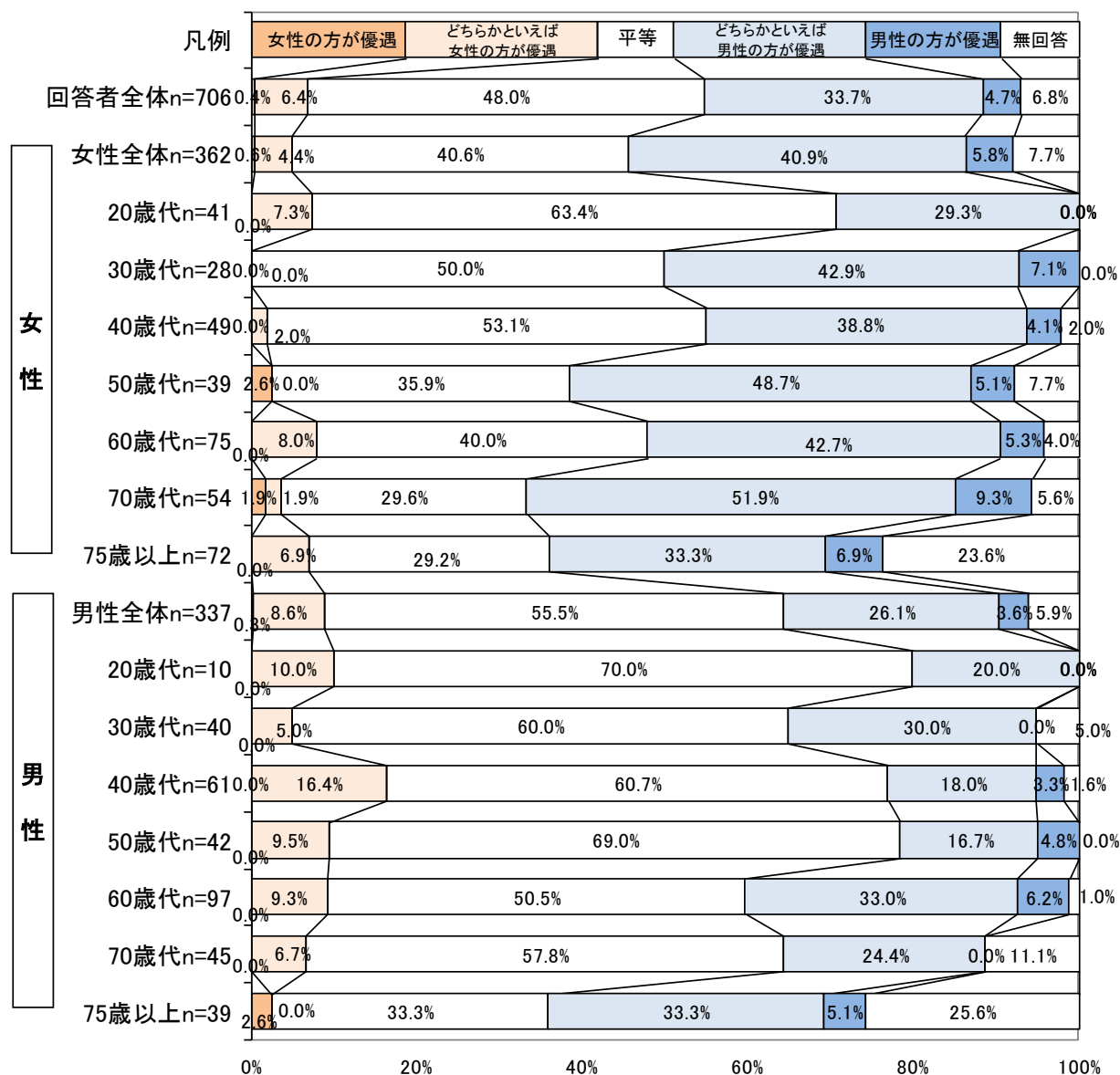
性・年代別にみると、「女性」の『40～50歳代』では「平等」の割合が高いが、「女性」の『60～70歳代』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『30歳代以上』では「平等」の割合が高い。



「(工)地域活動・社会活動の場」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

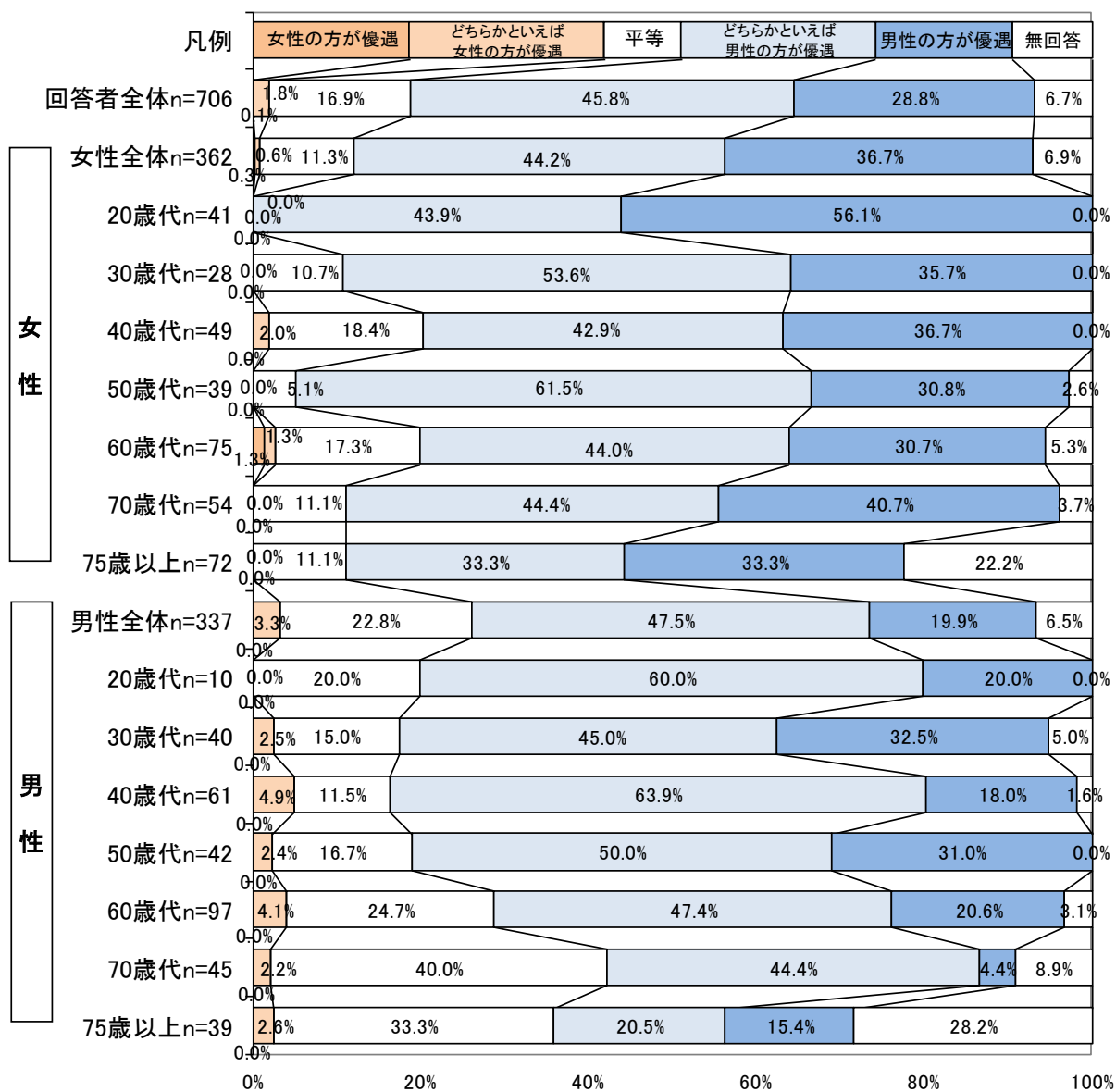
性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」と「40歳代」では「平等」の割合が高いが、「女性」の『30～70歳代』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『30～70歳代』では「平等」の割合が高い。



「(オ)政治の場」

性別にみると、「女性」で「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

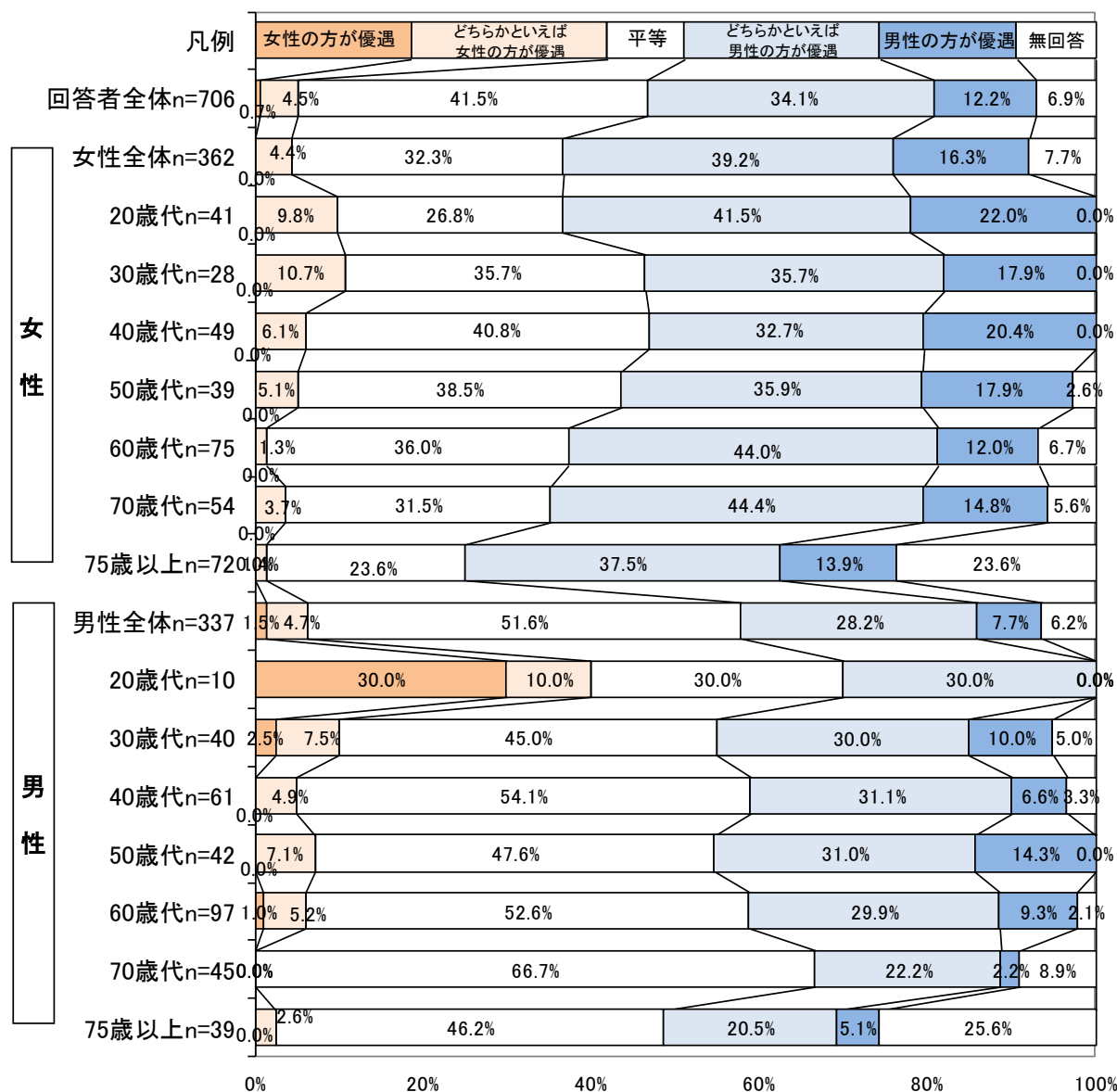
性・年代別にみると、「女性」の『30～40 歳代』と『70 歳代』では「男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『60 歳代以上』では「平等」の割合が高い。



「(カ)法律や制度の上」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

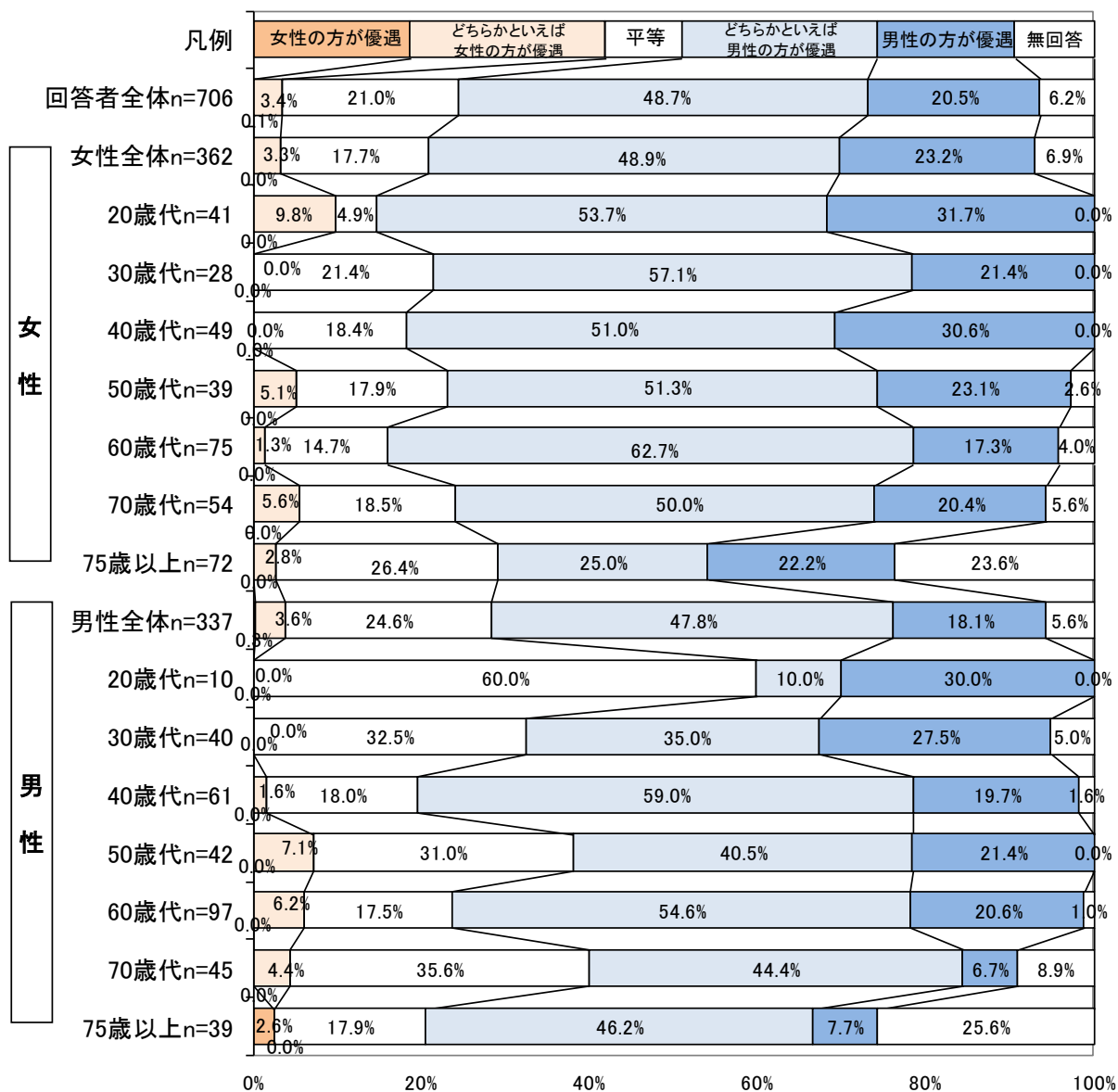
性・年代別にみると、「女性」の『20～50歳代』では「男性優遇」、『60～70歳代』は「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『40～70歳代』で「平等」の割合が高い。



「(キ)社会通念・慣習・しきたりなど」

性別にみると、「女性」で「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

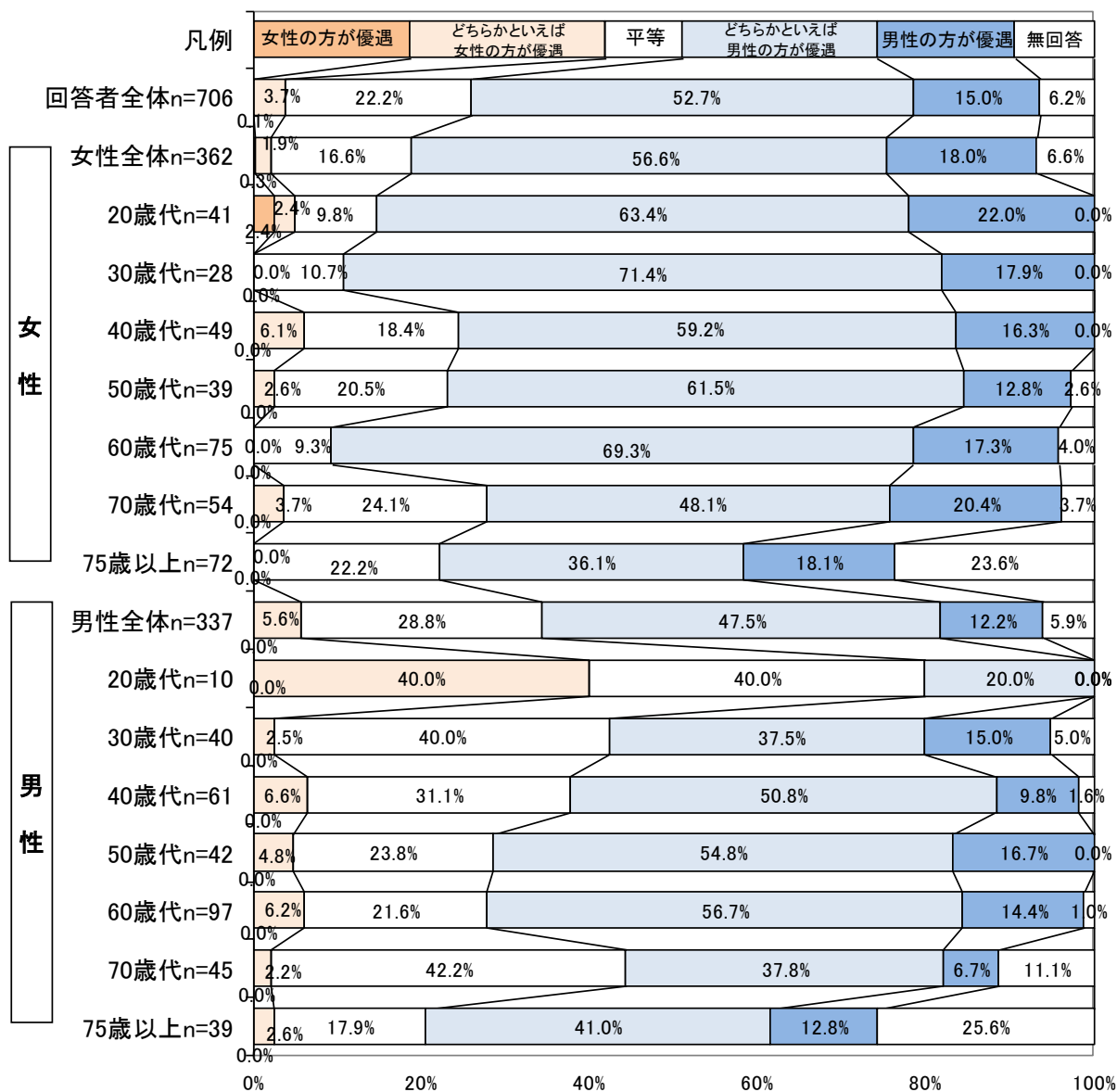
性・年代別にみると、「女性」の「20～30歳代」と「60歳代」では「どちらかといえば男性優遇」、「20歳代」と「40歳代」では「男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の「30歳代」と「50歳代」、「70歳代」で「平等」の割合が高く、「40歳代」と「60歳代」では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。



「(ク)社会全体」

性別にみると、「女性」で「どちらかといえば男性優遇」と「男性優遇」の割合が「男性」より高く、「男性」では「平等」の割合が「女性」より高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」では「男性優遇」と「どちらかといえば男性優遇」の割合が高く、「女性」の『30～60歳代』では「どちらかといえば男性優遇」の割合が高くなっている。「男性」の『30～40歳代』と「70歳代」では「平等」の割合が高い。

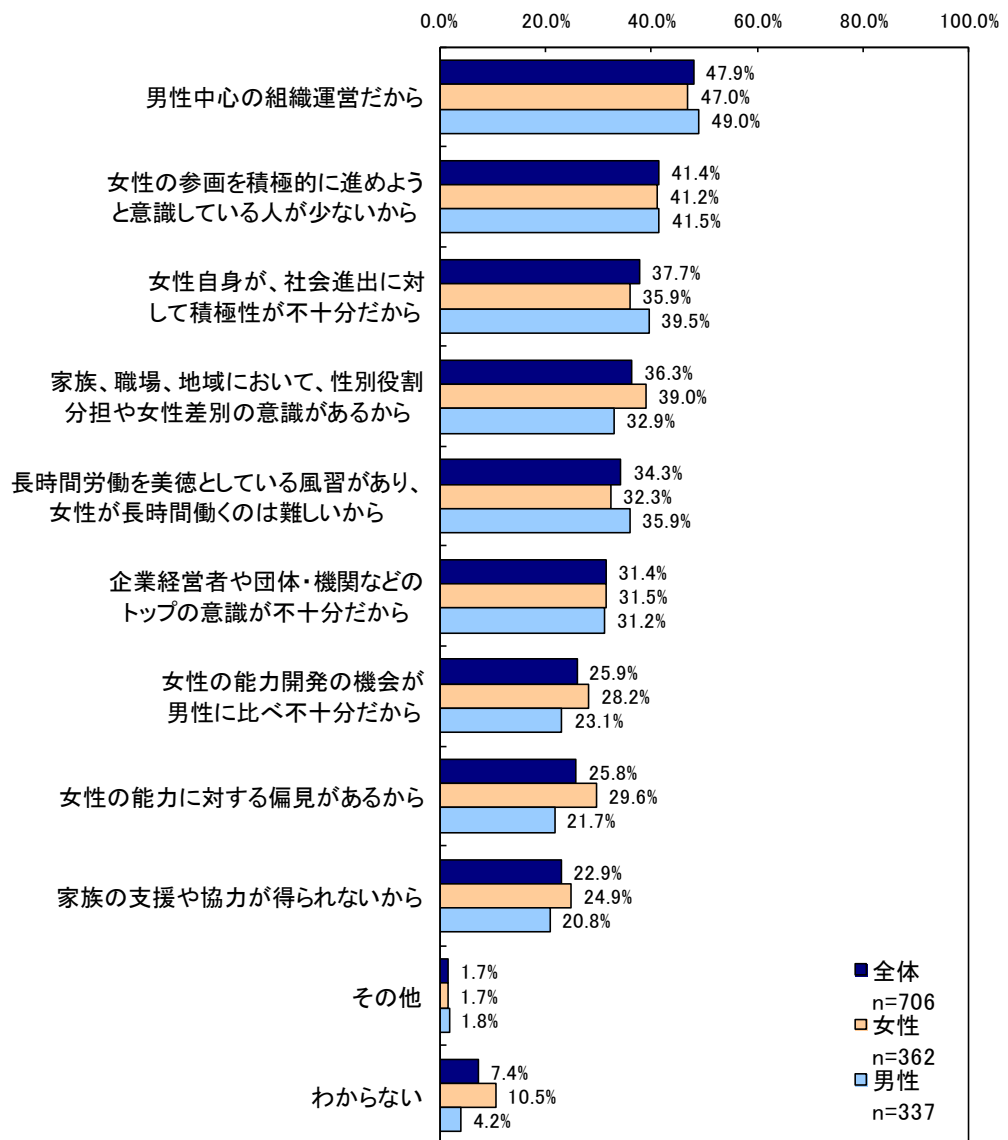


3 社会を動かす役職に女性が少ない理由

問 22 あなたは、政治や行政、企業などの様々な分野において、管理職等への登用など企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

政治や行政、企業などの様々な分野において、管理職等への登用など企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由をみると、「男性中心の組織運営だから」の47.9%が最も多く、これに「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」の41.4%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分だから」(37.7%)、「家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから」(36.3%)の順となっている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上の増減した項目は皆無で、今回の調査で新設した「長時間労働を美德としている風習があり、女性が長時間働くのは難しいから」が34.3%で5番目に多い割合となっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分だから	35.5	37.7
家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから	38.0	36.3
家族の支援や協力が得られないから	23.8	22.9
女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから	25.7	25.9
男性中心の組織運営だから	47.9	47.9
女性の能力に対する偏見があるから	25.8	25.8
女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから	39.3	41.4
企業経営者や団体・機関などのトップの意識が不十分だから	31.4	31.4
長時間労働を美德としている風習があり、女性が長時間働くのは難しいから	-	34.3
その他	1.4	1.7
わからない	6.0	7.4

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べて「家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから」と「女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから」、「女性の能力に対する偏見があるから」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」と『40～50歳代』では「男性中心の組織運営だから」、『60歳以上』では「女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから」の割合が高くなっている。

一方、「男性」の『60歳以上』では「女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分だから」の割合が高くなるなど女性自身の課題を指摘する項目が多くなっているほか、『60～70歳代』では「女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから」や「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」など、女性を後押しする社会的な環境づくりが不十分な内容を挙げた人も多くなっている。

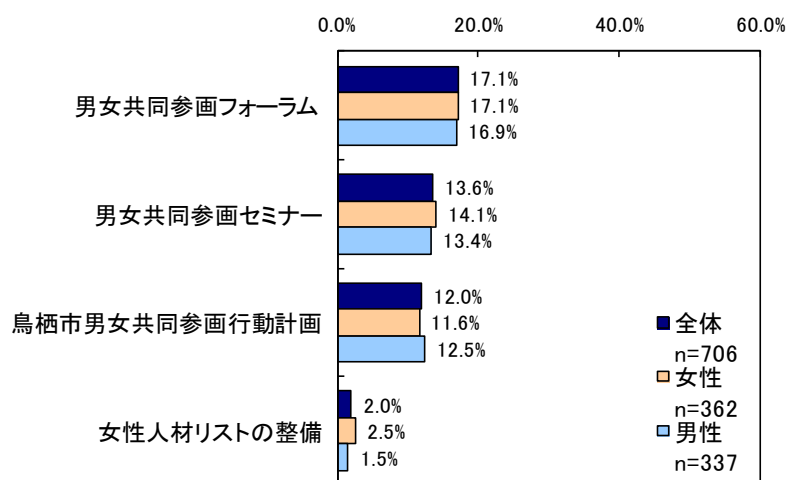
	合計	から女性 対して 積極性 が社会 進出に	差別の 意識が あるか ら女性	て、性 別役割 がある から女 性	家族、 職割、 地域に おい	れない から支 援や協 力が得 ら	家族の 支援や 協力が 得ら	男性に 比べ不 十分だ か	女性に 比べ不 十分だ か	男性中 心の組 織運営 だか	がある から女 性の能 力に対 する偏 見	めようと 意識し ていて る人	女性の 参画を 積極的 に進	十分だ から	企業経 営者や 団体・ 機関	ら長時 間働く のは難 しいか	いる風 習が有 り、女 性が	長時間 労働を 美德と して	その他	わから ない
全体	706	266 37.7%	256 36.3%	162 22.9%	183 25.9%	338 47.9%	182 25.8%	292 41.4%	222 31.4%	242 34.3%	12 1.7%	52 7.4%								
女性	小計	362 35.9%	130 39.0%	90 24.9%	102 28.2%	170 47.0%	107 29.6%	149 41.2%	114 31.5%	117 32.3%	6 1.7%	38 10.5%								
	20歳代	41 36.6%	15 53.7%	12 29.3%	7 17.1%	23 56.1%	10 24.4%	16 39.0%	11 26.8%	12 29.3%	2 4.9%	4 9.8%								
	30歳代	28 21.4%	6 39.3%	4 14.3%	5 17.9%	14 50.0%	12 42.9%	7 25.0%	10 35.7%	8 28.6%	0 0.0%	3 10.7%								
	40歳代	49 26.5%	13 40.8%	20 38.8%	19 22.4%	32 65.3%	12 24.5%	20 40.8%	18 36.7%	19 38.8%	1 2.0%	1 2.0%								
	50歳代	39 33.3%	13 43.6%	10 25.6%	8 20.5%	24 61.5%	12 30.8%	19 48.7%	13 33.3%	18 46.2%	2 5.1%	2 5.1%								
	60歳代	75 36.0%	27 33.3%	15 20.0%	24 32.0%	33 44.0%	26 34.7%	30 40.0%	26 34.7%	19 25.3%	0 0.0%	9 12.0%								
	70歳代	54 46.3%	25 53.7%	14 25.9%	23 42.6%	27 50.0%	16 29.6%	28 51.9%	17 31.5%	20 37.0%	0 0.0%	5 9.3%								
	75歳以上	72 41.7%	30 23.6%	16 22.2%	22 30.6%	17 23.6%	19 26.4%	28 38.9%	19 26.4%	21 29.2%	1 1.4%	13 18.1%								
	無回答	4 25.0%	1 0.0%	0 0.0%	0 50.0%	2 0.0%	0 0.0%	0 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 25.0%								
	男性	小計	337 39.5%	133 32.9%	70 20.8%	78 23.1%	165 49.0%	73 21.7%	140 41.5%	105 31.2%	121 35.9%	6 1.8%	14 4.2%							
20歳代		10 20.0%	2 20.0%	1 10.0%	1 10.0%	6 60.0%	3 30.0%	4 40.0%	1 10.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%								
30歳代		40 25.0%	10 37.5%	10 25.0%	5 12.5%	24 60.0%	9 22.5%	16 40.0%	13 32.5%	14 35.0%	1 2.5%	2 5.0%								
40歳代		61 41.0%	25 31.1%	13 21.3%	7 11.5%	31 50.8%	10 16.4%	21 34.4%	18 29.5%	19 31.1%	3 4.9%	2 3.3%								
50歳代		42 31.0%	13 33.3%	12 28.6%	10 23.8%	22 52.4%	16 38.1%	16 38.1%	14 33.3%	22 52.4%	0 0.0%	1 2.4%								
60歳代		97 45.4%	44 36.1%	20 20.6%	31 32.0%	52 53.6%	22 22.7%	46 47.4%	40 41.2%	31 32.0%	1 1.0%	1 1.0%								
70歳代		45 46.7%	21 40.0%	10 22.2%	14 31.1%	14 31.1%	10 22.2%	22 48.9%	12 26.7%	17 37.8%	1 2.2%	7 15.6%								
75歳以上		39 46.2%	18 20.5%	4 10.3%	10 25.6%	15 38.5%	3 7.7%	15 38.5%	7 17.9%	16 41.0%	0 0.0%	1 2.6%								
無回答		3 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%								

4 鳥栖市の男女共同参画施策の認知状況

問 23 あなたは、鳥栖市が取り組んでいる男女共同参画に関する施策をご存じですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

鳥栖市が取り組んでいる男女共同参画に関する施策の認知状況をみると、最も割合が高い「男女共同参画フォーラム」でも 17.1%となっており、認知状況は低くなっている。以下、回答割合の高い方から、「男女共同参画セミナー」(13.6%)、「鳥栖市男女共同参画行動計画」(12.0%)、「女性人材リストの整備」(2.0%)の順となっている。



<前回との比較>

平成 23 年調査と比較して 5 ポイント以上の増減した項目は、「鳥栖市男女共同参画行動計画」(平成 28 年 12.0%、5.4 ポイント減)となっている。他の施策については、差は認められない。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
鳥栖市男女共同参画行動計画	17.4	12.0
男女共同参画フォーラム	17.9	17.1
男女共同参画セミナー	13.1	13.6
女性人材リストの整備	1.5	2.0
女性と人権セミナー	7.9	-

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別による差は認められない。

性・年代別にみても大きな差は認められないが、「鳥栖市男女共同参画行動計画」は「30歳代」と「70歳代以上」の割合がやや高くなっている。他の施策も「70歳代」を中心に認知度がやや高くなっている。

	合計	計 鳥 画 栖 市 男 女 共 同 参 画 行 動	男 女 共 同 参 画 フ ォ ー ラ ム	男 女 共 同 参 画 セ ミ ナ ー	女 性 人 材 リ ス ト の 整 備	
全体	706	85	121	96	14	
		12.0%	17.1%	13.6%	2.0%	
女性	小計	362	42	62	51	9
			11.6%	17.1%	14.1%	2.5%
	20歳代	41	1	2	5	1
			2.4%	4.9%	12.2%	2.4%
	30歳代	28	4	5	3	3
			14.3%	17.9%	10.7%	10.7%
	40歳代	49	5	9	4	2
			10.2%	18.4%	8.2%	4.1%
	50歳代	39	3	7	7	2
			7.7%	17.9%	17.9%	5.1%
60歳代	75	8	15	11	0	
		10.7%	20.0%	14.7%	0.0%	
70歳代	54	9	9	10	0	
		16.7%	16.7%	18.5%	0.0%	
75歳以上	72	12	15	11	1	
		16.7%	20.8%	15.3%	1.4%	
無回答	4	0	0	0	0	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
男性	小計	337	42	57	45	5
			12.5%	16.9%	13.4%	1.5%
	20歳代	10	0	1	1	0
			0.0%	10.0%	10.0%	0.0%
	30歳代	40	7	5	3	0
			17.5%	12.5%	7.5%	0.0%
	40歳代	61	4	10	4	2
			6.6%	16.4%	6.6%	3.3%
	50歳代	42	2	4	5	1
			4.8%	9.5%	11.9%	2.4%
60歳代	97	12	20	14	0	
		12.4%	20.6%	14.4%	0.0%	
70歳代	45	10	11	11	1	
		22.2%	24.4%	24.4%	2.2%	
75歳以上	39	7	5	7	1	
		17.9%	12.8%	17.9%	2.6%	
無回答	3	0	1	0	0	
		0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	

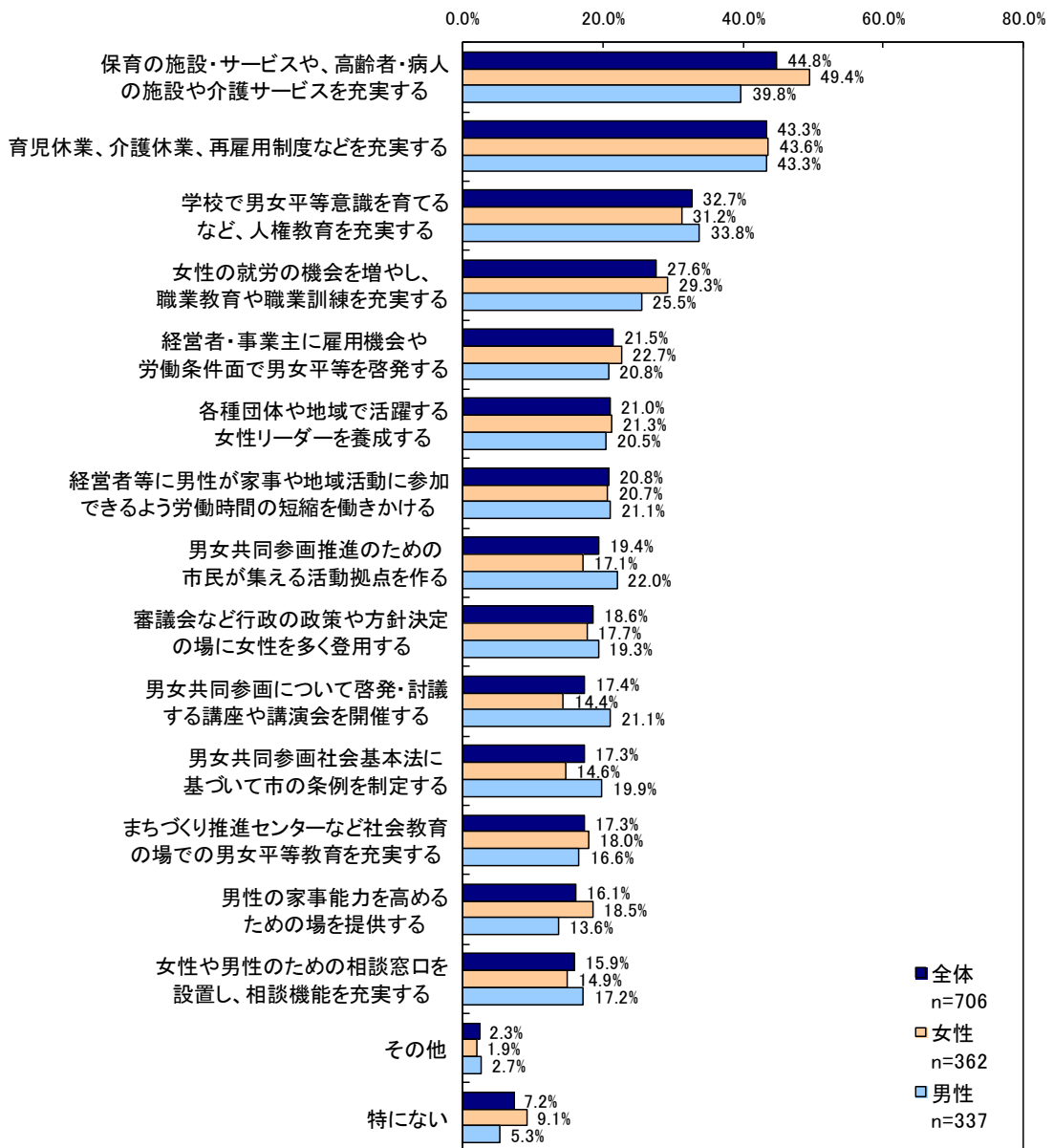
5 男女共同参画社会づくりを進めるために市で力を入れるべきこと

問 24 あなたは、男女共同参画社会づくりを進めるために、鳥栖市は今後何に力を入れるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

<全体の結果>

男女共同参画社会づくりを進めるために、鳥栖市は今後何に力を入れるべきだと思うかについては、「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する」の44.8%が最も多く、これに「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」の43.3%が続いている。以下、回答割合の高い方から、「学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する」(32.7%)、「女性の就労の機会を増やし、職業教育や職業訓練を充実する」(27.6%)の順となっている。

福祉サービスの充実や休業及び再雇用制度及び女性の就労機会の充実、学校での人権教育の充実など、日常生活面での女性に対する支援や子どものころからの人権教育を求める項目の割合が高くなっている。



<前回との比較>

平成23年調査と比較して5ポイント以上増加した項目は、「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」(平成28年17.3%、7.1ポイント増)、「各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する」(平成28年21.0%、5.6ポイント増)であり、いずれも平成23年調査と内容を多少変更した選択肢となっている。同じく5ポイント以上減少した項目は、「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」(平成28年43.3%、5.6ポイント減)となっており、選択率自体は高いが、割合の高い順では23年の1位から2位になっている。

	平成23年 n=787 %	平成28年 n=706 %
男女共同参画社会基本法に基づいて市の条例を制定する	16.8	17.3
男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る	16.9	19.4
審議会など行政の政策や方針決定の場に女性を多く登用する	18.6	18.6
学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する	30.0	32.7
まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する	10.2	17.3
各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する	15.4	21.0
女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する	17.2	15.9
男性の家事能力を高めるための場を提供する	17.9	16.1
育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する	48.9	43.3
保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する	47.0	44.8
経営者・事業主に雇用機会や労働条件面で男女平等を啓発する	21.2	21.5
経営者等に男性が家事や地域活動に参加できるよう労働時間の短縮を働きかける	18.3	20.8
女性の就労の機会を増やし、職業教育や職業訓練を充実する	28.7	27.6
男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する	14.2	17.4
その他	2.3	2.3
特になし	7.2	7.2

※平成28年調査と23年調査の選択肢の違いは、以下のとおり。

- ・28年「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」⇒23年「公民館など社会教育の場での男女平等教育を充実する」
- ・28年「各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する」⇒23年「女性団体活動の女性や女性リーダーを養成する」
- ・28年「男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する」⇒23年「各種講座・講演会を開催し、社会活動の情報を提供する」

<性別及び性・年代別にみた結果>

性別にみると、「女性」は「男性」と比べて「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する」の割合が高くなっている。一方、「男性」は「女性」と比べて「男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る」と「男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する」の割合が高くなっている。

性・年代別にみると、「女性」の「20歳代」で全体平均よりも5ポイント以上高くなっているのは、「育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する」(70.7%)、「保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する」(同)、「経営者等に男性が家事や地域活動に参加できるよう労働時間の短縮を働きかける」(41.5%)、「男性の家事能力を高めるための場を提供する」(39.0%)、「各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する」(31.7%)、「女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する」(26.8%)の6項目と他の層と比べ多くなっている。

「女性」の「30歳代」で全体平均よりも5ポイント以上高くなっているのは、「学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する」(39.3%)、「女性の就労の機会を増やし、職業教育や職業訓練を充

実する」(同)、「男性の家事能力を高めるための場を提供する」(25.0%)、「女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する」(21.4%)の4項目となっている。

「女性」の『60歳代以上』では、「男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る」と「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」など、生涯学習や地域展開に関わる項目の割合が比較的高くなっており、「男性」の『50～70歳代』でも「まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する」の割合が40%前後の割合で高くなっている。

	合計	男女共同参画社会基本法に基づいて市共同参画活動拠点を定めるための市民	男女共同参画推進のための市民	審議会など行政の政策や方針決定の場などに女性を多く登用する	学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する	まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する	各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する	女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する	男性の家事能力を高めるための場を提供する	育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する	保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービス	労働条件面で男女平等を啓発する	経営者・事業主に雇用機会や労働条件を働きかける	短縮に参加できるような労働時間	職業教育や職業訓練を充実する、職業教育の機会を増やす、職業教育の機会を充実する、職業教育の機会を増やす、職業教育の機会を充実する	男女共同参画について啓発・講演会や講座を開催する	その他	特になし
全体	706	122	137	131	231	122	148	112	114	306	316	152	147	195	123	16	51	
		17.3%	19.4%	18.6%	32.7%	17.3%	21.0%	15.9%	16.1%	43.3%	44.8%	21.5%	20.8%	27.6%	17.4%	2.3%	7.2%	
女性	362	53	62	64	113	65	77	54	67	158	179	82	75	106	52	7	33	
		14.6%	17.1%	17.7%	31.2%	18.0%	21.3%	14.9%	18.5%	43.6%	49.4%	22.7%	20.7%	29.3%	14.4%	1.9%	9.1%	
小計	41	3	2	7	11	5	13	11	16	29	29	9	17	13	2	2	3	
		7.3%	4.9%	17.1%	26.8%	12.2%	31.7%	26.8%	39.0%	70.7%	70.7%	22.0%	41.5%	31.7%	4.9%	4.9%	7.3%	
20歳代	28	3	3	5	11	5	5	6	7	12	10	6	7	11	3	1	1	
		10.7%	10.7%	17.9%	39.3%	17.9%	17.9%	21.4%	25.0%	42.9%	35.7%	21.4%	25.0%	39.3%	10.7%	3.6%	3.6%	
30歳代	49	5	4	4	15	9	7	8	8	17	24	10	10	18	4	3	6	
		10.2%	8.2%	8.2%	30.6%	18.4%	14.3%	16.3%	16.3%	34.7%	49.0%	20.4%	20.4%	36.7%	8.2%	6.1%	12.2%	
40歳代	39	4	7	6	10	1	9	6	7	19	23	9	12	16	7	0	1	
		10.3%	17.9%	15.4%	25.6%	2.6%	23.1%	15.4%	17.9%	48.7%	59.0%	23.1%	30.8%	41.0%	17.9%	0.0%	2.6%	
50歳代	75	8	20	14	22	14	18	6	12	30	34	21	7	19	14	0	7	
		10.7%	26.7%	18.7%	29.3%	18.7%	24.0%	8.0%	16.0%	40.0%	45.3%	28.0%	9.3%	25.3%	18.7%	0.0%	9.3%	
60歳代	54	14	13	11	19	14	14	7	8	26	27	16	13	14	11	0	4	
		25.9%	24.1%	20.4%	35.2%	25.9%	25.9%	13.0%	14.8%	48.1%	50.0%	29.6%	24.1%	25.9%	20.4%	0.0%	7.4%	
70歳代	72	15	13	17	24	17	11	9	9	24	31	11	9	15	11	1	10	
		20.8%	18.1%	23.6%	33.3%	23.6%	15.3%	12.5%	12.5%	33.3%	43.1%	15.3%	12.5%	20.8%	15.3%	1.4%	13.9%	
75歳以上	4	1	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	
		25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	
無回答	337	67	74	65	114	56	69	58	46	146	134	70	71	86	71	9	18	
		19.9%	22.0%	19.3%	33.8%	16.6%	20.5%	17.2%	13.6%	43.3%	39.8%	20.8%	21.1%	25.5%	21.1%	2.7%	5.3%	
男性	10	1	2	2	4	1	3	2	4	8	3	1	3	4	1	0	0	
		10.0%	20.0%	20.0%	40.0%	10.0%	30.0%	20.0%	40.0%	80.0%	30.0%	10.0%	30.0%	40.0%	10.0%	0.0%	0.0%	
小計	40	6	8	9	10	6	6	8	7	19	19	9	8	10	5	2	2	
		15.0%	20.0%	22.5%	25.0%	15.0%	15.0%	20.0%	17.5%	47.5%	47.5%	22.5%	20.0%	25.0%	12.5%	5.0%	5.0%	
20歳代	61	8	11	10	19	8	18	15	12	24	29	10	16	18	11	3	1	
		13.1%	18.0%	16.4%	31.1%	13.1%	29.5%	24.6%	19.7%	39.3%	47.5%	16.4%	26.2%	29.5%	18.0%	4.9%	1.6%	
30歳代	42	13	10	11	16	7	4	7	4	25	20	6	8	18	7	3	3	
		31.0%	23.8%	26.2%	38.1%	16.7%	9.5%	16.7%	9.5%	59.5%	47.6%	14.3%	19.0%	42.9%	16.7%	7.1%	7.1%	
40歳代	97	22	22	21	39	16	17	16	13	44	40	24	22	23	23	0	4	
		22.7%	22.7%	21.6%	40.2%	16.5%	17.5%	16.5%	13.4%	45.4%	41.2%	24.7%	22.7%	23.7%	23.7%	0.0%	4.1%	
50歳代	45	8	12	7	17	12	11	4	4	18	13	12	9	9	12	1	3	
		17.8%	26.7%	15.6%	37.8%	26.7%	24.4%	8.9%	8.9%	40.0%	28.9%	26.7%	20.0%	20.0%	26.7%	2.2%	6.7%	
60歳代	39	9	9	5	9	6	10	6	2	8	9	8	4	4	12	0	5	
		23.1%	23.1%	12.8%	23.1%	15.4%	25.6%	15.4%	5.1%	20.5%	23.1%	20.5%	10.3%	10.3%	30.8%	0.0%	12.8%	
70歳代	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
無回答																		

女性問題や男女共同参画社会についてのご意見やご要望等がありましたら、自由に記入してください。

女性問題や男女共同参画社会についてのご意見やご要望に関する主な意見は以下の通り。

主な意見	件数
子育て支援の充実を求める意見 「子どもとの時間を犠牲にしてまで働きたくないが働かなければならない現状。男女共同参画と子育て支援は同時進行であるべき」「『子育てサービスが充実している鳥栖市』『住みやすい鳥栖市』で九州を代表する田舎町になってほしい」など	16 件
アンケートに関する意見 「意識調査の結果を教えてほしい」「今からは若い人たちの時代だから、若い人たちを主にアンケートを行い鳥栖市が発展することを願っている」など	11 件
広報の充実を求める意見 「資料を各家庭に配布すべき」「鳥栖市が取り組んでいる男女共同参画に関する施策について具体的に教えてほしい」など	6 件
人権尊重に関する意見 「男性女性と区別せずに、ひとりの人間として考えるようになれば、世の中違ってくるのではないか」「女性が家庭に入るも職を選ぶも自由。男性だから必ず仕事をするということでもないと思う。人それぞれなので、男性だから女性だからと言われることがなくなるとよい」など	6 件
学校教育の充実を求める意見 「学校教育にもっと男女共同参画社会を取り上げるべき」「まずは子どもたちに係る教育の現場から発信してほしい」など	5 件
女性の意識向上を求める意見 「女性の自覚が自発的に発生しなければ、どんなに行政でその場を設けてもそれ以上の発展はないと思う」「今は男社会になっているのは認めるが、女性も男性を頼りすぎている。女性の奮起を期待している」など	5 件
性差を踏まえた施策等を望む意見 「男女に体格、体力、性格の違いがあることを踏まえ、役割の考え方ではなく、男女が持つ能力や個性をより活かせるように取り組めばよい」「男女の肉体的、精神的な特性を理解しそれぞれの特性を活かす、伸ばす施策を。単純に男女平等と安易に全てを同じにすることはやめてほしい」など	5 件
性別役割を重視する意見 「男と女それぞれの役割があるはず。それを認めあった上での女性進出なら応援してあげるべき。女性にも優秀な方が多くいる」「男女どちらが優れている、偉いのではない。役割があると思うだけ。女性が社会に進出することが全て良いことだとは思わない」など	5 件
男女共同参画社会についてわからないという意見 「男女共同参画社会の内容を知らないので意見がない」「男女共同参画社会とは具体的にどのようなことなのか」など	5 件

主な意見	件数
啓発に関する意見	4 件
「啓発や講演会等を行ってほしい」など	
女性管理職登用に期待する意見	4 件
「女性が活躍できるポジションには積極的に女性を登用すべき」「民間、役所を問わず鳥栖市には女性管理職者が少ないと思う。女性にはこれからの人材を育成できる知恵、アイデア、経験、ユニークな発想など多方面に期待できるのではないかなど	
男女共同参画社会の実現には家族の協力が必要という意見	3 件
「家族の理解、協力が得られないと家事が忙しくて時間もない」「結婚10年以降は男性、女性共に稼ぎに出るようになり子ども達は料理、洗濯等と家事をするようにしていた」など	
中高年の意識改革を求める意見	3 件
「若い方の男女平等の意識は高いが、50代以上の方は低い。女性が出産後に仕事をすることに偏見を持っている。会社の役職がある方、経営陣への意識改革が必要」「問題なのは中高年の方々。女性が家事も育児も介護もやるのが当たり前と思っている人が多い」など	
男性の意識改革を求める意見	3 件
「結婚、家事、出産、介護面では女性に負担が多いので、男性はもっと意識を変えて協力してほしい」「まだまだ男性中心組織では女性に対する偏見がある」など	
社会の意識の変化に関する意見	3 件
「職場での男女差別は感じたことはない。どちらかと言えば、社会にそうせざるを得ないシステムがある」「今は男女共同、昔と時代が違う。女性が強く生きられる時代になったと思う」	
相談窓口の充実を求める意見	3 件
「職場や家庭内の問題を気軽に相談できる窓口があればよいと思う。子ども、女性、高齢者、外国人、仕事、家庭をよりよくするための地域を見守ってほしい」など	
LGBTに関する認識を求める意見	2 件
「LGBTの人々もいるので男女だけでなく、いろいろな人々がいて平等という勉強も必要」「教育に携わっている人の中にもLGBTを知らない人がいる」	
不妊治療の支援を求める意見	2 件
「不妊治療休暇も積極的に男女ともに取れるような市になってほしい」「少子化については晩婚化による年齢的な理由で子どもが欲しくてもできない人が増えているので、不妊治療等への支援、補助がもっと手厚くなればよいのではないかなど	
少子化に関する意見	2 件
「男女ともに相手を正しく選んで素晴らしい人生を送ってほしい」「佐賀県内だけでなく他県からの縁組などがあればよい」	

IV 講 評

女性と男性のあいだの「意識のジェンダーギャップ」

—鳥栖市「男女共同参画社会の実現に向けた市民意識調査報告書」(平成29年1月)の講評—

佐賀大学教育学部准教授(法哲学) 吉岡剛彦

I. ジェンダーギャップ指数

のっけから耳慣れない横文字を持ち出して恐縮だが、「ジェンダーギャップ指数」というものがある。これは、世界経済フォーラム(WEF)が毎年発表しているもので、世界各国の男女平等の度合いを数値化するものである。経済、教育、政治、健康の4分野における女性と男性のあいだの立場の格差に注目し、男女間の格差が少ないほど、男女平等(男女共同参画)が進んでいると判断する。女性と男性という性別(ジェンダー)間の格差(ギャップ)を判断基準とする指標であることから、「ジェンダーギャップ指数」と呼ばれる。

この指数によって測定された日本の順位は、一貫して100位台で低空飛行を続けてきたが、2016年版における総合順位は、前年(2015年)よりも10ランクも下がって全144か国中111位となり、過去最低の結果に終わった(日本経済新聞2016年10月26日)。たとえば、「経済」の分野に関しては男女間の所得格差が指標の一つになっている。厚生労働省の「平成27年賃金構造基本統計調査(賃金センサス)」によれば、2015年における日本の平均賃金は、男性が35万5,100円であったのに対して、女性は24万2,000円(男性の72.2%)に留まった。こうした所得格差は、世界100位の悪い成績であり、こうした実状から経済分野全体の日本の順位も118位に沈んだ。また、「政治」の分野に関しては議会の議員数の男女差が指標の一つになっている。2015年の日本の国会議員に占める女性比率はわずか11.6%で、これは世界147位(列国議会同盟[IPU]2015年版)であり、これを反映してジェンダーギャップ指数の政治分野全体でも、日本の順位は103位に低迷した。

冒頭から「ジェンダーギャップ指数」を引き合いに出したのは、ほかでもない。この鳥栖市「男女共同参画社会の実現に向けた市民意識調査報告書」にも、おおいに注目されるべき女性と男性のあいだの意識の格差—意識をめぐる「ジェンダーギャップ」—が見られるように思われるからである。

II. 調査の概要について—回答者の特性に関する留意点

この市民意識調査は、来年度(2017年度)鳥栖市において新たな「男女共同参画行動計画」が策定(改定)されるのに先立って実施された。男女共同参画をめぐる諸テーマ(結婚・育児と、家庭や職業との関連など)について、市民がどのような現状にあり、どのような意識を有しているかを調査することを目的としている。前回調査は、5年前(2011年)である。調査対象者は、満20歳以上の男女2,000人で、有効回答数706件(女性362、男性337、その他・無回答7)、回収率は35.3%であった。

まず留意すべき点として、女性と男性それぞれの回答者の特性がある。質問紙の最初のほうでは、回答者に対して「結婚の有無」について尋ねている(F3)が、男性回答者では実に85.2%までが「既婚」であるのとは対照的に、女性回答者では「既婚」は12.7%に留まり、目下、結婚状態にない人(結婚経験が無い、あるいは、結婚したがパートナーと死別ないしは離別したという人)が86.4%を占めた。前回(2011年調

査)では、「既婚」と「結婚状態にない」の割合は、女性では72.9%/24.7%、男性では81.7%/14.4%であったから、特に女性回答者において、ずいぶん違いがある。

2015年の総務省「国勢調査」によれば、50歳までに一度も結婚経験を持たない人の割合である「生涯未婚率」は、女性13.3%、男性22.8%とされる。鳥栖市の場合にも、全国的傾向と大きくは異ならないだろうと考えれば、特に女性回答者における結婚状態にある人／ない人の比率の偏りは、必ずしも鳥栖市民の実態を反映したものとは言いがたいかもしれない(同じく「国勢調査」における男女それぞれの各年代別「未婚率」と、調査回答者の各年代の「結婚していない」人の割合のあいだにも相当のへだたりがある)。この回答者の特性の違いが、調査結果に影響を与えている可能性がある箇所も見受けられ、この点には注意を払っておく必要があるだろう。たとえば、「問1」の「(ア)結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」に対する女性の賛否(前回2011年は57.8%、今回は72.1%)や、「(オ)結婚して、相手に満足できないときは離婚すればよい」に対する女性の賛否(前は26.0%、今回は51.4%)など、結婚観・離婚観を尋ねた質問では、女性回答者に非婚(未婚)者と離婚経験者の割合の多いことが、いくらか作用しているかもしれない。こうした回答者の男女差(いわば、結婚状態をめぐる回答者のジェンダーギャップ)が、なぜ生じたのかは不明である。

加えて、鳥栖市における実際の年齢別の人口割合に比べると、回答者に占める中高年世代が多いという点も踏まえておかなければならない。これはあらゆる市民意識調査に共通する特徴(課題)といえる。

また、回答者が何年くらい鳥栖市に住んでいるかという居住年数についても尋ねている(F6)。これによれば、5年前(2011年)の前回調査で90%を超えていた「20年以上」居住者が今回は60%弱まで減少し、前回5.7%だった「10年未満」居住者が今回26.1%まで急増している。鳥栖市は、地理的に福岡市や久留米市などにも充分な通勤通学圏内にある。そうした事情もあって、新たに鳥栖市へ移り住んだ転入者が増加したものと推察される。従来からの長期居住者が少なくなり、鳥栖に馴染みの薄い新規転入者が増えて、いわば古参者／新参者の人口構成が変化しているのだとすれば、この点は、地域コミュニティにおける男女共同参画(や相互扶助)の推進施策を構想する上でも、しっかりと考慮されるべきだろう。

Ⅲ. 鳥栖市意識調査におけるジェンダーギャップ

以上のような回答者の特徴を押さえた上で、調査結果を具体的に見渡してみたい。その際、前述のように、女性と男性の意識のあいだに格差(ギャップ)が見られる質問項目に、とりわけ眼を向けるように努めた。

(1) 性別役割分業意識をめぐる——反対派が全国平均を上回る

調査結果のなかで、まず注目するのは、「第1章:結婚と家庭について」の「問1」である。ここでは「(イ)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、回答者がどう思うかを尋ねている。これは「性別役割分業意識」について尋ねる、よく知られた質問である。

世の中には、個人がみずからの価値観にしたがって「自分らしく、人生・生活を送っていくことを邪魔する障害物が、残念ながら、たくさん存在している。そうした障害物の最たるものとして“性別による枠づけ”がある。その人が、男だから／女だからという性別を理由に挙げて「女ならば／男ならば、こうある(する)べきだ」

と考えられている社会通念のことである。この“性別によって生き方に枠をはめる社会通念”のことを「ジェンダー」とも呼んでいる(本調査の「第6章:男女共同参画社会について」の「問20の(オ)」も参照)。ジェンダーは「社会的・文化的な性差」とも訳されるが、その時代その社会において「女だから／男だから、こうある(する)べきだ」と見なされてルール化している考え方のことであり、人びとの行動や思考に対して「性別の型枠」をはめる意識・慣習・規範のことをいう。

こうした「ジェンダー」(性別による枠づけ)のうち、もっとも典型的なのが「夫が外で働き、妻は家を守るべきだ」という考え方にほかならない。これは、男女の性別にもとづいて、男性のほうをもっぱら「外」での職業生活(賃金労働など)に張りつけ、女性のほうをもっぱら「内」での家庭生活(家事・育児・介護など)に張りつけて、その男女(夫婦)間の役割分担—というより“分断”—によって社会生活と家庭生活の双方をなんとか成り立たせようとするものである。これを「性別役割分業」という。

ここから、この「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方(性別役割分業意識)に「反対」する人がどれくらい増えたかが、男女平等(男女共同参画)がどれくらい進んだかを測定するための重要な指標とされている。では、今回の鳥栖市の調査結果では、どうだっただろうか。

今回の鳥栖市調査では、女性では20代の80.3%、男性では40代の73.8%を筆頭に、男女とも、ほぼ全世代で、半数以上が「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」という「反対派」であり、回答者全体では「反対派」が66.4%(女性71.5%、男性62.0%)にのぼった。同様の調査は、数年ごとに国レベル(内閣府)でも行なわれており、その最新結果(2016年8～9月調査、全国の18歳以上の男女約3,000人が回答)でも、調査開始以来、初めて「反対派」が半数を超えて54.3%(2014年比4.9%増)となった。だが、鳥栖市の「反対派」の比率は、この国レベルの割合をも上回るものであり、この結果だけを見るかぎり、本市における男女共同参画の着実な進展をひとまず確認・評価することができる。

(2)でもやっぱり「夫が外で、妻は家で」?—だから子どもにも“男らしく、女らしく”?

上述のように、今回の鳥栖市調査では、全国水準を上回る66.4%が、性別役割分業を否定する「反対派」であり、この意味で、多くの人が“正答”を選んでいる。しかしながら、この結果を手放しで喜ぶことはできない。というのも、まさにその舌の根も乾かぬうちに、次問「(ウ)女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい」という考え方については、「反対派」が、男性では56.7%に微減し、女性では50.3%にまで大幅に減少してしまう。設問中の「自分のことより」という文言が、特に女性において「自分のわがままばかり通さずに」というように利己的な(自分本位の)態度を否定するものと解釈された可能性を考慮しても、やはり前問(性別役割分業意識への反対)との整合性が取れていないように見える。

同様の傾向を認めうるのが、「第3章:職業と結婚について」の「問12:あなたは男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか」という質問である。本問では、男女それぞれの好ましい関わり方について「①主に仕事を優先、②どちらかといえば仕事を優先、③仕事と家庭に同程度に関わる、④どちらかといえば家庭を優先、⑤主に家庭を優先」の5択で回答する。

その回答状況を見ると、「(ア)男性の好ましい関わり方」については、男性の70.9%、女性でも53.3%が「男性＝仕事優先派」(主に／どちらかといえば仕事を優先)である。これと対応するように「(イ)女性の好ましい関わり方」については、男性の59.0%、女性自身においても半数を超える52.2%が、逆に「女性＝

家庭優先派」(主に／どちらかといえば家庭を優先)という結果になっている。多くの人が、性別役割分業意識(「夫が外で働き、妻は家を守る」という考え方)を表向きには否定しているが、実際には「男性＝仕事優先」「女性＝家庭優先」と考えてしまっており、ここには明らかに認識にずれがある。

こうした矛盾がさらに深まるように思われるのが、次章「第2章:子育てと教育について」における「問3:あなたは、子どものしつけや教育についてどのようなお考えをお持ちですか」の「(ア)男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」という考え方に対する賛否を尋ねる設問である。これに対して、実に回答者全体の75.4%(女性の68.8%、男性では実に82.5%)が賛成意見(「賛成」「どちらかといえば賛成」)であった。

本問に対する「賛成派」は、男女それぞれに性別にもとづく役割があること、すなわち「性別役割分業」(ジェンダー)を肯定する立場であることを意味する。「男女平等だ、男女共同参画だと、いくら立派な御託を並べてみたって、世の中では結局、男には“男らしさ”が、女には“女らしさ”が求められるのだから、子どもには、余計な苦勞をさせないためにも、それぞれの“らしさ”を身に着けさせるほうが良い」という一種のあきらめまたは割り切りなのかもしれないが、やはり見過ごすことはできない。ここには、性別役割分業(ジェンダー)について、頭では否定しつつも、なかなか芯からは脱却できない市民の“地金”が見え隠れしているように思われる。表面的なタテマエの次元に留まる男女共同参画の呼びかけ(啓発)では無く、より深層にある本音の部分にも効果的に働きかける工夫が今後求められるだろう。

なお、本問について、20代と30代の女性(43.9%、53.6%)ならびに20代男性(50.0%)では、他の年代に比べて相対的に「賛成派」が少なかった。これに呼応するように、同問の「(ウ)男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」に対する「賛成」の回答割合も、20代の男女において目立って高率(女性80.5%、男性80.0%)となっている。これらは、若い世代における意識変化をうかがわせるものとして、併せて注視しておきたい。

(3)意識のジェンダーギャップ——夫の家事参加は“手伝い”レベル?

さらに「夫が外で、妻は家で」という性別役割分業を否定する「反対派」の“本気度”を疑わせる結果は、他にも散見される。前記のような本音では「男性＝仕事優先」「女性＝家庭優先」という意識が、実際の行動面にも多大な影響をもたらしていることを推測させるのが、再度ひるがえって「第1章:結婚と家庭について」の「問2:あなたのご家庭では、次にあげるような日常的な事柄は、主にどなたの役割ですか」を尋ねた質問である。これに対して「主に／どちらかといえば妻・母親」「両方同じ程度」「主に／どちらかといえば夫・父親」といった選択肢から回答してもらった。家事役割分担の実態を調査する項目である。

その結果は日常的な家事に該当する「(ア)掃除」「(イ)洗濯」「(ウ)食事のしたく」「(エ)食事のあとかたづけ」「(オ)日々の家計支出の管理」といった諸項目のほぼすべてにおいて、男女双方の認識として、半数(50%)以上が「主に妻・母親」の役割と答えている。これに「どちらかといえば」を加味すれば、家事は「妻・母親」の役割になっていると認識している割合は、6割から8割にも及ぶ。アンケートで「夫が外で働き、妻は家を守るべきか」と問われれば「いや、もうそんな時代じゃない」と“正解”を答えることができる。にもかかわらず、生活の実態としては「男性＝仕事優先」「女性＝家庭優先」になってしまっているのである。意識に行動が伴っていない(頭では分かっているのだが、なかなか体は動かない)という状況が浮かび上がる。

加えて、家庭責任の分担を尋ねた本問については、非常に興味深い結果も見取られる。これが、先述した女性と男性のあいだの意識をめぐるジェンダーギャップ(意識の男女差)である。

上記の家事の役割分担について、「(ア)掃除」「(イ)洗濯」「(ウ)食事のしたく」などでは、男女間に大きな認識差が見られないのに対して、「(エ)食事のあとかたづけ」については、女性と男性の認識のあいだに、はっきりした食い違いがある。

この質問は「妻または夫が、それぞれの家事を、実際にどれくらいの時間やっているか?」という現実の家事従事時間を尋ねたものではない。あくまで「妻と夫のどちらが多く担っている(あるいは同じくらい担っている)と、あなたは「思っている、か」という各自の認識(見方)を問うたものである点を確認する必要がある。この点を踏まえて、上に示した女性と男性のあいだの認識差を読み解いてみれば、少なからぬ男性(夫)たちは「たしかに妻に家事の多くを頼ってしまっている自覚はあるが、食器洗い(食事のあとかたづけ)くらいは、自分もそれなりにやっているつもりだし、事と次第によっては、妻と同じくらい自分もやっている自負がある」と考えているが、女性(妻)の側にしてみれば「ほんのちょっと食器を台所に運んだり、それを洗ったりしたくらいで、「自分もちゃんとやっている、なんて片腹痛い!」と、男性(夫)に対する鬱憤を溜めている、というような情景が見えてくるのではないだろうか。

この傾向がさらに顕著なのが、同じ設問の「子どもの世話・しつけをする」である。これも、子育て世代と考えられる30代、40代、50代で比較してみると、「子どもの世話・しつけ」を「主に妻・母親がやっている」→「どちらかといえば妻・母親がやっている」→「両方同じ程度にやっている」の順番に、30代では、女性が55.6%→5.6%→11.1%であるのに対して、男性は8.3%→16.7%→44.4%である。40代では、女性が53.1%→9.4%→15.6%に対して、男性は、10.5%→38.6%→36.8%。そして、50代では、女性が36.4%→4.5%→13.6%であるのに対して、男性は19.4%→30.6%→41.7%となっており、思わず吹き出してしまうほどの明々白々とした格差がある。子どもの養育・教育について、男性(父親)側は「自分もちゃんと応分の貢献をしている」という自己イメージ(あくまで「自分の、自分による、自分のためのイメージ!」)を持っているのだが、それとは対照的に、女性(母親)の側は「男(夫)ときたら、育児のほとんどを自分に任せきりにして、家庭を顧みようとしない」と怒りのやり場がない、という状況が見えてくる。

やや善意に解釈すれば、男性(夫・父親)において、家事や育児にそれ相応の関与をしているという自己イメージが強いのは、「自分たち(男性)も家事・育児を分担しなければならない」という意識の反映なのかもしれない(「食事のしたくは妻に頼りきりだから、せめてあとかたづけくらいは」「子どもの教育は、夫婦両方の共同責任だから、休みの日くらいは何とか自分も」というような)。もし、家事や育児に関する分担意識があるのだとすれば—それ自体は至極当然のことであるから、けっして褒められる類のものではないが、ひとまずは評価しうるものである。しかしながら、いかんせん、男性側の関与の度合いは、女性側が「家庭のことを、ちゃんと夫と分かち合っている」と実感できるほど十分な水準には届いておらず、せいぜいのところ「手伝い」のレベルに留まっているのが実態のようだ。家事・育児の分担具合に関する男女間の認識差(ジェンダーギャップ)は、こうした「男性の『やっているつもり』は、女性には『手伝い』レベル」という実態を表わしているように思われる。この設問について男女共同参画の観点から見れば、男女間の認識差が少ないかたちで「両方が同程度やっている」という回答の割合が増えていくことが理想型である。

このように男性側は「食器洗いも子どものしつけも、それなりにやっているつもり」だけれど、女性側から見れば「男性は、彼が自分で言うほどにはやっていない」という認識の不均衡(アンバランス)があるとすれば、それは、必ずや女性をして家庭生活に不満を抱かせることになるだろう。

これを証示するのが、「第6章:男女共同参画社会について」の「問21:あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか」の「(ア)家庭生活」に対する回答結果である。本問について、男性全体の47.8%が「平等」と回答しているのとは対照的に、女性全体の半数(50.6%)までが「男性優遇」(「男性の方が優遇」と「どちらかといえば男性の方が優遇」と回答し、「平等」と答えたのは24.0%に留まり、男性のおよそ半数に過ぎない。とりわけ30代、40代、50代において、こうした男女間の意識差(ジェンダーギャップ)が大きい。家庭生活における男女の立場について、男性自身は「(ほぼ)平等」と考えている人が多いのとは対照的に、女性のほうは多くが「まだまだ男性優遇」と捉えていることが、はっきりと見て取れる。

(4) その他——「男の子らしく」「女の子らしく」の意味内容、DVをめぐって

上記では「男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」という考え方への賛否を尋ねる設問に対して、回答者全体の4分の3(75.4%)までが「賛成」と答えたことを見ておいた。それでは、この場合に「女の子らしく」「男の子らしく」育てるとは、いったいどのように育てることが想定されているのだろうか。

これをうかがい知らせるのが、「第2章:子育てと教育について」の「問4:あなたが、『女の子らしく』、『男の子らしく』という表現から思い浮かべるキーワードは何ですか」である。20個の言葉を選択肢として並べ、それぞれ「女の子らしさ」「男の子らしさ」から想起される言葉を3つまで選んでもらっている。その結果、「女の子らしさ」としては上位10位までに「思いやり」「やさしい」「かわいい」「温かい」「きれい」「ひかえめ」などが挙げられ、反面で「男の子らしさ」としては「たくましい」「決断力」「勇氣」「元気」「強い」「独立心」などが挙げられた。総じて「女の子らしさ」については「自分のことは二の次にして、他人を気づかう慎み」が、「男の子らしさ」については「自分の中から湧き出す力で、状況を切りひらいていく強さ」がイメージされているようだ。世間でしばしば唱えられてきた「男は度胸、女は愛嬌」というジェンダー観そのものである。女の子にも「勇氣」や「決断力」「独立心」はそなわっているほうが望ましいだろうし、男の子にも「思いやり」や「やさしさ」、場合によっては「ひかえめさ」が要求されることは言うまでもない。

この質問については本来、「どんな表現(言葉)も思い浮かばない」という選択肢が設けられ、この選択肢を選ぶ回答が多数を占めることが理想であろう。その人が「男だから・女だから」という性別によって、各人の「らしさ」が決定・固定されることを阻止し、むしろ、個々人が、それぞれの価値観や得意分野にもとづいた本人自身の望みにしたがって、各人各様の「自分らしさ」を多彩に追求しうるように社会の条件整備—ダイバーシティ(多様性)—を進めることが、すなわち男女共同参画の最終目的である。にもかかわらず、市民に対して「男らしさ」「女の子らしさ」の内実を尋ねて回答を引き出し、その回答結果—「女の子は慎ましやかに、男の子は力強く」というステレオタイプ—を広く公的に発表することは、市民において「男らしさ・女らしさ」のイメージを再確認・再強化させてしまう危険性があるように感じられる。

調査の後半「第5章:人権の尊重について」においては、「問18」以降で「ドメスティック・バイオレンス(DV)」について質問している。夫婦間(事実婚や離婚後をふくむ)や恋人間で加えられる有形・無形の暴力を

いう。DVの具体的形態は、(a)身体的DV[殴る、蹴る、物を投げつけるなど]、(b)心理的DV[暴言をぶつける、なじる、無視するなど]、(c)性的DV[相手が嫌がっているのに性行為を強要するなど]、(d)社会的DV[パートナーの人間関係を制限・監視するなど]、(e)経済的DV[必要な生活費を渡さない、働きに出ることを許さない、など]に分類される。こうしたDV被害を受けた経験の有無について「問18」で訊いているが、女性の回答者のうち、9.4%が「(ア)命の危険を感じるくらいの暴行を受けた」経験があり、4.9%が「(イ)医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた」経験があるという結果であった。女性の5～10%が、生命に関わるような、あるいは治療を要するようなDV被害の経験があるという結果は、非常に深刻である(同時に、他の形態のDV被害も断じて軽視できないことは無論だ)。

さらにショッキングなのは、DV被害の経験のある回答者全体のうち、実に66.5%が誰にも相談しなかったと答えている点である(問18-A)。相談しなかった理由は、回答割合が多い順に「相談するほどのことではないと思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「自分が我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」「どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから」「世間体が悪い、恥ずかしいと思ったから」などが挙げられた(問18-C)。DV被害者の相談窓口は、鳥栖市役所内やアバンセ(佐賀県DV総合対策センター)など各所に用意されているが、それでもなお「どこ(誰)に相談してよいかわからなかったから」(全体9.5%、特に女性11.4%)や「相談しても無駄だと思ったから」(全体22.4%)という回答が見られることは、相談機関の所在やその機能・意義についての周知がまだ充分には行き届いていない可能性を示唆するものとして重大である。そのほかの相談しなかった理由についても、あくまで被害者の自己判断であり、自分が受けた被害を過小評価しようとした可能性や、世間全体にも被害者自身にもまだまだ残存する「被害者にも何らかの非(落ち度)があった、だから暴力を受けても、ある程度は仕方がなかったのではないか」とする誤解・偏見(本来は「加害者こそが端的に悪く、被害者には何ら責任は無い」と考えるべきである)が、外部に訴えること(相談)に対する「壁」になっている事情が控えているとも考えられることから、いっそうDV被害やその対策・救済に関する啓発活動に注力していく必要がある。

DVについて、以下2点を補足しておきたい。第一に、DV被害に遭った回答者のうち「相談しなかった」割合を男女別に見ると、女性の59.9%に対して、男性は80.3%と高かった。先に「男の子らしさ」を表わす言葉として「たくましい」「強い」「独立心」が多く挙げられたことを見ておいた。DV被害の相談をふくめ、一般に男性が自分の「悩み」や「弱み」を誰かに打ち明けようとするとき、男性に対して「男らしさ」として「たくましさ」「強さ」「独立心」を要求する社会的な風潮(ジェンダー)が、男性をして誰かに相談することは「男らしくない、恥だ」、「誰にも頼らずに自分ひとりで解決すべきだ」と思い込ませる(思い詰めさせる)ことにつながりやすく、結果的に状況を悪化させたり、問題解決を遅らせかねないことに留意しておきたい。第二に、佐賀県(というよりも九州地方の各県)については、全国的に見ても、女性の人工妊娠中絶率が高い傾向にある(各年度の厚生労働省「衛生行政報告例」参照)。中絶率の高さは、裏を返せば、避妊率の低さを示すものと考えられる。日本では(1999年に経口避妊薬「低用量ピル」の販売が解禁された後も)依然として「避妊＝男性がコンドームを装着すること」とされて男性主導の避妊法が一般的であるが、この点で「中絶率の高さ＝避妊率の低さ」は、男性が避妊に非協力的であるという背景があることも推測される。もし女性が望んでいるにもかかわらず、男性が避妊に協力しない(コンドームを着けようとしない)とすれば、これは明らかに前記の「性的DV」に該当する。この点に関連して「問15:あなたは、女性の体を保護するために、男女とも知っておいたほうがよいことは、どのようなことだと思いますか」という質問において、10%程度の差をつけて女性よ

りも男性の選択率が低かった項目として「妊娠中絶が母体に与える影響に関すること」「避妊に関すること」（ならびに「性感染症・エイズに関すること」）がある。男性における中絶や避妊についての関心や知識の少なさが、佐賀県（九州地方）の「中絶率の高さ＝避妊率の低さ」にも影響している可能性がある（なお、「性感染症・エイズ」の感染防止のためにも、コンドームの装着は有効策の一つである）。

IV. おわりに——男女間の意識差をいかに克服するか

以上、鳥栖市の「男女共同参画市民意識調査」について、評者（吉岡）なりの見解を述べてきた。以下の3点にしばって要点を確認しておきたい。

第一に、男女共同参画の進捗度を測るための基本指標とされる「性別役割分業意識（夫が外で働き、妻は家を守るべきだという考え方）を否定する『反対派』の比率」に関して、今回の鳥栖市の調査では、この「反対派」が66.4%（女性71.5%、男性62.0%）に達した。これは、内閣府の全国調査を上回る結果であり、まず特筆されるべきものである。

第二に、しかし他方で、この結果を無条件に称賛することはできないことについても、いくつかの調査結果に即して述べた。「女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい」という考え方については、これを否定する「反対派」は半数程度に留まっていた。また「男性／女性それぞれの、仕事／家庭への好ましい関わり方」を尋ねた質問からは、男女ともに「男性＝仕事優先」「女性＝家庭優先」というありかたを「好ましい」とする従来型の意識の存続が、明らかに認められる。さらに「男女にはそれぞれの役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」という考え方に至っては、実に75%を超える回答者が「賛成派」という結果であった。これらは、意識面においても、今なお性別役割分業意識からの脱却が充分には果たされていないことを示す結果である。このような人びとの意識のありようは、当然にしてその行動面にも影響せずにはおかない。掃除や洗濯、食事のしたくやあとかたづけといった日常的な家事は「ほぼ妻（母親）まかせ」という旧態依然とした家庭状況が調査結果から浮かび上がった。

第三に、家庭生活における家事・育児を「男性がどれくらい分担しているか？」という貢献度をめぐって、意識の男女差があることに着目した。すなわち、男性側は「家事・育児には、自分もそれなりに関わっている」という自己認識を抱いているが、女性側は「男性（夫）は自分で思っているほど、家で役立ってはいない」というように、男性の貢献度に対して低評価しか与えていない可能性を指摘した。

このような男女間の「分担意識のジェンダーギャップ」は、家庭生活における夫婦（パートナー）間の関係にとって当然に望ましくないし、むしろ深刻な家庭不和の要因にもなりうる。男性側には「自分は、自分なりに、ある程度、家事や育児を担っているつもりだ」という自負があるから、それに対して妻（パートナー）が感謝を示さなかったり、むしろ不満をこぼしたりすれば、逆に「自分（男性）もこれだけやっているのに、その態度は何だ！」と、憤怒をかき立てかねない。しかし、女性にしてみれば「たかだか『お手伝いレベル』の働きしかしていないくせに、さも『自分もちゃんとやってるぞ』とばかりに、偉そうにデカイ顔をされちゃ溜まらない！」という感情が爆発しないとも限らない。こうした認識の擦れ違いは「家庭生活における平等度」をめぐる男女間の「意識のジェンダーギャップ」にも表出している。男性の多くが、家庭における男女（夫婦）関係を「対等なもの（平等）」と考えているのに対して、女性の側は現在もなお「不公平感（男性優位だという腹立たしさ）」を募らせていることが、今回の意識調査から判明した。

では、男女間・夫婦間の意識の「溝」(ギャップ)には、どのようにすれば橋を架けわたせるだろうか。これには、ありきたりで愚直な方法ではあるが、結局のところ当事者間の「対話」によるほかはあるまいと考える。カップル間における家庭責任(家事・育児・介護など)の分担や、家庭と仕事との調整については、まずは当のカップル間において、じっくりと冷静に一現状に対する互いの不平不満やその解消策をふくめて一話し合われることが期待されるだろう。ここまでは、鳥栖市意識調査に即して、おもに夫婦を念頭に置いてきたが、ここで「カップル」と述べる場合には「法律婚／事実婚／交際中の、異性間または同性間のカップル」を広く想定するものとした。男女のパートナーからなる夫婦や恋人とともに、女性どうしのレズビアン・カップルや、男性どうしのゲイ・カップルにおいても「家庭責任の分担をどうするか、また、それと仕事との調整をいかに図るか？」という問題については、当然にカップル間の対話が要請されるからである。

当のカップル間での対話が何らかの事情で困難だという場合もありうる(たとえば、これまで長い年月を連れ添ってきた夫婦であればこそ、すでに両者間で自明視されている家事・育児等の役割分担をめぐって改まった話し合いをすることが却って難しいようなケースも少なくないだろう)。その場合には、直接のパートナーでは無しに、同じような境遇にある第三者との対話を通じて「気づき」を得るような手法も考えられるだろう。一例として、互いに無関係な男女間で、他人どうしの気安さを活かしながら、それぞれ女性(妻)もしくは男性(夫)の立場から、家庭生活に対する率直な意見を述べ合うためのグループワーク(集団討議)を行なう、というような方法が考えられる。このような意見交換の場を設けるについては、啓発活動の一環として、行政が関与しうる場面もあるだろう。

男女共同参画に関しては、家事分担をめぐり意識の男女差のほかにも、性別役割分業意識に対する「反対派」の多さと、実際の家事労働は女性(妻)に偏重しているという意識と行動との相反、男の子らしさ／女の子らしさのイメージの対照など、さまざまな「ギャップ」がある。このようなジェンダーにまつわる種々のギャップ—広義の「ジェンダーギャップ」—を少しずつでも埋めていくための重要な鍵とは、畢竟、男女間をはじめとした人びとのあいだの「対話」にほかならないのである。

V 資料編

男女共同参画社会の実現に向けた市民意識調査

【調査ご協力のお願い】

この調査は、男女共同参画に関するいろいろな問題について、市民の皆様の率直なお考えや現状などをお伺いし、今後のよりよい男女共同参画を推進するための基礎資料として活用するものです。

そこで、鳥栖市内にお住まいの20歳以上の方の中から、無作為に2,000人を抽出させていただいた結果、あなた様にこの調査をお願いすることになりました。

お答えいただいた内容は、すべて統計的な数値として処理した上で活用させていただきますので、個人の回答がそのまま発表されることは一切ありません。また、本調査の目的以外に使用することもありませんので率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ恐れ入りますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

平成28年8月 鳥栖市

《ご記入にあたってのお願い》

- ① この調査票は、封筒のあて名の方が調査の対象者となりますので、必ずあて名ご本人の方がご回答をお願いします。
- ② この調査票は、全部で14ページまであります。回答は、この調査票に直接ご記入ください。
- ③ 回答は、質問ごとに用意した選択項目の中から、あてはまる番号(1,2,3,...)に○印をつけてください。「その他」を選んだ場合は、その内容を具体的に()内にお書きください。
- ④ 回答数が「3つまで」といった場合は、○印の数は1つでも2つでも結構です。
- ⑤ ご記入いただいた調査票は、9月9日(金)までに 同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、郵送により返送してください。回答者様の氏名や住所を記入する必要はありません。

◆ 調査についてのお問い合わせ先

鳥栖市役所市民環境部市民協働推進課 男女参画国際交流係
 (電話) 0942-85-3508 (FAX) 0942-83-3310
 (E-mail) kyoudou@city.tosu.lg.jp

◆ 最初にあなたご自身のことについておたずねします

F1 あなたの性別は(○は1つ)

1. 女性	2. 男性	3. その他()
-------	-------	-----------

F2 あなたの年齢は(○は1つ)

1. 20歳代	3. 40歳代	5. 60歳代	7. 75歳以上
2. 30歳代	4. 50歳代	6. 70歳代	

F3 あなたは結婚されていますか ※事実婚を含む(○は1つ)

1. 結婚していない	3. 既婚(共働きでない)	5. 離婚
2. 既婚(共働きである)	4. 死別	6. その他()

F4 あなたの家族構成はどれですか(○は1つ)

1. ひとりで暮らし	4. 3世代世帯(親と子と孫)
2. 夫婦のみ	5. その他 具体的にお書きください
3. 2世代世帯(親と子)	()

F5 現在、同居するご家族に次にあげる方はおられますか(あてはまるものすべてに○)

1. 未就学児(小学生未満)	3. 高校生	5. 大学・短大生
2. 小・中学生	4. 専門学校生	6. 65歳以上の人

F6 鳥栖市に住んで何年になりますか(○は1つ)

1. 5年未満	3. 10年~19年
2. 5年~9年	4. 20年以上

F7 あなたの今の生活全般の満足度はいかがですか。(ア)から(ウ)の項目ごとにあてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。(イ)、(ウ)の事柄に該当されない方は、5に○をつけてください。

	満足している	いどちえはば満足	いどちえはば不満足	不満足である	該当しない
(ア) 女性(男性)として	1	2	3	4	
(イ) 母親(父親)として	1	2	3	4	5
(ウ) 妻(夫)として	1	2	3	4	5

◆結婚と家庭についておたずねします

問1 次のうち、あなたのご意見に近いものはどれでしょうか。

(ア)から(カ)の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	そう思う	思いは うそかと	どちらか は思わな い	どちらか は思わな い	そう ない は思わ ない
(ア) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	4
(イ) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	1	2	3	4	4
(ウ) 女性は結婚したら自分のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活したほうがよい	1	2	3	4	4
(エ) 結婚して子どもを産む、産まないの選択は夫婦が決めてよい	1	2	3	4	4
(オ) 結婚して、相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	4
(カ) 一般に、今の社会では離婚すると女性のほうが不利である	1	2	3	4	4

問2 あなたのご家庭では、次にあげるような日常的な事柄は、主にどなたの役割ですか。

(ア)から(サ)の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。また、(キ)～(サ)の事柄については、該当されない場合は、7に○をつけてください。

※F4で「ひとり暮らし」と答えた方は、次の問3へお進みください。

	主に妻・母親が行っている	妻・母親が行っている	両方同じ程度	夫・父親が行っている	どちらかかといえは	いる	主に夫・父親が行っている	その他の人	該当する人がいない
(ア) 掃除をする	1	2	3	4	5	6			
(イ) 洗濯をする	1	2	3	4	5	6			
(ウ) 食事のしたくをする	1	2	3	4	5	6			
(エ) 食事のあとかたづけをする	1	2	3	4	5	6			
(オ) 日々の家計支出の管理をする	1	2	3	4	5	6			
(カ) 高額な商品や土地、家屋の購入	1	2	3	4	5	6			
(キ) 子どもの世話・しつけをする	1	2	3	4	5	6			7
(ク) PTA活動、子どもクラブなどの活動へ参加する	1	2	3	4	5	6			7
(ケ) 親の世話(介護)をする	1	2	3	4	5	6			7
(コ) ふだんの近所づきあいをする	1	2	3	4	5	6			7
(サ) 自治会、老人クラブ、婦人会、安全・安心などの地域活動へ参加する	1	2	3	4	5	6			7

◆子育てと教育についておたずねします

問3 あなたは、子どものしつけや教育についてどのような考えをお持ちですか。

(ア)から(エ)の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

※現在お子さんのいらっしゃる方やらない方も、考えをお答えください。

	賛成	い え ば 成 成	どちらか は賛成	どちらか は反対	反対
(ア) 男女にはそれぞれ役割があるので、女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる	1	2	3	4	4
(イ) 女の子も男の子も、同等に経済的に自立できるように教育が必要だ	1	2	3	4	4
(ウ) 男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる	1	2	3	4	4
(エ) 男女の平等や一人一人の個性を生かすことを家庭で話し合うことが必要だ	1	2	3	4	4

問4 あなたは、「女の子らしく」、「男の子らしく」という表現から思い浮かぶキーワードは何ですか。次の(ア)、(イ)の項目ごとに、3つまで選んで○をつけてください。

(ア) 女の子らしく

1. たくましい	12. 自制心
2. 静か	13. ユーモア
3. やさしい	14. 独立心
4. 元気	15. 知性
5. 強い	16. 決断力
6. きれいな	17. 清らか
7. 勇気	18. かつこいい
8. 誠実	19. かわいい
9. 思いやり	20. 上品
10. 温かい	21. その他
11. ひかえめ	(具体的に)

(イ) 男の子らしく

1. たくましい	12. 自制心
2. 静か	13. ユーモア
3. やさしい	14. 独立心
4. 元気	15. 知性
5. 強い	16. 決断力
6. きれいな	17. 清らか
7. 勇気	18. かつこいい
8. 誠実	19. かわいい
9. 思いやり	20. 上品
10. 温かい	21. その他
11. ひかえめ	(具体的に)

問5 あなたは、男女共同参画社会づくりのために、小・中・高等学校における学校教育の中で、どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

1. 男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
2. 生活、進路指導に、男女の区別なく能力や個性を生かせるよう配慮する
3. 座席や名簿に男女を分ける習慣をなくす
4. 教員自身の男女共同参画の意識高揚の研修を行う
5. 校長や教頭に女性を増やす
6. 性暴力やセクハラを相談できる環境を整備する
7. 保護者会などを通じて、保護者に男女共同参画の啓発をする
8. その他（具体的に書きください）

問6 わが国では依然として少子化傾向が続いていますが、あなたは、その理由は何だと思えますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

1. 子育てのための経済的な負担が大きいため
2. 雇用の不安など、将来の暮らしに希望が持てないから
3. 出産・育児の肉体的・心理的な負担が大きいため
4. 親が子育てよりも自分達の生活を楽しまたいと考えているから
5. 女性が仕事をしながら子育てをするのが困難だから
6. 子育てを支援するためのサービス（保育所・児童クラブ等）が不足しているから
7. 夫の育児に対する協力が少ないから
8. 育児に対しての不安を持つ人や自信がない人が多いから
9. 子どもをとりまく社会環境に不安があるから
10. 晩婚化による年齢的な理由から
11. 生き方が多様化し、結婚・子育ての生活を選ばない人が増えたから
12. その他（具体的に書きください）

◆職業と健康についておたずねします

問7 あなたは現在、職業を持っていますか（パート、アルバイト、家業の手伝いも含みます。ただし、学生アルバイトは含みません）。次の中から1つを選び○をつけてください。

1. 職業を持っている → 問7-A、問7-Bへ
2. 以前、職業を持っていたが、現在は、職業を持っていない } 問7-C、問7-Dへ
3. 今まで職業を持ったことはない

問7で「1. 職業を持っている」とお答えの方にお聞きします

問7-A あなたは、どのような形態で働いていますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

1. 事業主
2. 正社員、正職員
3. 嘱託、契約社員
4. 派遣社員
5. パートタイム
6. アルバイト
7. 臨時、日雇い
8. SOHO(在宅でパソコンを使うなどして仕事を行うスタイルのこと)
9. 家業(お店や農林漁業など)の手伝い
10. その他(具体的に書きください)

問7-B あなたが現在、職業を持っているのは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

1. 生計を維持するため
2. 住宅ローンや借金を返すため
3. 将来にそなえて貯蓄するため
4. 経済的に自立するため
5. 自分の自由になるお金が欲しいから
6. 自分の能力、技術、資格を活かすため
7. 社会に役立ちたいから
8. 気持ちにハリを持ちたいから
9. 働くのは人間として当たり前だから
10. 生きたいを得たいから
11. 家業だから
12. その他(具体的に書きください)

問7で「2. 職業を持っていない」、「3. 職業を持ったことがない」とお答えの方にお聞きします

問7-C あなたが現在、職業についていないのは、どのような理由からですか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

1. 家事に従事しているから
2. 年をとったから、退職したから
3. 生活に困らないから
4. 自分の健康状態が思わしくないから
5. 家事・育児との両立が困難だから
6. 病人や老親などの介護があるから
7. 自分に適した仕事がないから
8. 働く場所がないから
9. 特に理由はない
10. その他(具体的に書きください)

問7-D あなたは今後、職業を持ちたいですか。

次の中から1つ選んで○をつけてください。

1. 今職業を探している
2. そのうち職業を持つつもり
3. 職業を持つつもりはない

問 8 あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

1. ずっと職業を持っているほうがよい
2. 結婚するまでは職業を持ち、あとは持たないほうがよい
3. 子どもができるまで職業を持ち、あとは持たないほうがよい
4. 子どもができたなら職業をやめ、子どもに手がつかなくなると再び持つほうがよい
5. 女性は職業を持たないほうがよい
6. その他（具体的にお書きください：）
7. わからない

問 9 あなたは、女性が職業を持ち続けることを困難にしていることがあるとすれば、それは何だと思えますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

1. 育児
2. 高齢者や病人の介護
3. 夫の転勤
4. 家事
5. 家族の理解や協力が得られないこと
6. 女性の能力が正當に評価されないこと
7. 仕事の内容にやりがいがないこと
8. 長く働けるような職場の条件・制度が不十分
9. 結婚、出産等により退職した女性の正社員としての再雇用制度が不十分
10. 昇進、教育訓練などでの男女の不公平な取扱い
11. ハラスメント（セクハラ、パワハラ、マタハラ等）
12. 女性は結婚や出産を機に辞めるのが当然という風潮があること
13. 女性にはできない仕事が多いという考え
14. その他（具体的にお書きください：）
15. 特になし

問 10 あなたは、職場の男性または女性が育児休業を取得するとしたら、あなたはどよう思いますか。次の中から1つ選んで○をつけてください。

1. 男性も女性も取得して欲しい
2. 女性は取得したほうがよいが、男性が取得することには違和感がある
3. 男性は取得したほうがよいが、女性が取得することには違和感がある
4. 業務への影響などを考えると、男性も女性もできれば取得しないで欲しい
5. 現在、仕事をしていないのでわからない
6. わからない
7. その他（具体的にお書きください：）

問 11 男性の育児休業や介護休業が進まない現状にありますますが、それほどのような理由からだと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

1. 自分の仕事の代わりをしてくれる人がいないから
2. 同僚の理解が得られないから
3. 上司の理解が得られないから
4. 収入が減るから
5. 人事評価や昇給に影響があると思うから
6. 休む必要がないから
7. 育児・介護に自信がないから
8. 育児休業や介護休業の取得の前例がないから
9. 男性が取るのは恥ずかしいから
10. わからない
11. その他（具体的にお書きください：）

問 12 あなたは男性、女性それぞれの仕事と家庭の関わり方は、どのような形が好ましいと思いますか。(ア)、(イ)それぞれに、次の中から1つずつ選んで○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| <p>(ア) 男性の関わり方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主に仕事を優先する 2. どちらかといえば仕事を優先する 3. 仕事と家庭に同程度かかわる 4. どちらかといえば家庭を優先する 5. 主に家庭を優先する | <p>(イ) 女性の関わり方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主に仕事を優先する 2. どちらかといえば仕事を優先する 3. 仕事と家庭に同程度かかわる 4. どちらかといえば家庭を優先する 5. 主に家庭を優先する |
|---|---|

問 13 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのような条件が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

1. 給与等の男女間格差をなくすこと
2. 年間労働時間を短縮すること
3. 男性の家事・育児への参加を促進すること
4. 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること
5. 育児休業・介護休業中の賃金その他を充実すること
6. 育児休業・介護休業の取得が、その後の給与や職場の地位に不利益とならないようにすること
7. 地域や職場内の保育施設の充実や保育時間の延長など、保育サービスを向上すること
8. 育児や介護のために退職した職員をもとの会社で再雇用する制度を導入すること
9. 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
10. 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
11. その他（具体的にお書きください：）

問 14 男性にお聞きします。あなたは、日常生活の中で「男もつらい」と感じたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 妻子を養うのは男の責任だと言われたこと
2. 男なのに酒が飲めないのかとからかわれたこと
3. 仕事の責任が重く、仕事ができなくて当たり前前だと言われたこと
4. 力が弱い、運動が苦手だとからかわれたこと
5. その他（具体的にお書きください）
6. 特になし

問 15 あなたは、女性の体を保護するために、男女とも知っておいたほうがよいことは、どのようなことだと思えますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 妊娠・出産に関すること
2. 更年期障害・婦人科疾患に関すること
3. 性感染症・エイズに関すること
4. 妊娠中絶が母体を与える影響に関すること
5. 避妊に関すること
6. 不妊症に関すること
7. その他（具体的にお書きください）

◆社会参加についておたずねします

問 16 あなたは、次のような地域社会活動に参加していますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 自治会、老人クラブ、婦人会、安全・安心などの地域活動
2. P T A活動、子どもクラブなどの青少年育成活動
3. 趣味、教養、スポーツなどのサークル活動
4. 福祉、環境保全、国際交流などのボランティア活動
5. 共同購入などの消費生活活動
6. 男女共同参画を学習する会や男女共同参画に関する活動
7. その他（具体的にお書きください）
8. 何も参加していない → 問 16-Aへ

問 16 で「8.何も参加していない」とお答えの方にお聞きします

問 16-A あなたが地域社会活動に参加していない理由は何ですか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。

1. 家事が忙しくて時間がないから
2. 手がかかる子どもがいるから
3. 一緒にやる友人がいないから
4. 家族の理解、協力が得られないから
5. 仕事で忙しくて時間がないから
6. 健康的・体力的に自信がないから
7. 人間関係がわずらわしいから
8. 自分に適した活動が見つからないから
9. 近くに適当な施設、場所がないから
10. 経費がかかるから
11. あまり関心がないから
12. その他（具体的にお書きください）

◆人権の尊重についておたずねします

問 17 あなたは、セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）だと感じることを経験されたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 恋愛や結婚について聞かれた
2. 年齢や容姿のことで不愉快な冗談を言われた
3. 不必要に体をさわられた
4. 宴会やお酌やデューエットを強要された
5. 体をじろじろ見られた
6. その他（具体的にお書きください）
7. 特になし

問 18 あなたは今までに、配偶者や恋人※から、次のような行為をされた経験がありますか。
 (ア)から(コ)の項目ごとに、あてはまる番号を「1」つずつ選んで○をつけてください。

※婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者
 や元恋人も含みます。

こと がある	何 度も 経験 した	な どが ある	一、二 度 経験 し	ま た く な い
(ア) 命の危険を感じるぐらいの暴行を受けた	1	2	3	3
(イ) 医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	1	2	3	3
(ウ) 医師の治療が必要とならない程度の暴行を受けた	1	2	3	3
(エ) いやがっているのに性的な行為を強要された	1	2	3	3
(オ) 見たくないのにポルノビデオ・雑誌を見せられた	1	2	3	3
(カ) 何を言っても無視され続けた	1	2	3	3
(キ) 交友関係や電話(携帯電話)を細かく監視された	1	2	3	3
(ク) 「誰のおかげで生活できるんだ」とか 「かいしやうなし」と言われた	1	2	3	3
(ケ) 大声でどなられたり、暴言を吐かれた	1	2	3	3
(コ) 生活費をわたさないなど、経済的におさえつけ られた	1	2	3	3

問 18-A へ 問 19 へ

問 18 で「経験したことがある」とお答えの方にお聞きます

問 18-A その時誰かに相談しましたか。次の中から「1」つ選んで○をつけてください。

- 相談した
- 相談しなかった

※1を選ばれた方 問 18-B へ

※2を選ばれた方 問 18-C へ

問 18-A で「1. 相談した」とお答えの方にお聞きます

問 18-B そのときの相談先はどちらでしたか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

- アバンセ
(佐賀県DV総合対策センター)
- 民間の相談機関
(被害者支援ネットワーク佐賀 VOISS 等)
- 婦人相談所
- 法テラス
- 警察
- 法務局
- 果の保健福祉事務所
- 市の福祉事務所
- 市役所の相談窓口
9. 民間の相談機関
(被害者支援ネットワーク佐賀 VOISS 等)
- 性暴力教育センター・さが (さが mirai)
- 医療機関 (病院・診療所)
- 家族
- 友人
- その他 具体的に書きください
〔 〕

問 18-A で「2. 相談しなかった」とお答えの方にお聞きます

問 18-C それはなぜですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

- 相談するほどのことではないと思ったから
- 自分にも悪いところがあると思ったから
- 自分が我慢すれば、何とかやっていたらと思ったから
- 相談しても無駄だと思ったから
- 世間が悪い、恥ずかしいと思ったから
- 相手の行為が愛情表現だと思ったから
- どこに(誰に)相談してよいかわからなかったから
- 相談したことが分かった時の仕返しが怖いから
- 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
- その他 (具体的にお書きください)

問 19 あなたは、性犯罪、売買春、ドメスティック・バイオレンス(配偶者や恋人からの暴力)、セクシュアル・ハラスメント等による被害をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

- 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
- 家庭で保護者が子どもに対して暴力をふるうことを防止するための教育や防止支援プログラムでの指導をおこなう
- 暴力を防止するための教育を、学校で児童・生徒・学生に対しておこなう
- 加害者への罰則を強化する
- 警察による介入・指導を強化する
- 暴力を助長するおそれのある情報(テレビ番組、雑誌、コンピューターソフト等)の取締りを強化する
- 暴力を振るったことのある者に対し、再発防止のための教育をおこなう
- メディアを活用した広報・啓発活動を強化する
- 被害者を発見しやすい立場にある学校・警察や医療関係者などに対する研修や啓発をおこなう
- 地域で、暴力を防止するための研修会やイベントなどを実施する
- その他 (具体的にお書きください)
- 特に対策の必要はない

◆男女共同参画社会についておたずねします

問 20 あなたは、男女共同参画に関する次のような用語を、ご存じですか。(ア) から (ケ) の項目ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

内容を知っている	1	2	3	4	5
(ア) 男女共同参画社会基本法	1	2	3		
(イ) 男女雇用機会均等法	1	2	3		
(ウ) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV防止法)	1	2	3		
(エ) 育児・介護休業法	1	2	3		
(オ) ジェンダー (社会的文化的につくられた性差)	1	2	3		
(カ) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	1	2	3		
(キ) ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3		
(ク) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	1	2	3		
(ケ) 女性の職業生活における活躍の推進に関する法律 (女性活躍推進法)	1	2	3		

問 21 あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア) から (ク) の分野ごとに、あてはまる番号を1つずつ選んで○をつけてください。

	女性の方が優遇されている	どちらかといえれば女性の方が優遇され	平等	どちらかといえれば男性の方が優遇され	男性の方が優遇されている
(ア) 家庭生活	1	2	3	4	5
(イ) 職場	1	2	3	4	5
(ウ) 学校教育の場	1	2	3	4	5
(エ) 地域活動・社会活動の場	1	2	3	4	5
(オ) 政治の場	1	2	3	4	5
(カ) 法律や制度の上	1	2	3	4	5
(キ) 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
(ク) 社会全体	1	2	3	4	5

問 22 あなたは、政治や行政、企業などの様々な分野において、管理職等への登用など企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。

次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 女性自身が、社会進出に対して積極性が不十分だから
2. 家族、職場、地域において、性別役割分担や女性差別の意識があるから
3. 家族の支援や協力が得られないから
4. 女性の能力開発の機会が男性に比べ不十分だから
5. 男性中心の組織運営だから
6. 女性の能力に対する偏見があるから
7. 女性の参画を積極的に進めようと思っていない人が少ないから
8. 企業経営者や団体・機関などのトップの意識が不十分だから
9. 長時間労働を美徳としている風習があり、女性が長時間働くのは難しいから
10. その他 (具体的にお書きください)
11. わからない

問 23 あなたは、鳥栖市が取り組んでいる男女共同参画に関する施策をご存じですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 鳥栖市男女共同参画行動計画	3. 男女共同参画セミナー
2. 男女共同参画フォーラム	4. 女性人材リストの整備

問 24 あなたは、男女共同参画社会づくりを進めるために、鳥栖市は今後何に力を入れるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 男女共同参画社会基本法に基づいて市の条例を制定する
2. 男女共同参画推進のための市民が集える活動拠点を作る
3. 審議会など行政の政策や方針決定の場に女性を多く登用する
4. 学校で男女平等意識を育てるなど、人権教育を充実する
5. まちづくり推進センターなど社会教育の場での男女平等教育を充実する
6. 各種団体や地域で活躍する女性リーダーを養成する
7. 女性や男性のための相談窓口を設置し、相談機能を充実する
8. 男性の家事能力を高めるための場を提供する
9. 育児休業、介護休業、再雇用制度などを充実する
10. 保育の施設・サービスや、高齢者・病人の施設や介護サービスを充実する
11. 経営者・事業主に雇用機会や労働条件面で男女平等を啓発する
12. 経営者等に男性が家事や地域活動に参加できるよう労働時間の短縮を働きかける
13. 女性の就労の機会を増やし、職業教育や職業訓練を充実する
14. 男女共同参画について啓発・討議する講座や講演会を開催する
15. その他 (具体的にお書きください)
16. 特になし

この言葉の意味を知っていますか？

【ご意見、要望等のご記入欄】

女性問題や男女共同参画社会についてのご意見やご要望等がありましたら、下記にご自由に記入してください。

お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございます。

同封の返信用封筒にこの調査票をお入れいただき、

9月9日（金）までに郵便ポストに投函してください。

返信用の封筒には切手は貼らなくて結構です。

リアラクティブ・ヘルツ/ライツ

（性と生殖に関する健康と権利）

女性が自らの身体について自己決定を行い健康を享受する権利をいいます。1994年カイロで開催された国連の国際人口・開発会議において提唱された考え方で、男女が共に持つ権利ですが、とりわけ女性の重要な人権とされています。いつ何人子供を生むか生まないかを選ぶ自由等が含まれます。

ジェンダー

生まれる前に決定される生物学的な性の違いに対して、出生後に周囲と関わりながら育つ中でこちあるべき身についた性差観念を「ジェンダー」（社会的な性差）といいます。日常生活の中で期待される「男らしさ、女らしさ」とか、「男は仕事、女は家庭」などの性別による固定的な役割分担意識もこのジェンダーの一部です。

ドメスティック・バイオレンス(DV)

夫婦など親密な関係にある男女（パートナー）間において、主に男性から女性に加えられる身体的・精神的・性的な暴力を指します。物理的な暴力だけでなく、脅し、罵り、無視、言動の制限・強制、苦痛を与えることなども含まれた概念です。この問題は、人権侵害であり、決して許されなれない犯罪行為です。また、次世代に引き継がれやすい社会問題であると認識することが必要です。

デートDV

恋人の関係で起こるドメスティック・バイオレンスを、デートDVといえます。好きで付き合っているにもかかわらず、その関係が暴力で支配されていることがあり、若者の将来に大きな影響を与えます。内閣府が行った調査によると、約10人に1人は「交際相手から被害を受けたことのある」という結果になっています。また、恋愛が低年齢化することによって、中学生・高校生・大学生などにおいても広がっています。

セクシュアル・ハラースメント

相手の意に反した性的な性質の言動で、身体への不必要な接触、性的関係の強要など、様々な態様のものが含まれます。特に雇用の場においては、「相手の意に反した、性的な性質の言動を繰り返すことによって就業環境を著しく悪化させること」と考えられています。

女性のエンパワーメント

女性が自らの意識と能力を高め、家庭や地域、職場など社会のあらゆる分野で、政治的、経済的、文化的な力をつけるとともに、それを発揮し、行動していくことをいいます。第4回世界女性会議の北京宣言及び行動綱領では、この「女性のエンパワーメント」が真の男女平等を達成する上で不可欠なキーワードであることが示されています。

ワーク・ライフ・バランス

国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できる社会のことをいいます。また、仕事と私生活の両方を充実させることで相乗効果を高めようとする考え方やそのための取組のことを指します。

LGBT（性的少数者）

先天的に身体上の性別が不明瞭な性分化疾患の人、身体上の性別と心の性が異なる性同一性障害の人、ならびに、恋愛の意識が同性や同性に向かう同性愛者や両性愛者などをいいます。日本でも、約20人に1人はLGBTだと言われています。正しい理解を深め、家庭や社会で個人がお互いを尊重し大切に出来る環境を整えることが必要です。

